

# 授 業 計 画

令和 6 年度版

26 期生

学校法人 行岡保健衛生学園  
行岡医学技術専門学校  
看護第 1 学科

令和6年度 行岡医学技術専門学校 看護第1学科 学事計画表

3年 実習日

基礎実習Ⅱ

基礎実習Ⅰ-①  
1-② 1年

成人・老年・母性実習  
2年

令和6年6月21日 作成 時間適用

2024年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2025年	1月	2月	3月
1	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
2	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
3	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
4	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
5	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
6	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
7	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
8	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
9	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
10	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
11	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
12	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
13	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
14	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
15	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
16	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
17	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
18	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
19	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
20	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
21	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
22	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
23	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
24	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
25	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
26	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
27	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
28	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
29	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
30	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
31	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
1年実習計	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
2年実習計	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
3年実習計	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
11	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16

191	11	7	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
198	11	0	17	0	14	0	15	0	15	0	15	0	15
160	11	9	3	0	20	0	22	0	22	0	22	0	22
36	0	8	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
96	4	1	19	0	11	0	22	0	22	0	22	0	22
94	0	5	4	1	4	1	18	17	17	17	17	17	17
190	4	0	14	0	22	0	22	0	22	0	22	0	22

# 行岡保健衛生学園

## 建学の精神・理念

### 「協同」・「適応力豊かな医療人の育成」

行岡保健衛生学園は、昭和7年設立され、90年近くの歴史を誇っております。

これまで、医療従事者間の「協同」によってはじめて質の高い医療が提供できるという理念の基、その時代時代に要求される医療従事者を育成してきました。

創設時からの建学の精神を礎としてさらに発展させ、患者様、家族、地域社会に対してよりよく幅広く適応することを目的に、「適応力豊かな医療人を育成」していきます。

### 教育目的

本校教育基本法、学校教育法に定める専修学校にして、医療専門課程を置き、看護学に関する理論と実地技能を教え、兼ねてその品性を陶冶し、有為な看護師を養成して、人類の福祉に寄与することを目的とする。

### 教育目標

1. 人間を成長・発達・変化している身体的・精神的・社会的・霊的(スピリチュアル)に統合した存在として幅広く理解する能力を養う。
2. 対象を中心とした看護を提供するために、看護師としての人間関係を形成するコミュニケーション能力を養う。
3. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場に立った倫理に基づく看護を実践する基礎的能力を養う。
4. 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を養う。
5. 健康の保持・増進、疾病の予防及び回復に関わる看護を、健康の状態やその変化に応じて実践する基礎的能力を養う。
6. 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割及び他職種の役割を理解し、多職種と連携・協働しながら多様な場で生活する人々への看護を提供する基礎的能力を養う。
7. 専門職業人として地域の健康問題に目を向け、最新知識・技術を自ら学び続け、看護の質向上を図る基礎的能力を養う。

	1学年	2学年	3学年	
1	<p>人間を成長発達させている身体的・精神的・社会的・文化的（スピリチュアル）に依存された存在として捉え、幅広く理解する能力を養う。</p> <p>○人間の基本的ニーズを理解する。 ○地域との関係・生活者としての人間を理解する。 ○看護の場と対象のニーズを理解する。</p>	<p>○人間の持つ個別性を理解できる。</p> <p>○人間の生命の尊厳について考えることができる。</p>	<p>○生物学的・心理学的・社会的・スピリチュアルな側面から人間を捉え全人的存在として理解する。</p> <p>○人間と生活・社会を幅広く理解できる教養を修得し、豊かな感性と人間性を養っている。</p>	<p>心理学 人間関係論 社会学 教育学 宗教学 文化人類学 栄養学 生化学 解剖生理学 I～IV 東洋医学論 地域とくらし 地域在宅看護論 家族看護 専門領域</p>
2	<p>対象を主体とした看護を実践するため、看護職としての人間関係を形成するコミュニケーション能力を養う。</p>	<p>○個別コミュニケーション方法を振り返り、対象との関係を理解する。</p> <p>○人間に対する優しさや距離をも、他者とアサーティブな関係性を築くことができる。</p>	<p>○人間の多様な価値観、生き方を尊重し、人間関係を形成するコミュニケーション能力を養う。</p> <p>○人間に対する優しさや距離をも、他者とアサーティブな関係性を築くことができる。</p> <p>○生命に対する深い共感の念と人間性を基盤にし、成長で公平な倫理的判断力を持った看護の実践ができる能力を養う。</p>	<p>心理学 人間関係論 社会学 英語 情報科学 社会学 カウンセリング理論と技法 倫理学 医学英語 I 医学英語 II 教育学 倫理学 人間関係論 専門分野</p>
3	<p>看護職としての役割を互換し、対象の立場に立った、倫理に基づき看護を実践する基礎的能力を養う。</p>	<p>○看護の概念について理解する。</p> <p>○看護の倫理観を理解し、自分の行動として考えることができる。</p> <p>○看護学生に必要な社会基礎力を身に付ける。 ○他者の意見を尊重して聞くことができる。</p>	<p>○対象の立場（健康・病状・治療）や変化に気づき、相違項目や優先順位を考慮、アセスメント・表現できる。</p> <p>○対象との関係の問題を解決するために、科学的思考に基づいた看護実践ができる。</p> <p>○看護実践したことをリフレクションでできる能力を養う。</p>	<p>看護学 薬理学 微生物学 病理学 看護学 疾病看護論 I～IV 公衆衛生学 臨床検査 薬物療法と看護 臨床判断（フィジカルアセスメント） 専門分野</p>
4	<p>科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な基礎的能力を養う。</p>	<p>○看護実践に必要なリフレクションについて学習し自己の行動の特性を理解する。</p> <p>○アセスメントに必要な情報収集が理解できる。</p> <p>○対象等に援助の提供を説明し、実践できる。</p>	<p>○あらゆる知識・技能、価値観がある対象に、理論を活用し、根拠に基づいた看護実践ができる能力を養う。</p> <p>○ケアにおける倫理・法規・医療・福祉・福祉チームにおいて看護の機能と役割を果たすことができる能力を養う。</p>	<p>看護学 微生物学 病理学 薬理学 疾病看護論 I～VI 公衆衛生学 生化学 臨床検査 臨床検査 薬物療法と看護 臨床判断（フィジカルアセスメント） 専門分野 災害看護 国際看護</p>
5	<p>看護・医療・福祉システムにおける自分自身の役割及び関係にかかわる看護を、健康の状況やその変化に応じて実践する基礎的能力を養う。</p>	<p>○看護の概念について理解する。</p> <p>○看護の目標を理解する。</p> <p>○健康の状況に応じて必要となる看護技術の基礎を身に付ける。</p>	<p>○多職種連携における看護職の役割について深く理解し、他職種と協働できる。</p> <p>○地域における、保健・医療・福祉・福祉チームにおいて看護の機能と役割を果たすことができる能力を養う。</p> <p>○クラスや、グループにおけるチームの一人として協働できる。</p> <p>○主体的・積極的に看護できる。</p>	<p>看護学 公衆衛生学 社会福祉学 関係法規 多職種連携 災害看護 国際看護 専門分野</p>
6	<p>看護・医療・福祉システムにおける自分自身の役割及び関係にかかわる看護を、健康の状況やその変化に応じて実践する基礎的能力を養う。</p>	<p>○看護の組織・役割・看護を理解する。</p> <p>○健康・医療・福祉システムについて理解し、地域における看護職に求められる役割を説明する。</p> <p>○学校行事やクラス運営を通して、リーダーシップ、メンバーシップを身に付ける。</p> <p>○学校生活及び看護実践の実践において看護学生に必要な社会基礎力を理解する。</p> <p>○看護実践を通して、目指す看護実践を表現する。</p> <p>○日々の学習行動を振り返り、自己の学習課題がわかる。</p>	<p>○看護実践における看護職の役割について深く理解し、他職種と協働できる。</p> <p>○地域における、保健・医療・福祉・福祉チームにおいて看護の機能と役割を果たすことができる能力を養う。</p> <p>○クラスや、グループにおけるチームの一人として協働できる。</p> <p>○主体的・積極的に看護できる。</p> <p>○看護実践において主体的・積極的に取り組む。</p> <p>○看護実践を通して、目指す看護実践を表現する。</p> <p>○日々の学習行動を振り返り、自己の学習課題がわかる。</p>	<p>看護学 公衆衛生学 社会福祉学 関係法規 多職種連携 災害看護 国際看護 専門分野</p>
7	<p>専門職人として看護の専門職に自ら向け、基礎知識・技術を自ら学び続け、看護の質の向上を図る能力を養う。</p>	<p>○看護実践における看護職の役割について深く理解し、他職種と協働できる。</p> <p>○地域における、保健・医療・福祉・福祉チームにおいて看護の機能と役割を果たすことができる能力を養う。</p> <p>○クラスや、グループにおけるチームの一人として協働できる。</p> <p>○主体的・積極的に看護できる。</p> <p>○看護実践において主体的・積極的に取り組む。</p> <p>○看護実践を通して、目指す看護実践を表現する。</p> <p>○日々の学習行動を振り返り、自己の学習課題がわかる。</p>	<p>○看護実践における看護職の役割について深く理解し、他職種と協働できる。</p> <p>○地域における、保健・医療・福祉・福祉チームにおいて看護の機能と役割を果たすことができる能力を養う。</p> <p>○クラスや、グループにおけるチームの一人として協働できる。</p> <p>○主体的・積極的に看護できる。</p> <p>○看護実践において主体的・積極的に取り組む。</p> <p>○看護実践を通して、目指す看護実践を表現する。</p> <p>○日々の学習行動を振り返り、自己の学習課題がわかる。</p>	<p>看護学 公衆衛生学 社会福祉学 関係法規 多職種連携 災害看護 国際看護 専門分野</p>

教育目標と設定した関連科目・教育内容の関連

教育目標	関連科目・教育内容
1. 人間を成長・発達・変化している身体的・精神的・社会的・霊的(スピリチュアル)に統合した存在として幅広く理解する能力を養う。	心理学 人間関係論 社会学 教育学 家族論 文化人類学 栄養学 生化学 解剖生理学 I～IV 東洋健康科学 地域と暮らし 地域在宅看護論 家族看護 専門領域
2. 対象を中心とした看護を提供するために、看護師としての人間関係を形成するコミュニケーション能力を養う。	心理学 人間関係論 国文学 英語 情報科学 社会学 カウンセリング理論と技法 論理学 英語 I 英語 II
3. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場に立った倫理に基づき看護を実践する基礎的能力を養う。	教育学 倫理学 人間関係論 専門分野
4. 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を養う。	論理学 薬理学 微生物学 病理学概論 疾病治療論 I～IV 公衆衛生学 臨床検査 薬物療療法と看護 臨床判断(フィジカルアセスメント) 専門分野
5. 健康の保持・増進、疾病の予防及び回復に関わる看護を、健康の状態やその変化に応じて実践する基礎的能力を養う	薬理学 微生物学 病理学概論 疾病治療論 I～VI 公衆衛生学 臨床検査 健康支援論 薬物療療法と看護 周手術期の看護 臨床判断(フィジカルアセスメント) 専門分野 災害看護・国際看護
6. 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割及び他職種との役割を理解し、多職種と連携・協働しながら多様な場で生活する人々への看護を提供する基礎的能力を養う。	医療概論 公衆衛生学 社会福祉学 関係法規 多職種連携 災害看護・国際看護 専門分野
7. 専門職業人として地域の健康問題に目を向け、最新知識・技術を自ら学び続け、看護の質向上を図る基礎的能力を養う。	看護研究 看護研究演習 地域・在宅看護論 多職種連携 公衆衛生学

看護教育における主要概念と関連科目・教育内容

主 要 概 念	関連科目・教育内容
<p>人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間は環境と相互に作用しながら絶えず成長・発達・変化している身体的・精神的・社会的・霊的統合体である。</li> <li>・人間は、多くの細胞の集合である組織、組織の集合である器官(臓器)とこれの集合である系を成して、一つの生命体として存在している。</li> </ul> <p>この生命体としての人間は、誕生から死に至るまで、身体の外的環境が変化しても形態や機能を一定の状態に保とうとする恒常性があり、生命を維持しようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間は、自分の意志を言葉で表現できる唯一の生物であり、思考するという高度で、かつ複雑な精神機能をもつ。</li> <li>・人間は、感情をもち直観的に心に深く感じることのできる感性と、観念による心的活動として快・不快の意識をもつ。</li> <li>・人間は尊厳を維持し、健康で幸福であることを願っている。</li> <li>・健康を享受することは人間の基本的権利である。</li> <li>・人間は共通の基本的欲求をもっており、その欲求は固有で個別的である。</li> <li>・人間は、生命ある限り自己が他者に働きかけようとする能動的欲求をもつ。一人として同じではない人間は、各自が違った役割をもちながら社会を構成し、一人一人が十分に自己実現を果たすことにより、より良く生きようとする。</li> <li>・人間は、社会の中で、その所属する家族・集団・地域・国家と相互に関係をもちながら生活を営む。</li> </ul> <p>間</p>	<p>心理学 社会学 人間関係論 教育学 倫理学 家族論 文化人類学 東洋健康科学 解剖生理学 栄養学 生化学</p> <p>基礎看護学 母性看護学 小児看護学 成人看護学 老年看護学 精神看護学</p> <p>専門分野 臨地実習</p>
<p>健</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康は、身体的、精神的、社会的なバランスのとれた状態である。</li> <li>・健康は、その人が幸福感に満たされたその人らしい生活を送り、自分の能力を最大限に発揮できる状態である。</li> </ul> <p>健康水準は、健康群、健康支援群、疾病予備群、疾病自己管理群、積極的治療群、クリティカルケア群、リハビリテーション群、ターミナルケア群の8つに区分できる。</p> <p>康</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康に関する認識は、個人により異なり、その時代の文化や価値観によっても変化する。</li> </ul>	<p>倫理学 社会学 東洋健康科学 医療概論 社会福祉 解剖生理学 基礎看護学 小児看護学 母性看護学 成人看護学 老年看護学 精神看護学 地域・在宅看護論 臨地実習</p>

## 看護教育における主要概念と関連科目・教育内容

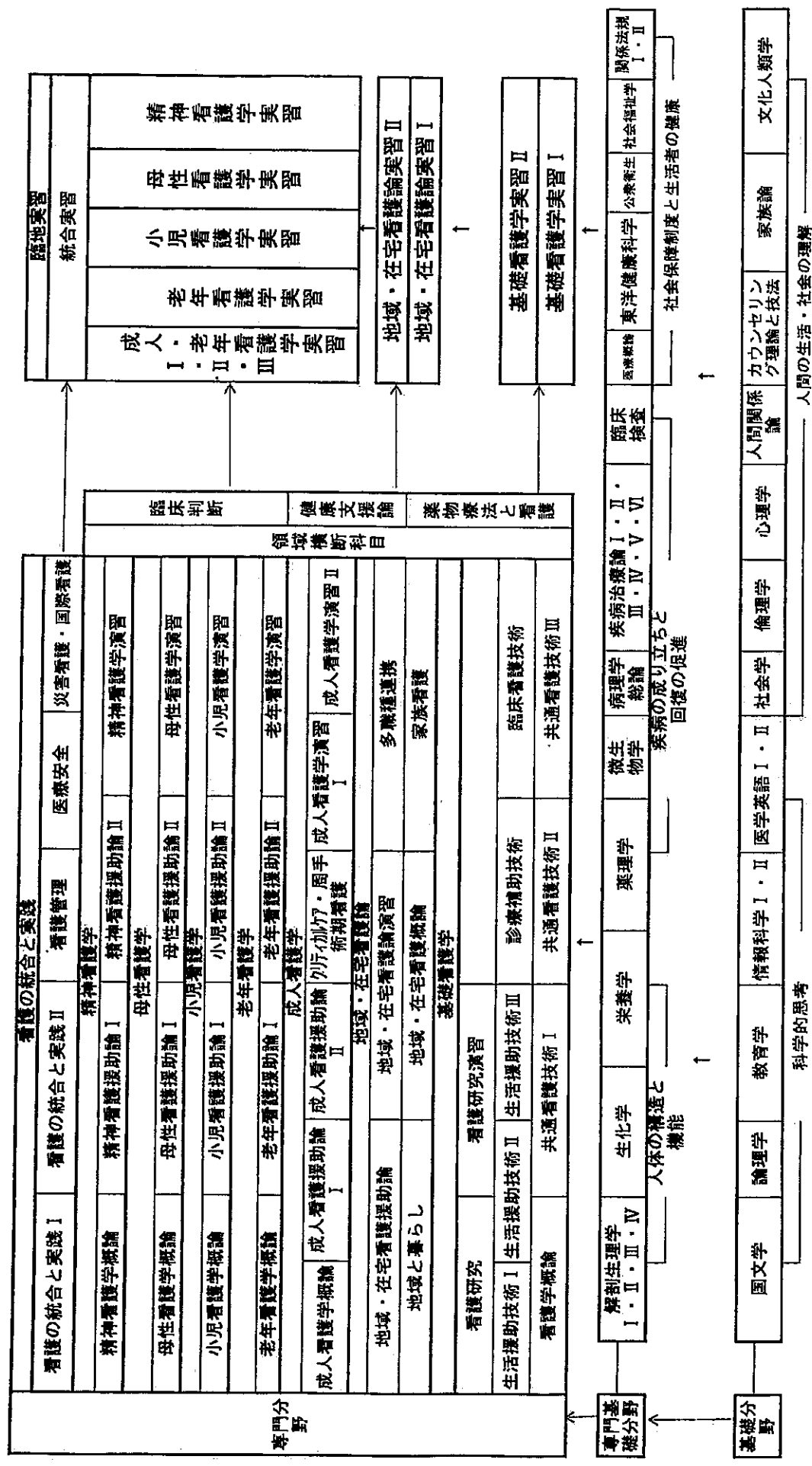
主 要 概 念		関連科目・教育内容
環 境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境は内部環境と外部環境に分類される。 外部環境は生命と発達に影響するあらゆる自然、社会、文化で周囲にあるものである。</li> <li>・環境と人間は、それぞれ独自に存在するのではなくお互いに影響しあっている。 社会は、それぞれ役割機能を持った個人の集合で成り立っており、個人、家族、地域、国、民族から構成されている。</li> <li>・地球の温暖化、プラスチックによる海洋汚染、情報化社会などにより災害・事故が増加し人間の生活が脅かされている。</li> </ul>	社会学 人間関係論 文化人類学 教育学 家族論 情報科学 生化学 微生物学 社会福祉学 倫理学 公衆衛生 関係法規 専門分野 臨地実習
看 護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護はあらゆる発達段階の個人・家族・集団・地域を対象として、健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を行い、生涯を通してその最後まで その人らしい生を全うできるように援助を行う。</li> <li>・看護は、人間愛を基盤として人間対人間の関わりのなかで、展開される実践の科学である。</li> <li>・看護は対象の持てる力を最大限に活用し、生活の自立を支援する活動である。</li> <li>・看護者は、看護職の免許により看護を実践する権限を与えられている。その社会的な責務を果たすために、看護の実践にあたっては、人々の生きる権利、尊厳を受ける権利、敬意のこもった看護を受ける権利、平等な看護を受ける権利など人権を尊重することが求められる。</li> <li>・効率的・効果的な看護ケアを提供するために看護ケア・看護サービスのマネジメントが求められる。</li> </ul>	人間関係論 カウンセリング理論 文化人類学 倫理学 東洋健康科学 解剖生理学 臨床検査 病理学総論 疾病治療論 健康支援論 臨床判断(フィジカルアセスメント) 周手術期の看護 薬物療法の看護 専門分野 臨地実習 災害・国際看護 多職種連携 医療安全 看護管理

<p>学 習  教 育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育とは、人間性を育む営みであり、人間の成長する力を支える。</li> <li>学ぶ者と教える者との相互作用のなかで共に変容していく過程である。</li> <li>・教育とは、学ぶ者の問題意識、主体性を引き出すための意図的、系統的な働きである。</li> <li>・学習は、教育の場のみではなく、学ぶ者の主体性により、生涯にわたり常に存在する。</li> <li>・教育内容は、社会のニーズにより影響を受ける。</li> </ul>	<p>国文学 教育学 英語 論理学 情報科学 倫理学 専門分野 臨地実習</p>
---------------------------------	--	--



# 教育課程構造図 (R4-)

行岡医学技術専門学校 看護第1学科



教育課程

行岡医学技術専門学校 看護第1学科

No.1

教育内容	学科目	単位	時間数	教育内容・ねらい	
基礎分野	科学的思考の基盤	国文学	1	30	国文学の世界に触れることは、日本の文化や社会を知り、他者への理解を深め、現代を生きる自分自身を考えることにつながる。日本文学や日本語について学び、話す力・聞く力・読む力を身につける。
		論理学	1	30	看護職者に必要な論理的思考を育成する。論理的思考の定型を身につける。
		教育学	1	30	対人援助の専門家として、人権保障の観点から、人々が抱える困難と環境の連関を学ぶことをねらいとする。また、学び続けること、他者の立場を想像し続けることの重要性について理解を深める。
		情報科学Ⅰ	1	30	情報化社会における情報処理の基本的な考え方、処理方法を理解し、コンピューターによる処理方法を看護活動に活かす。
		情報科学Ⅱ	1	15	収集した情報を取りまとめ、コンピューターを使って表現する方法の基本を習得し、看護活動に活かす。
		医学英語Ⅰ	1	30	国際化に対応できる英語力を養う準備として英語に親しみ、基本的な文法も復習し、日常会話の練習をする。看護分野の語彙を使い、簡単な英語でのやり取りも一定の定着を目指して学習、練習する。
		医学英語Ⅱ	1	30	国際化に対応できる英語力を養う準備として看護分野に関連した英語会話・語彙・文章に取り組み、患者との簡単な英語の会話ができるよう一定の定着を目指す。
	人間と生活・社会の理解	社会学	1	30	社会の構造、機能、個人と社会の関係・家族・集団・文化について学び、社会的存在としての人間を理解する基礎とする。
		倫理学	1	30	医療者・患者・家族等様々な視点に立ち、現行の法・ガイドラインに関する正しい事実認識と基礎知識をふまえて倫理的に自ら考える力を養う。
		心理学	1	30	ひととは何か、こころとは何かを「脳と心」の働きから考える。特に個人の内面のありよう、変化について、行動科学としての心理学的視点から学ぶ。
		人間関係論	1	30	人と人との関係、個人と集団（グループ）との関係、社会・文化の中の個人について、主に社会心理学的な側面から学ぶ。
		カウンセリング理論と技法	1	30	カウンセリング理論と技法で学んだ知見を専門職として、将来どう活かしていくか、自ら考えて実践していけるようになることを目指す。
		家族論	1	15	家族の機能や構造が、社会に対してどのような役割を担ってきたのか、地域ごと・時代ごとの個性を把握する。現代の家族像の変化とその要因、未来の家族のあり方を模索して道筋を立てる。
		文化人類学	1	15	人間が生存のために、それぞれの地で行ってきた活動によって築き上げた文化と今の私たちとの関係を理解することによって、「人間」を文化よりみる。そして、文化のつながりと人間の生存の在り方を考えることによって、「人間とは何か」を学ぶ。
	小計	14	375		

## 教育課程

行岡医学技術専門学校 看護第1学科

		学科目	単位	時間数	教育内容・ねらい
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	1	30	人体の構造、生命現象の機能について学び、健康障害を学ぶ基礎とし看護実践の根拠づけとする。人体、消化と吸収、呼吸器
		解剖生理学Ⅱ	1	30	人体の構造、生命現象の機能について学び、健康障害を学ぶ基礎とし看護実践の根拠づけとする。心臓、末梢循環系、血液、腎臓、体液、内分泌
		解剖生理学Ⅲ	1	30	人体の構造、生命現象の機能について学び、健康障害を学ぶ基礎とし看護実践の根拠づけとする。骨格・骨格筋、神経系、脊髄と脳、運動機能
		解剖生理学Ⅳ	1	30	人体の構造、生命現象の機能について学び、健康障害を学ぶ基礎とし看護実践の根拠づけとする。眼、耳、皮膚、生殖器、胎児の発生、解剖見学
		生化学	1	30	人体の構成成分である化学物質の性状、その分析および代謝について学び、人間の生命現象を科学的に判断する能力を養う。
		栄養学	1	30	人間の生命維持・成長に必要な栄養について学び、食事と健康の維持・回復との関係について理解を深める。
	疾病の成り立ちと回復の促進	薬理学	1	30	薬理の特徴、作用機序、人体への影響および薬物の取り扱い、管理について学ぶ。
		微生物学	1	30	微生物が生物界においてどのような位置を占め、自然界のどこにいて、生き物としてどのような生活をしているか、一方、微生物が人体内に進入した後、体内でどのような反応や現象が起こり、感染から固体を防御しているか、さらに感染症と人間の社会との関係を理解する。
		病理学総論	1	15	病因と病変の特徴について理解する。
		疾病治療論Ⅰ	1	30	循環器・呼吸器に障害があるときは全身にどのような影響があるのか、診断、治療、処置の一般的な内容、特殊な内容を理解する。
		疾病治療論Ⅱ	1	30	骨・筋系・脳神経系に障害があるときは全身にどのような影響があるのか、診断、治療、処置の一般的な内容、特殊な内容を理解する。
		疾病治療論Ⅲ	1	30	消化器系・内分泌系・代謝系に障害があるときは全身にどのような影響があるのか、診断、治療、処置の一般的な内容、特殊な内容を理解する。
		疾病治療論Ⅳ	1	15	腎・泌尿器系に障害があるときは全身にどのような影響があるのか、診断、治療、処置の一般的な内容、特殊な内容を理解する。
		疾病治療論Ⅴ	1	30	血液・造血器系に障害があるときは全身にどのような影響があるのか、診断、治療、処置の一般的な内容、特殊な内容を理解する。

## 教育課程

行岡医学技術専門学校 看護第1学科

		学科目	単位	時間数	教育内容・ねらい
専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	疾病治療論Ⅵ	1	30	感覚器系（眼・耳鼻咽喉・皮膚）、歯・口腔に障害があるときは全身にどのような影響があるのか、診断、治療、処置の一般的な内容、特殊な内容を理解する。
		臨床検査	1	15	看護師は対象者の客観的生体反応の検査データの解釈・アセスメントを行い、必要かつ適切な看護を実践する。検査の意義・目的、検査データを解釈できる。
	健康支援と社会保障制度	医療概論	1	15	医療の変遷と役割を理解し、医療制度と今後の医療のあり方について学ぶ。
		東洋健康科学	1	30	東洋医学の考えを知ることにより、人間の自然治癒力を高める必要性について学ぶ。
		公衆衛生学	1	30	公衆衛生に関する統計情報について理解し、疾病構造の変化や高齢社会の中での組織的な保健活動、社会資源について学ぶ。
		社会福祉学	1	30	看護師として必要となる社会福祉の法制度の基本的な知識や社会福祉援助技術の方法を学ぶ。
		関係法規Ⅰ	1	15	看護師の活動は多くの場合、法的規制に基づき行われ、また、時には法的規制を受ける。看護師、医療関係者の身分や医療に関する法、衛生行政諸法規を知ることにより、看護師の法的立場を理解する。
		関係法規Ⅱ	1	15	現代医療が抱えている諸問題について、看護と医療過誤の視点から法的理解を深め、看護のあり方に関して考える。
		小計	22	570	

## 教育課程

行岡医学技術専門学校 看護第1学科

教育内容	学科目	単位	時間数	教育内容・ねらい	
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30	看護学の導入として看護の概念・対象・機能と役割・歴史について学ぶ。さらに、専門職としての倫理観と知識・技術を持ち、保健医療福祉チームの中でどのような役割を担うべきか医療の高度化・専門化の背景も踏まえて学ぶ。
		看護研究	1	30	看護研究に必要な基礎的知識を理解し、研究的態度を身につける。
		看護研究演習	1	15	自己の看護体験から疑問に思ったり、考えたり、気になったことから何が問題かを明らかにし、その問題にどのように取り組めば良いかを学ぶ。論述することで、自己の看護に対する考えや問題を明確にしていく。さらに看護の現象を客観的・科学的・論理的にとらえ、看護を探究することを学ぶ
		共通看護技術Ⅰ	1	30	看護技術とは何か、技術の概念について学ぶ。看護行為に共通する技術の中で最も基本となる対象の「安全」を守る技術について感染予防と医療事故防止の視点から学ぶ。
		共通看護技術Ⅱ	1	30	対象理解の基本となるコミュニケーション、観察・記録・報告、フィジカルアセスメントの概念、身体計測、バイタルサイン測定方法について学ぶ。
		共通看護技術Ⅲ	1	28	対象の健康問題解決の思考過程として看護実践時に使用される看護過程の定義や構成要素を理解し、展開方法の基礎を学ぶ。また、看護における教育・指導の技術について学ぶ。
		生活援助技術Ⅰ	1	30	すべての援助場面の基本となる人間の健康回復に影響をもたらす環境、活動、休息、睡眠の意義を理解し、健康な生活を送るために必要な援助方法を学ぶ。
		生活援助技術Ⅱ	1	30	人間の健康回復に影響をもたらす食事、排泄の意義を理解し、健康な生活を送るための援助方法を学ぶ。
		生活援助技術Ⅲ	1	30	人間の健康回復に影響をもたらす身体の清潔、衣生活の意義を理解し、健康な生活を送るための援助方法を学ぶ。また、罨法の援助技術の基本を習得する。
		診療補助技術	1	30	治療や処置・検査を受ける対象への看護に必要な援助技術を学ぶ。
地域・在宅看護論		臨床看護技術	1	30	看護の概念を踏まえ、各発達段階や健康水準に共通する看護の考え方、看護実践について学ぶ。また、救命救急時に必要な技術の基礎を習得する。
		地域と暮らし	1	15	地域における暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解する。
		地域・在宅看護概論	1	24	地域・在宅看護論の対象と看護の基盤となる概念を理解する。
		家族看護	1	15	家族成員の健康状態が家族に及ぼす影響を理解し、より正しいアセスメントのもと家族支援が行えるための基礎を理解する。
		地域・在宅看護援助論	1	20	在宅看護の対象となる人々の心身の状況・生活の実際、在宅看護の方法について理解する。地域医療や在宅看護で接することの多い疾患を抱える療養者について、症状、医療処置、看護援助、緊急時の対処、終末期ケアを理解する。

## 教育課程

行岡医学技術専門学校 看護第1学科

教育内容	学科目	単位	時間数	教育内容・ねらい	
専門分野	地域・在宅看護論演習	1	30	基本的な生活構造の視点から、療養者・家族への看護の実際を学ぶ。	
		1	20	保健・医療・福祉チームの各職種の役割を理解し、多職種の連携・協働の意義と方法を理解する。	
	成人看護学	成人看護学概論	1	15	成人期にある人々と家族を多面的な視点から理解する考え方や、健康と病気を連続したものとして捉え、あらゆる健康状態の変化にある対象の健康課題の特徴を理解し、それぞれに応じた看護を学ぶ。
		成人看護援助論Ⅰ	1	28	循環系、脳・神経機能に障害のある対象および、その家族に対する看護を学ぶ。
		成人看護援助論Ⅱ	1	28	血液・造血器、アレルギー・免疫、腎・泌尿器系機能に障害のある対象およびその家族に対する看護を学ぶ。
		クリティカルケア・周手術期看護	1	30	消化器系機能に障害のある対象、クリティカルケア・周手術期にある対象および、その家族に対する看護を学ぶ。
		成人看護学演習Ⅰ	1	24	内分泌・代謝系機能に障害のある対象、自己管理支援が必要な対象および、その家族に対する看護を学ぶ。
		成人看護学演習Ⅱ	1	24	呼吸器系機能に障害のある対象、終末期にある対象および緩和ケアを必要とする対象と家族に対する看護を学ぶ。
		老年看護学	老年看護学概論	1	15
	老年看護援助論Ⅰ		1	24	高齢者の疾病や障害の現れ方の特徴を理解し、認知症の高齢者に対し、命の尊厳や人間性の尊重を基盤にQOLを高める援助を学ぶ。また、介護保険制度の具体定利用方法や介護する家族の問題を学ぶ。
	老年看護援助論Ⅱ		1	24	高齢者に特有な骨格、筋系機能、感覚機能に障害のある高齢者のセルフケア能力を高めるための看護を学ぶ。
	老年看護学演習		1	15	事例展開を通して、高齢者の生活背景・生活史に応じたQOLを考える。また、ICFの考え方を基に、疾患や障がいをもたらしながら生活する高齢者に対して、ADLの維持・向上やもてる力を引き出すかかわりを学ぶ。
	小児看護学	小児看護学概論	1	28	子どもについて統合的に理解し、子どもが健康に育つ過程とそのために必要な援助を理解する。
		小児看護援助論Ⅰ	1	29	主な小児疾患の特徴と病態のメカニズム・診断および治療について理解し、看護援助方法について考える。
		小児看護援助論Ⅱ	1	26	健康障害をもち、様々な状況にある子どもの看護を学ぶ。
		小児看護学演習	1	15	呼吸器系の健康障害をもつ患児と家族の看護を学ぶ。

## 教育課程

行岡医学技術専門学校 看護第1学科

教育内容	学科目	単位	時間数	教育内容・ねらい	
専門分野	母性看護学	母性看護学概論	1	28	母性看護の基礎となる概念を学び、その意義と機能を理解する。人間の種族保存について理解し生命倫理について考える。また、母性を取り巻く動向と対策を理解する。ライフサイクル各期の特徴と看護を理解する。
		母性看護援助論Ⅰ	1	28	妊娠、分娩、産褥の生理と正常な経過を理解し、妊産褥婦および新生児の看護を学ぶ。新生児の生理を理解し、新生児の看護を学ぶ。また、母子相互作用の視点から看護の重要性について学ぶ。
		母性看護援助論Ⅱ	1	30	女性生殖に発生する疾患を理解し、看護実践の観察力、判断力の根拠にする。また、妊娠、分娩、産褥経過中に見られる異常、妊婦・産婦・褥婦および胎児・新生児に起こる問題を理解し、医学的対応、健康状態のアセスメントと看護について学ぶ。
		母性看護学演習	1	28	妊産褥婦および新生児の看護に必要な看護技術を理解し、習得する。また、褥婦と新生児の看護過程を学び、知識・技術の統合を図り、看護として解決すべき問題や現象の問題解決力を養う。
	精神看護学	精神看護学概論	1	15	精神保健の動向や精神保健福祉法の変遷と施策、精神の健康の概念を理解し、精神の健康に関する普及啓発活動について理解する。また、精神の働きや人間のライフサイクルにおけるこころの健康について学び、精神の健康とマネジメントについて理解することで、精神看護学における看護の目的を理解する。
		精神看護援助論Ⅰ	1	15	精神障害の特徴・症状・検査・治療について基本的知識を学び、対象の理解を深める。
		精神看護援助論Ⅱ	1	27	精神障害者を理解し、治療的人間関係を学び、精神疾患の症状に対する援助を学ぶ。また、状態に応じて自立を支援できるような援助方法を学ぶ。
		精神看護学演習	1	15	精神障害者の看護過程を展開し、精神を病む人の健康状態や精神症状に応じた看護を理解する。
	領域横断	臨床判断	1	30	基礎看護学で学んだフィジカルアセスメントを振り返りながら、あらゆる健康の段階、生涯発達における対象の身体の状態を診査する手技を獲得する。併せて健康状態の経緯や自覚症状、問診により対象に何が起きているかをアセスメントする。また、看護実践へ活かす必要性とその具体的方法を学ぶ。
		健康支援	1	15	看護師が国民の健康について考え、対象とする人の健康支援のあり方やその理論および技術について学ぶ。
		薬物療法と看護	1	15	人体に薬物が及ぼす影響を振り返り、主な疾病・健康の状態、発達段階における主となる薬物療法を取り上げ、アドヒアランスの向上に向けた看護について学ぶ。
	看護の統合と実践	看護の統合と実践Ⅰ	1	15	基礎看護学、専門基礎分野で学んだ内容を統合し、対象事例の状況に合わせた日常生活援助と診療補助を実践する技術演習を行う。また、看護実践力の基礎となる知識と技術と態度とはどのようなものか考え、臨床の場における課題を明らかにする。
看護の統合と実践Ⅱ		1	15	診療補助技術、日常生活援助技術における安全に関する知識をもとに、複数事例および制限時間内での看護実践、対処方法についてシミュレーション学習を行い、チーム医療における、正しい判断と安全・安楽な看護実践について考えられる。	

## 教育課程

行岡医学技術専門学校 看護第1学科

教育内容		学科目	単位	時間数	教育内容・ねらい
専門分野	看護の統合と実践	看護管理	1	15	チーム医療・看護ケアにおける看護師としての調整能力やリーダーシップおよびマネジメントに関する知識を獲得し、臨床現場での看護管理の実際を理解することができる。
		医療安全	1	15	倫理観・責任感に基づき、医療安全に関する知識・技術の習得及びチームや組織の一員として医療安全活動に積極的に取り組む基礎的能力を養う。
		災害看護・国際看護	1	15	国境を越えて広がる感染症・自然環境問題、またはそれに伴う大規模災害は今や、一国で解決することは困難であり、グローバルな課題として捉えていかなければならない。人道支援の原則のもとに災害時は、活動場所・災害サイクル・対象者のニーズに合わせた援助を行うことが看護職者に求められている。このようなグローバルな視点と災害看護・国際看護の基本的知識を学ぶ。
小計			47	1083	



## 教育課程

行岡医学技術専門学校 看護第1学科

教育内容	学科目	単位	時間数	教育内容・ねらい
専門分野 臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	看護の場(保健・医療・福祉施設や病院)とその対象を理解し、看護活動の基礎となる知識・技術・態度を習得する。
	基礎看護学実習Ⅱ	2	90	健康障害を持つ対象を理解し、看護過程の展開の基礎を習得する。
	地域・在宅看護論実習Ⅰ	2	90	地域で生活している様々な対象者とその家族を理解し、健康を守り支えるための支援が様々な場で提供されていることを理解する。また、地域保健・地域福祉におけるさまざまな看護活動を理解する。
	地域・在宅看護論実習Ⅱ	2	90	地域の中で健康障害を持ちながら生活している対象者とその家族を理解し、多職種との連携の中で対象に合わせた看護の実践について考える。
	成人・老年看護学実習Ⅰ	2	90	急性期(侵襲的治療)、回復期にある成人・老年期の対象の看護を学ぶ。
	成人・老年看護学実習Ⅱ	2	90	慢性期にある成人・老年期の対象の看護を学ぶ。
	成人・老年看護学実習Ⅲ	2	90	疾患からの回復が困難な状態や予後不良の疾患に罹患した成人・老年期の対象の看護を学ぶ。
	老年看護学実習	2	90	老年期にある対象を統合体として理解するとともに、疾患や機能障害を持つ高齢者の生活機能障害を改善するための基礎的な看護実践能力を養う。
	小児看護学実習	2	90	小児各期にある子どもを理解し、成長発達を促すと共に健康障害をもつ子どもとその家族に対して、倫理観・責任感をもって、科学的根拠に基づいた看護実践ができる基礎的能力を養う。
	母性看護学実習	2	90	妊婦・産婦・褥婦及び新生児を理解し、基本的看護ができる能力を養う。
	精神看護学実習	2	90	精神に障害をもつ人を理解し、対象に応じた看護実践力と、多職種連携の必要性、対象を尊重できる能力を養う。
	統合実習	2	90	知識・技術・態度を統合し、看護実践能力の向上を目指すとともに、看護専門職としての自己の課題を明確にし、看護を追求する姿勢を養う。
	小計	23	1035	
	総計	106	3063	

## 教科外活動のねらいと時間

	ねらい	1年	2年	3年	合計
<b>&lt;行事&gt;</b>					
入学式	看護学生としての自覚を持ち、これからの学生生活の目的を認識する。	3			3
卒業式	修了認定を受けた者に対し、本校の卒業生であることを認め、専門職業人としての自覚を高める。			3	3
戴帽式	看護を学ぶということの目的意識を学生一人一人が明確にする。	3	3	3	9
小計		6	3	6	15
<b>&lt;特別教育活動&gt;</b>					
入学時オリエンテーション	教育課程、学校生活の概要を理解し、学校生活がスムーズに開始できる。	12			12
健康診断	自己の健康状態を知り、健康管理への関心を高める。	4	4	4	12
健康子エック	毎月1回血圧測定、体重測定を行い、自己管理を行う。	11	11	11	33
看護の日記念行事	近代看護の創始者であるF. ナイチンゲールの生誕記念日に寄せて、21世紀の看護師を目指す看護学生として、看護を考える機会とする。またその日に制定された看護の日についての理解を深める機会とする。	8	6		14
防災訓練	災害時の対処の仕方を体験し、安全対策を学ぶ。	4	2		6
看護学会参加	看護学会に参加し、看護に対する関心を深め、看護研究の意義と研究発表の実際を学ぶ。		8		8
血液センター見学	解剖生理学、疾病治療論の学習をふまえ、血液製剤及び輸血療法についての知識を深めるとともに、その安全管理の実際を学ぶ。		8		8
実習オリエンテーション	臨地実習における学習内容を理解し、実習での主体的学習の導入とする。	14	14	10	38
実習のまとめ	看護の理論と実践の統合を図り、実習での学びと課題を明確にする。	12	12	6	30
ケーススタディ発表(聴講)	実習への関心を高めるとともに、事例研究の意義と発表・評価の実際を学ぶ。		4		4
国家試験対策	1. 必須問題の強化を図る。 2. 領域別看護の基礎となる解剖生理・病態・治療・検査の理解の強化を図る。 3. 学習の評価・分析をし、不得意分野の学習課題を明確にする。	20	20	40	80
卒業前技術演習	1. 生体侵襲の加わる診療の補助技術(与薬・採血)の到達を図る。 2. 就職現場との技術の乖離を少なくする。			20	20
小計		85	89	91	265
<b>&lt;特別講義&gt;</b>					
音楽	式典時必要な合唱練習を通じ、創造力・情操を高める。	6			6
実習前特別講義	①患者様が満足するコミュニケーション ②感染管理(認定看護師)		2	4	6
国家試験強化学習	専門基礎分野、専門分野における到達不十分な学習内容の理解を深める。			60	60
小計		6	2	64	72
<b>&lt;特別講演&gt;</b>					
小計	専門職業人として必要な品性を身につけさせ、社会に貢献するための教養を養う。	2	4	2	8
小計		8	8	8	24
合計		99	98	163	360
実習施設説明会	実習施設の理念・看護の概要を理解し、施設への関心を高め、実習・就職に役立てる。		12		12

教育内容	学科目	単位	時間	1年		2年		3年		専任非常勤区	講師名	所属(専任教員以外)		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期					
基礎分野	科学的思考の基盤	国文学	1	30	30						非常勤	荒井 真理亜	相愛大学 准教授	
		論理学	1	30			30				非常勤	梅本 裕	京都橋大学 教授	
		教育学	1	30			30				非常勤	宇田 智佳	大阪大学人間科学研究科	
		情報科学 I	1	30		30					非常勤	永井 英太郎	(株)エフラボ SE・プログラマー	
		情報科学 II	1	15			15							
		医学英語 I	1	30		30					非常勤	階堂 咲子	関西学院大学 非常勤講師	
		医学英語 II	1	30			30				非常勤	浅田 忠	像山院(鍼灸院・英語教室)院長	
	人間と生活・社会の理解	社会学	1	30	30						非常勤	笹部 建	関西学院大学 非常勤講師	
		倫理学	1	30				30			非常勤	桑原 英之	近畿大学 他 非常勤講師	
		心理学	1	30	30						非常勤	松本 敦	大阪城南女子短期大学 名誉教授	
		人間関係論	1	30		30								
		カウンセリング理論と技法	1	30		30					非常勤	友野 伸一	滋賀短期大学、神戸国際大学 カウンセラー	
		家族論	1	15		15					非常勤	笹部 建	関西学院大学 非常勤講師	
		文化人類学	1	15	15						非常勤	熱田 典子	アジア協会アジア友の会 副事務局長	
	小計	14	375	105	135	105	30	0	0					
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学 I	1	30	30						非常勤	吉村 武・稲垣 忍	大阪行岡医療大学 医療学部 理学療法学科 教授	
		解剖生理学 II	1	30	30						非常勤	吉村 武・稲垣 忍	大阪大学大学院 連合小児発達学研究科 講師	
		解剖生理学 III	1	30		30					非常勤	高橋 風香	大阪大学大学院医学研究科修士課程在籍	
		解剖生理学 IV	1	30		30					非常勤	中山 穂香	大阪大学大学院医学研究科修士課程在籍	
		生化学	1	30	30						非常勤	折田 久美	大阪市立大学大学院医学研究科皮膚病態学 医学博士	
		栄養学	1	30		30					非常勤			
		疾病の成り立ちと回復の促進	薬理学	1	30		30					非常勤	篠原 光子	大阪歯科大学薬理学講座 教授
			微生物学	1	30	30						非常勤	浜田 茂幸	大阪大学名誉教授、大阪大学微生物病研究所招聘教授
			病理学総論	1	15		15					非常勤	小仲 邦	大阪行岡医療大学 教授
			疾病治療論 I (呼吸・循環器系)	1	30		30					非常勤	仁科 昌久	仁科医院 院長
			疾病治療論 II (骨・筋系)	1	30		15					非常勤	村田 紀和	行岡病院 リウマチ科医師
			疾病治療論 II (脳・神経系)	1	30		15					非常勤	藤原 正昭	前行岡病院 脳神経科医師
			疾病治療論 III (消化器系)	1	30		15					非常勤	池田 昌弘	行岡医学技術専門学校 前学校長 医師
			疾病治療論 III (内分泌・代謝系)	1	30		15					非常勤	仁科 昌久	仁科医院 院長
			疾病治療論 IV (腎系)	1	15		2						非常勤	北野病院 医師
	1			15		2						非常勤	北野病院 医師	北野病院 腎臓内科
	1			15		2						非常勤	北野病院 医師	北野病院 腎臓内科
	1			15		2						非常勤	北野病院 医師	北野病院 腎臓内科
	疾病治療論 IV (泌尿器系)		1	30		7					非常勤	奥山 明彦	高石藤井病院 医療安全支援教育センター長 医師	
	疾病治療論 V (血液・造血器系)		1	30		15					非常勤	山手 百合香	大阪大学大学院医学系研究科	
	疾病治療論 V (免疫・感染)		1	30		15					非常勤	浜田 茂幸	大阪大学名誉教授、大阪大学微生物病研究所招聘教授	
	疾病治療論 VI (眼)	1	30				7			非常勤	山手 百合香	大阪大学大学院医学系研究科		
	疾病治療論 VI (耳鼻咽喉)	1	30				7			非常勤	川上 友美	行岡病院 耳鼻咽喉科医		
	疾病治療論 VI (皮膚)	1	30				7			非常勤	折田 久美	大阪市立大学大学院医学研究科皮膚病態学		
	疾病治療論 VI (歯・口腔)	1	30				7			非常勤	山手 百合香	行岡病院 口腔外科医		
	臨床検査	1	15				9				非常勤	葵野 満喜子	大阪行岡医療専門学校 長柄枝 専任教員	
		1	15				2				非常勤	吉川 嘉寿浩	大阪行岡医療専門学校 長柄枝 放射線科専任教員	
		1	15				2				非常勤	名田 克彦	大阪行岡医療専門学校 長柄枝 専任教員	
		1	15				2				非常勤	森松 宏和	大阪行岡医療専門学校 長柄枝 非常勤講師	
	専門基礎分	社会保健制度	医療概論	1	15	15						非常勤	行岡 正雄	行岡保健衛生学園 理事長 行岡病院 院長 行岡医学技術専門学校 学校長
東洋健康科学			1	30	30						非常勤	西口 陽通	大阪行岡医療専門学校 長柄枝 鍼灸科専任教員	
公衆衛生学			1	30		30					非常勤	関口 敏彰	森之宮医科大学保健医療学部看護学科 保健師	

教育内容		学科目	単位	時間	1年		2年		3年		専任非 常勤区	講師名	所属(専任教員以外)
					前期	後期	前期	後期	前期	後期			
野	度	社会福祉学	1	30			30				非常勤	前田 崇博	大阪城南女子短期大学 人間福祉学科 教授、学科長

教育内容	学科目	単位	時間	1年		2年		3年		専任非常勤区	講師名	所属(専任教員以外)			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期						
専門基礎分野 社会保健課程 保健支援と 社会保健課程	関係法規Ⅰ	1	15					15		非常勤	前島 良弘	看護師養成校非常勤講師 看護教育研究者			
	関係法規Ⅱ	1	15					15		非常勤	前島 良弘	看護師養成校非常勤講師 看護教育研究者			
		22	570	165	300	30	43	30	0						
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30	30						専任	磯口ツユ子			
		看護研究	1	30				30			専任	吉田 菊江			
		看護研究演習	1	15					15		専任	吉田 菊江			
		共通看護技術Ⅰ	1	30	30						専任	中村 敏代			
		共通看護技術Ⅱ(コミュニケーション観察記録報告)	1	30	30						専任	安齋 匡代			
		共通看護技術Ⅲ	1	28		28					専任	安齋 匡代			
		生活援助技術Ⅰ	1	30	30						専任	黒田 薫			
		生活援助技術Ⅱ(食事)	1	30	12							専任	岩井 志乃		
		生活援助技術Ⅱ(排泄)			18							専任	岩井 志乃		
	生活援助技術Ⅲ	1	30		30					専任	山之内 由美				
	診療補助技術	1	30		30					専任	中村 敏代				
	臨床看護技術	1	30		30					専任	黒田 薫				
	地域・在宅看護論	地域と暮らし	1	15	15						専任	森山 ゆかり			
		地域・在宅看護論	1	24			24				専任	森山 ゆかり			
		家族看護	1	15			15				専任	森山 ゆかり			
		地域・在宅看護援助論	1	20				20			非常勤	渡邊 典子	株式会社 かのん代表取締役 地域で活躍中 看護師		
		地域・在宅看護論演習	1	30				14				専任	森山 ゆかり		
								16				専任	岩井 志乃		
		多職種連携	1	20				8				専任	森山 ゆかり 岩井 志乃		
								2				非常勤	福井 紀子	行岡病院 管理栄養士	
								2					非常勤	井上 都	行岡病院 薬剤師長
								2					非常勤	松下 渚	行岡医学技術専門学校 歯科衛生科 専任教員
							2					非常勤	福田 明雄	行岡病院 回復期リハビリテーション病棟 理学療法士	
							2					非常勤	竹下 紀子	行岡病院 リハビリテーション科 作業療法士	
	成人看護学	成人看護学概論	1	15		15					専任	黒田 薫			
		成人看護援助論Ⅰ(循環器系)	1	28			15				非常勤	中井 聡紀	守口敬仁会病院 集中ケア認定看護師		
		成人看護援助論Ⅰ(脳・神経系)					13				専任	山之内 由美			
成人看護援助論Ⅱ(血液・造血器系)		1	28			10				非常勤	遠田 有利	看護師 看護師長・看護教員経験有 専門:基礎・成人・老年			
成人看護援助論Ⅱ(アレルギー・免疫系)						10									
成人看護援助論Ⅱ(腎・泌尿器系)						8					非常勤	橋本 葉子	北野病院 看護師長		
クリティカルケア・周手術期看護		1	30				30			専任	村上 未恵				
成人看護学演習Ⅰ		1	24				24			専任	松本 順子				
成人看護学演習Ⅱ		1	24				24			専任	松本 順子				
老年看護学		老年看護学概論	1	15		15					専任	阿部 千栄子			
	老年看護援助論Ⅰ	1	24			24				専任	今川 貴実子				
	老年看護援助論Ⅱ	1	24			24				専任	阿部 千栄子				
	老年看護学演習	1	15				15			専任	阿部 千栄子				
小児看護学	小児看護学概論	1	28			28				専任	磯口ツユ子 中川 貴子				
	小児看護援助論Ⅰ	1	29			10				非常勤	小田 公子	長吉総合病院 小児科 医師			
	小児看護援助論Ⅰ					15				非常勤	今北 優子	四恩学園診療所 管理医師			
	小児看護援助論Ⅰ					4					非常勤	松川 泰廣	大阪旭こども病院 医師		
	小児看護援助論Ⅱ	1	26			26				専任	中川 貴子				
	小児看護学演習	1	15				15			専任	中川 貴子				

教育内容	学科目	単位	時間	1年		2年		3年		専任非常勤区	講師名	所属(専任教員以外)	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期				
専門分野	母性看護学	母性看護学概論	1	28			28				専任	中川 明子	
		母性看護援助論Ⅰ	1	28			28				非常勤	大山 晴美	助産院 院長
		母性看護援助論Ⅱ	1	30				30			非常勤	北方 直美	菊池レディースクリニック 助産師
		母性看護学演習	1	28				28			専任	中川 明子	
	精神看護学	精神看護学概論	1	15		15					専任	山之内 由美	
		精神看護援助論Ⅰ	1	15			15				非常勤	山岸 洋	前 北野病院 神経精神科部長
		精神看護援助論Ⅱ	1	27			27				非常勤	古本 直己	次木病院 看護師
		精神看護学演習	1	15			15				専任	山之内 由美	
	領域横断	臨床判断	1	30				30			専任	村上 未恵	
		健康支援論	1	15			15				非常勤	関口 敏彰	森之宮医療大学保健医療学部看護学科 保健師
		薬物療法と看護	1	15			11				非常勤	前中 真由美	KK医教、KKハビネスTK、看護師
		薬物療法と看護					2				専任	中川 貴子	
	薬物療法と看護					2				専任	中川 明子		
	看護の統合と実践	看護の統合と実践Ⅰ	1	15			15				専任	中村 敏代	
		看護の統合と実践Ⅱ	1	15					15		専任	松本 順子	
		看護管理	1	15					15		専任	佐々木 規代	
		医療安全	1	15					11		専任	佐々木 規代	
								4		非常勤	林 智也	行岡病院 感染管理者	
		災害看護・国際看護	1	15					15		非常勤	藤原 由子	北野病院 看護師長
			47	1083	165	163	353	327	75	0			
専門分野	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	15	30							
		基礎看護学実習Ⅱ	2	90			90						
		地域・在宅看護論実習Ⅰ	2	90					90				
		地域・在宅看護論実習Ⅱ	2	90					90				
		成人・老年看護学実習Ⅰ	2	90				90					
		成人・老年看護学実習Ⅱ	2	90					90				
		成人・老年看護学実習Ⅲ	2	90					90				
		老年看護学実習	2	90				90					
		小児看護学実習	2	90						90			
		母性看護学実習	2	90						90			
		精神看護学実習	2	90						90			
	統合実習	2	90						90				
小計		23	1035	15	30	90	180	360	360				
総合計		106	3063	450	628	578	580	465	360				
学年別				1078		1158		825					

# 授 業 概 要

# 基礎分野



## 基礎分野

### 1. 考え方

人間は環境と作用しながら絶えず成長・発達・変化している身体的・精神的・社会的・霊的統合体であり、社会の中で、その所属する家族・集団・地域・国家と相互に関係をもちながら生活を営む。看護は対象である人間を、生涯発達しつづける統合された存在と捉え、健康と生活を環境との相互作用の観点から理解を深めるための基礎知識や理論を学ぶ。そこで基礎分野では、人間と生活・社会の理解を深めるための基礎知識や理論を学ぶ。さらに人々の健康上の課題に対応するために、科学的根拠に基づいた看護実践をおこなうための科学的思考の基礎となる知識と理論を学ぶ。そして、専門基礎分野の基盤として自ら学び続けるための基礎的能力を養うことを意図している。

### 2. 科目の設定および設定の理由

基礎分野は 14 単位、375 時間。

人間を成長発達変化している身体的・精神的・社会的・霊的（スピリチュアル）に統合された存在として捉え、幅広く理解する基礎知識として心理学を学び、対人援助の実践に応用した理論や技術を学ぶ人間関係論、カウンセリング理論を設定した。

また、社会学、家族論、文化人類学では人間の健康と生活を物理的・生物的・社会的・文化的環境との相互作用の観点から幅広く理解する視点を養う。

また、専門職務の特性に鑑み、人権の重要性について十分理解し、人権意識の普及・高揚を図り、倫理に基づいた看護を実践するために倫理学、教育学を設定した。

さらに、人々の健康上の課題に対応するため、科学的根拠に基づき、健康状態に応じた看護を実践する思考過程のため医学英語、国文学、論理学、情報科学を設定した。

学科目	国文学	単位数	1	時間数	30	科目区分	基礎分野
講師名	荒井 真理 亜			学期	1 年前期		
科目目標・内容							方法
<p>ねらいと目標</p> <p>国文学の世界に触れることは、日本の文化や社会を知り、他者への理解を深め、現代を生きる自分自身を考えることにつながる。</p> <p>本授業では、日本文学や日本語について学びながら、看護はもちろん、社会生活に必要な話す力・聴く力・書く力・読む力を身につけることである。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Chapter1 1. 「読む」こと「書く」ことの基本</li> <li>2. Chapter1 2. 看護師は多くの人と情報を共有する</li> <li>3. Chapter1 3. 看護学生と「読む」こと「書く」ことの関連</li> <li>4. Chapter1 1. 看護における「読む」ことの重要性</li> <li>5. Chapter1 2. 文章を「読む」視点</li> <li>6. Chapter1 3. 看護学生の「読む力」を伸ばすには</li> <li>7. Chapter1 4. 「読む」レッスン</li> <li>8. Chapter1 5. 看護学生のためのブックガイド</li> <li>9. Chapter1 1. 看護における「書く」ことの重要性</li> <li>10. Chapter1 2. 文章を「書く」視点</li> <li>11. Chapter1 3. 看護学生の「書く力」を伸ばすには</li> <li>12. Chapter1 4. 「書く」レッスン</li> <li>13. Chapter1 1. 「読む」と「書く」ことの循環</li> <li>14. Chapter1 2. 「要約」について</li> <li>15. 終講試験</li> </ol>							講義
評価方法： 終講試験							
テキスト： 坂井浩美・山崎啓子著『看護学生のための「読む力」「書く力」レッスンBOOK』 日本看護協会出版会、2021							
講師紹介： 相愛大学人文学部准教授。専門分野は日本近代文学							

学科目	論理学	単位数	1	時間数	30	科目区分	基礎分野
講師名	梅本 裕				学期	2年前期	
科目目標・内容							方法
<p>ねらい</p> <p>看護職者に必要な論理的思考を育成する。論理的思考の定型を身につける。</p> <p>目 標</p> <p>「論理学」は看護職者に必要な論理的思考を育成することを目標とする。今日、看護職者には従来に比して高度な判断能力とコミュニケーション能力が求められている。この能力の基礎をなすのが論理的思考能力である。この科目では、作文やディベートによって日常言語の読み書き能力を高めることによって、受講生のことばに対する感受性を高めるとともに、論理的思考の定型を身につけられるようにする。授業内容の骨格は以下の通り。授業は講師による講義と受講者による課題演習を組み合わせで行う。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. なぜ看護職者に論理的思考が求められるのか</li> <li>2. 日常言語における論理と論理的思考の特徴</li> <li>3. 論理的な文章の特徴</li> <li>4. 論理的な文章を書く（その1） 一文一義の文体</li> <li>5. 論理的な文書を書く（その2） 接続のことばへの注目</li> <li>6. 論理的な文章を書く（その3） 段落の構成</li> <li>7. 論評文を書く（その1） 引用の方法</li> <li>8. 論評文を書く（その2） 反論の定型</li> <li>9. 論評文を書く（その3） 論理の精微化</li> <li>10. ディベート演習（その1） 立論の書き方</li> <li>11. ディベート演習（その2） 質疑の方法</li> <li>12. ディベート演習（その3） 反駁の方法</li> <li>13. ディベート演習（その4） 判定の論理</li> <li>14. 論理的思考をさらに高める自己研修の方法</li> <li>15. 終講試験</li> </ol>							講義 と 課題演習
評価方法：授業中の提出物（50%）と 終講試験（50%）							
参考文献：宇佐美寛『論理的思考』メヂカルフレンド社							
講師紹介：京都橘大学教授、専門分野：教育方法学、教育課程論							

学科目	教育学	単位数	1	時間数	30	科目区分	基礎分野
講師名	宇田 智佳			学期	2年前期		
科目目標・内容							方法
<p>ねらい</p> <p>対人援助の専門家として、人権保障の観点から、人々が抱える困難と環境の連関を学ぶことをねらいとする。また、学び続けること、他者の立場を想像し続けることの重要性について理解を深める。</p> <p>目標</p> <p>「対人援助職」の点で看護と教育は共通する側面を有する。社会課題が噴出する現在、どのような課題があり、自身はどのように向き合うのかについて思索し続けることが求められている。そこで、教育学の基礎的教養を身につけながら、人々の抱える困難を客観的に捉え理解する力を身につける。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション -看護師と教育学-</li> <li>2. 教育とは何か -教育の意義と役割-</li> <li>3. 教育とは何か -教育の歴史①-</li> <li>4. 教育とは何か -教育の歴史②-</li> <li>5. 教育と福祉 -教えることとケアすること-</li> <li>6. テーマ学習①貧困</li> <li>7. テーマ学習②外国人</li> <li>8. テーマ学習③ジェンダー</li> <li>9. テーマ学習③障害</li> <li>10. テーマ学習④家族</li> <li>11. テーマ学習⑤学校に通えないこと</li> <li>12. グループワーク①-テーマを選び、発表する</li> <li>13. グループワーク②-テーマを選び、発表する</li> <li>14. ふりかえり</li> <li>15. 終講試験</li> </ol>							<p>講義</p> <p>個人ワーク</p> <p>グループワーク</p> <p>映像資料</p>
評価方法	授業内外レポート 60 点、終講試験 40 点						
テキスト	講義で配布する資料を教材とする。参考図書は随時紹介する。						
備考	受講生の興味関心に応じて、授業内容を変更する。						
講師紹介	<p>マイノリティの視点から教育をどう考えていくかという研究をしています。</p> <p>教育を環境から考えていくこの講義を通して、さまざまな視点から人とのつながりや援助を考えていってもらえれば嬉しいです。 大阪大学大学院人間科学研究科</p>						

学科目	情報科学 I	単位数	1	時間数	30	科目区分	基礎分野
講師名	永井英太郎			学期	1年後期		
科目目標・内容							方法
<p>ねらい</p> <p>情報化社会における情報処理の基本的な考え方、処理方法を理解させ、コンピュータによる処理方法を看護活動に活かすことができるようにする。</p> <p>目標</p> <p>文書処理ソフト Word を使った報告書の作成方法と、表計算ソフト Excel を使った統計処理方法を修得する。</p> <p>授業計画 【14回 講義により修得する。】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンピュータの基本構成</li> <li>2. 基本ソフトと応用ソフト</li> <li>3. 医療情報システムとセキュリティ対策</li> <li>4. Windows10 の基礎 起動と終了。アプリケーションソフトの基本操作。 複数のアプリケーションソフトの起動。</li> <li>5. Word の基本操作 日本語入力システムの設定。文字や文章の入力・訂正。特殊な入力方法。 文書の保存と読込、印刷、複写・削除・移動。</li> <li>6. Excel の基本操作 データ入力操作。基本的なワークシートの編集。ワークシートの書式設定。 関数の利用。データベース機能。データの集計。</li> <li>7. Excel によるグラフの作成方法 グラフの作成。グラフの設定変更。</li> <li>8. 統計処理 度数分布、分散、標準偏差、t 検定、カイ二乗検定。</li> <li>9. 課題演習 Word、Excel の実習を行い、結果を印刷やファイルにて提出。</li> <li>15. 終講試験 講義内容の理解度を確認する。 Word と Excel が各自で利用可能であるかを評価する。</li> </ol>							講義
評価方法：提出物 20 点 終講試験 80 点							
テキスト：30 時間でマスター Windows10 対応 Word&Excel 2016 実教出版 他 教材プリント							
講師紹介：済生会中津看護専門学校にて平成 6 年より情報科学の非常勤講師として講義。 行岡医学技術専門学校では平成 29 年より情報科学の非常勤講師として講義。 大手メーカーの大病院向け電子カルテの開発に参画、看護に関する業務中心に担当。							

学科目	情報科学Ⅱ	単位数	1	時間数	15	科目区分	基礎分野
講師名	永井英太郎			学期	2年前期		
科目目標・内容							方法
<p>ねらい</p> <p>今日の情報化社会ではコンピュータを使って、収集した豊富な情報・研究成果について発表する機会が増大している。収集した情報を取りまとめ、コンピュータを使って表現する方法の基本を習得させ、看護活動で活かせるようにする。</p> <p>目標</p> <p>プレゼンテーションソフト Power Point の基本操作を理解させると共に、情報の表現方法を修得させ、今後の学習活動に活かせるようにする。</p> <p>授業計画【7回講義により修得する。】</p> <p>内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Power Point の基本操作 プレゼンテーションの概要説明。PowerPoint の基本的な事項を説明。 文字入力を中心とした複数のスライドの作成を行い、スライド編集方法の基本をマスターする。</li> <li>Power Point による情報の表現方法 スライド作成・編集時に利用する各種機能を、実際にプレゼンテーション資料を作成しマスターする。</li> <li>Word や Excel で作成した情報の統合化 作成したプレゼンテーション資料をブラッシュアップ(磨き上げる)する。 グラフと図形の挿入、EXCEL グラフや SmartArt の利用。</li> <li>課題演習 プレゼンテーションの実習を行い、結果を印刷やファイルにて提出。</li> </ol> <p>7.5 終講試験</p>							講義 演習
評価方法：提出物 20 点 終講試験 80 点							
テキスト：30 時間でマスター Windows10 対応 Word&Excel 2016 実教出版 他 教材プリント							
講師紹介：済生会中津看護専門学校にて平成 6 年より情報科学の非常勤講師として講義。 行岡医学技術専門学校では平成 29 年より情報科学の非常勤講師として講義。 大手メーカーの大病院向け電子カルテの開発に参画、看護に関する業務中心に担当。							

学科目	医学英語 I	単位数	1	時間数	30	科目区分	基礎分野
講師名	階堂 映子				学期	1年後期	
科目目標・内容							方法
<p>ねらい：医療現場での国際化に対応できる英語力を養う準備として、看護分野に関連した語彙を使いながら増やしていき、簡単な英語でのやり取りの一定の定着を目指す。</p> <p>目 標：基本的な文法を復習し、平易な英語でのやりとりがある程度できる。医療で役立つ基本的な語彙を認識し、ある程度使えるようになる。</p> <p>授業計画</p> <p>1～3 回目：     ユニット 2～3：問診／診療科の語彙・病院内の施設案内</p> <p>4～6 回目：     ユニット 4、6：入院の案内・指示・申し出る表現／症状の表現</p> <p>7～9 回目：     ユニット 7～8：体の部位の語彙・過去の出来事の説明／臓器の語彙・体調</p> <p>10～12 回目：     ユニット 9～10：病歴・経験の説明／投薬・頻度の表現</p> <p>13～14 回目：まとめと復習</p> <p>15 回目：終講試験</p>							講義
評価方法							：小テスト、平常点、終講試験
備 考							：学習状況を考慮し、随時進度や内容を調整することがある。
テキスト							：Speaking of Nursing 「看護系学生のための英語コミュニケーション」 Peter Vincent (ピーター ビンセント) Alan Meadows (アラン メドウズ) 著 NANUN-DO (南雲堂) 出版 2017年 コード ISBN 978-4-523-17850-7 C0082
講師紹介							平成 9 年 4 月 英国ランカスター大学 言語学と現代英語学部 修士課程 平成 17 年『現代英語談話会論集』1号「Grice の協調の原則とウソの境界」 平成 15 年～関西学院大学 英語講師。 平成 11 年 4 月～当校 英語 担当

学科目	医学英語Ⅱ	単位数	1	時間数	30	科目区分	基礎分野
講師名	浅田 忠					学期	2年前期
科目目標・内容							方法
<p>ねらい:国際化に対応できる英語力を養う準備として看護分野に関連した英語会話・語彙・文章に取り組み、患者との簡単な英語の会話ができるよう一定の定着を目指す。</p> <p>目標:基本的な英語会話から、医療現場での国際化に対応できる英語力を養う準備として、看護分野に関連した語彙を使いながら増やしていき、簡単な英語でのやり取りも一定の定着を目指して学習、練習していく。</p> <p>授業計画:</p> <p>Unit 1: Eye Charity Takes Airborne Healing to World / オリエンテーション</p> <p>Unit 2: Nanotechnology Can Help Deliver Affordable, Clean Water / Material(要約)</p> <p>Unit 3: Study: Mindful Meditation Helps Manage Chronic Back Pain / Material(体表)</p> <p>Unit 4: Technology Reduces Time in Dentist's Chair / Material(骨)</p> <p>Unit 5: Study:Flu Shots Keep People out of Hospital / Material(筋)</p> <p>Unit 6: Simple New Test Detects Early Signs of Diabetes / Material(内臓)</p> <p>Unit 7: Technique May Eliminate Drill-and-Fill Dental Care / 古典学術式医学英語</p> <p>Unit 8: Revolutionary Cardiac Patch Could Mend a Broken Heart / 英米式医学英語</p> <p>Unit 9: New Deadly Septic Shock Treatment Could Save Millions / 免疫学</p> <p>Unit 10: Targeted Treatment May Improve Odds for Breast Cancer Patients / 婦人科</p> <p>Unit 11: Doctors Unveil Potential New Tool to Fight Brain Cancer / 終講試験対策</p> <p>Unit 12: World Action Needed to Prevent Widespread Antibiotic Resistance / カルテⅠ</p> <p>Unit 13: Activists Push to Limit Antibiotic Use in Livestock / カルテⅡ</p> <p>Unit 14: Oregon Case Renews Right-to-Die Debate / 心身医療(Mercy Killingを含む)</p> <p>Test 15: Unit 15 &amp; 終講試験</p>							講義
評価方法 : 終講試験							
<p>テキスト : Medical Front Line</p> <p>編著者 眞砂 薫 田中博晃 Bill Benfield</p> <p>初版発行 2019年1月10日</p> <p>出版社(発行所) 成美堂</p>							
備考 : 学習状況を見て、随時進度や選択するユニットを調整する。							
<p>講師紹介 : 象山院院長「鍼灸院、英語教室、四柱推命」</p> <p>専門学校(医学・医療系学科)「医学英語」「英語」「医療概論」担当</p>							



学 科 目	社会学	単 位 数	1	時 間 数	30	科 目 区 分	基礎分野
講 師 名	笹 部 建				学 期	1 年 前 期	
	科 目 目 標 ・ 内 容						方 法
<p>ねらい</p> <p>社会の構造、機能、個人と社会の関係・家族・集団・文化について学び、社会的存在としての人間を理解する基礎とする。</p> <p>目 標</p> <p>「社会学」と呼ばれる学問の基礎的な知識の習得を目的とし、それらをもとに現代社会の諸問題に対する考え方や、看護の現場における実践的な知識への応用が可能となるような方法論・知的態度などを身につけることを目指す。</p> <p>授業計画 ※受講者の理解度によって変更の可能性あり。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション～社会学とはどんな学問か～</li> <li>2. 社会学の理論～機能主義という考え方～</li> <li>3. 社会学の調査～計量研究と事例研究のちがい～</li> <li>4. 自己とコミュニケーション～「自分らしさ」を作り上げること～</li> <li>5. 会話と言語～無意識のなかの規則と秩序～</li> <li>6. 結婚と仕事～ライフコースの多様性～</li> <li>7. 家族とコミュニティ～少子高齢化の諸問題～</li> <li>8. 教育とスポーツ～社会の中の再生産～</li> <li>9. 文化と消費～趣味と流行のフラット化～</li> <li>10. 差別と排除～ハラスメントと嫌がらせ防止のために～</li> <li>11. メディアとテクノロジー①～世論形成とジャーナリズム～</li> <li>12. メディアとテクノロジー②～情報技術とリスク管理～</li> <li>13. 医療と看護～専門職としての歴史と現場の中の社会問題～</li> <li>14. まとめ～再び、社会学とはどんな学問か～</li> <li>15. 終講試験</li> </ol>							講義
<p>評価方法： 終講試験 ※授業で配布した資料、および自身で用意したノートやメモのみ持ち込み可とする。</p>							
<p>テキスト： なし</p> <p>資料 参考資料は、授業中に指示する</p> <p>参考 系統看護学講座 基礎分野 社会学 第6版</p>							
<p>講師紹介： 関西学院大学、桃山学院大学に勤務、社会学部の演習授業を担当。専攻はメディア研究、文化社会学。NHK のアーカイブ研究などの経験をもとに社会学のトピックを広く話します。</p>							

学科目	倫理学	単位数	1	時間数	30	科目区分	基礎分野
講師名	桑原 英之				学期	2年後期	
科目目標・内容							方法
<p>目的 医療・福祉の現場では生死に関わる難しい問題が山積魅しており、正しく判断するには倫理的視点が不可欠である。本講義では、医療者・患者・家族等様々な視点に立ちながら、現行の法・ガイドラインに関する正しい事実認識と基礎知識を踏まえつつ、倫理的に自ら考える力を養うことを目標とする。</p> <p>目 標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護の現場にある倫理的課題に「気づく」ことができる。</li> <li>2) 倫理的課題を分析するために「参照すべき手がかり」を見つけられる。</li> <li>3) 倫理的課題の解決のために「何をなすべきか」を考えられる。</li> </ol> <p>授業計画：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション：倫理学とは何か。</li> <li>2. 生命倫理・医療倫理の歴史的背景</li> <li>3. 自己決定権の問題：輸血拒否事案から大人と子供の自己決定を考える</li> <li>4. 自己決定と個人の価値観：生死をめぐる宗教的価値観や死生観</li> <li>5. 自己決定と死 1：安楽死・尊厳死の定義と分類</li> <li>6. 自己決定と死 2：安楽死・尊厳死の裁判事例とガイドライン</li> <li>7. 重症新生児治療の停止 1：ベビーDo 事件と日本の事例</li> <li>8. 重症新生児治療の停止 2：重症新生児の治療をめぐるルール</li> <li>9. 生命操作の問題 1：ART の分類と共通する一般的問題点</li> <li>10. 生命操作の問題 2：ART 個別の問題点と根本的倫理的問題点</li> <li>11. 生命選択の問題 1：出生前診断と選択的中絶をめぐる法とガイドライン</li> <li>12. 生命選択の問題 2：出生前診断と選択的中絶の倫理的問題</li> <li>13. 脳死と臓器移植：移植医療の倫理的問題点</li> <li>14. 残されたものへのケアと尊厳：弔いの倫理</li> </ol> <p>まとめ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>15. 終講試験</li> </ol>							講 義  必要に応じて適宜映像資料も用いる。
評価方法： 終講試験							
テキスト： 「系統看護学講座 看護倫理」第2版 医学書院 プリント							

学科目	心理学	単位数	1	時間数	30	科目区分	基礎分野
講師名	松本 敦				学期	1年前期	
科目目標・内容							方法
<p>【ねらい】 行動科学としての基礎心理学への理解を深め、脳と心の関係、神経系の働きと行動のつながりに関する知識を取得し、より深い人間観察力と考察力を身につける。</p> <p>【目標】 「ヒト」としての個人を取り上げて、その特性と内面について、脳と心の問題から考えていく。「ヒト」の多様な側面についての視点を持つようになることが目標である。</p> <p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、プロフィール(自己開示)</li> <li>2. 脳の働き、不思議な力・1400grの司令塔</li> <li>3. TEG実施、パーソナリティ</li> <li>4. TEG解説、「鏡の中のぼく」アイデンティティ</li> <li>5. 幼児体験と自我形成①「MJの場合」アイデンティティ</li> <li>6. 幼児体験と自我形成②「MJの場合」アイデンティティ</li> <li>7. ストレスと感情のコントロール 自立訓練法とマインドフルネス</li> <li>8. 学習</li> <li>9. 記憶①</li> <li>10. 記憶②</li> <li>11. 感覚・知覚</li> <li>12. 意識・無意識</li> <li>13. 心理学の流れ</li> <li>14. 総括 看護の感性</li> <li>15. 終講試験</li> </ol>							講義 ワーク
評価方法：終講試験 60点、小レポート 40点で総合評価							
<p>テキスト：なし</p> <p>参考文献：授業時に適宜紹介する。</p> <p>系統看護学講座 基礎分野 心理学 医学書院</p>							
備考：映像や配布資料によるトピックスの紹介が多くなるので、各自の資料整理やメモ取りをこまめに行っておくことが必要。ひとつでもふたつでも、自分が興味を持ったトピックス、テーマについては考えや意見をしっかりと展開できるようになって欲しい。							
講師紹介：大阪城南女子短期大学 名誉教授。専門領域：発達社会心理学、人間関係論 社会病理学。非常勤講師：関西大学、関西学院医学、帝塚山学院大学、豊中看護専門学校、平成11年4月～当校「心理学」「人間関係論」担当。							

学科目	人間関係論	単位数	1	時間数	30	科目区分	基礎分野
講師名	松本 教				学期	1年後期	
科目目標・内容							方法
<p>ねらい：人と人との関係、個人と集団との関係、社会・文化の中の個人について、主に社会心理学的な側面から学ぶ。</p> <p>目標：人はグループになったとき、一人でいるときとはまた別の自分になっている。集団の中で影響され続ける人間のありようについて考えられるようになること。</p> <p>【授業計画】</p> <p>I 人と人の関係 好きと嫌いの心理学「人の想いは複雑か単純か？」</p> <p>① 対人関係とソーシャル・スキル</p> <p>② 微笑み 第一印象</p> <p>③ 共依存・デートDV・恋愛依存症</p> <p>④ 共依存？DV</p> <p>⑤ 虐待・境界線</p> <p>⑥ もう一つの虐待・代理によるミュンヒハウゼン症候群</p> <p>II 集団と個人 状況が人を動かす・人が人を動かす 「赤信号みんなで渡れば怖くない？」</p> <p>⑦ 状況の力</p> <p>⑧ 坊観者効果</p> <p>III 集団と集団 規範・偏見・主観的現実「ウチの常識は世間の非常識？」</p> <p>⑨ 集団思考・集団決定・リーダー</p> <p>⑩ 社会的現実性の構築・態度・認知的不協和</p> <p>IV 医療現場の人間関係「感情労働の悲喜こもごも」</p> <p>⑪ 災害と看護</p> <p>⑫ 医療事故・危機管理</p> <p>⑬ 精神科病棟の人間関係</p> <p>⑭ 小児科病棟の人間関係</p> <p>⑮ 終講試験</p>							講義  ワーク
評価方法：終講試験 60点、小レポート 40点で総合評価							
<p>テキスト：なし</p> <p>参考文献：授業時に適宜紹介する。</p> <p>『系統看護学講座 基礎分野 人間関係論』第3版 医学書院</p> <p>備考：映像や配布資料によるトピックスの紹介が多くなるので、各自の資料整理やメモ取りをこまめに行っておくことが必要。ひとつでもふたつでも、自分が興味を持ったトピックス。テーマについては考えや意見をしっかりと展開できるようになって欲しい。</p>							
<p>講師紹介：大阪城南女子短期大学 名誉教授。専門領域：発達社会心理学、人間関係論、社会病理学。非常勤講師歴：関西大学、関西学院大学、帝塚山学院大学、豊中看護専門学校、平成11年4月～当校「心理学」「人間関係論」担当。</p>							

学科目	カウンセリング理論と技法	単位数	1	時間数	30	科目区分	基礎分野
講師名	友野 伸一				学期	1年後期	
科目目標・内容							方法
<p>【ねらい】 本科目は、前期で学んだ「心理学」(基礎心理学)の応用分野(応用心理学)である。「心理学」で学んだ基礎理論を基に、対人援助の実践に応用した理論と技法を学ぶ。</p> <p>【目標】 対人援助の実践は、サイエンス(science)であると同時にアート(art)でもある、とされる。対人援助の専門職を目指す者として、人間についての理解を深め、カウンセリングの理論及び技法を学ぶ意義を認識する。目標としては、本科目で学んだ知見を専門職として将来どう活かしていくか、自ら考えて実践していけるようになることを目指す。</p> <p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. カウンセラーの基本的態度 1</li> <li>3. カウンセラーの基本的態度 2</li> <li>4. カウンセラーの基本的態度 3</li> <li>5. 「カウンセリング」とは 1</li> <li>6. 「カウンセリング」とは 2</li> <li>7. 「カウンセリング」とは 3</li> <li>8. カウンセリングの歴史 1</li> <li>9. カウンセリングの歴史 2</li> <li>10. カウンセリングの歴史 3</li> <li>11. 心理療法 1    12. 心理療法 2    13. 心理療法 3    14. 心理療法 4</li> <li>15. 終講試験</li> </ol>							講義 ワーク
評価方法：終講試験 60 点、提出物 20 点、ワーク 20 点							
<p>テキスト：『メディカルスタッフのための基礎からわかるカウンセリングと心理療法』 山蔦圭輔, 南山堂(2022)</p> <p>参考図書：(以下、過去のテキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『ナーシンググラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術』志自岐ら(編), メディカ出版(2019)</li> <li>・『Next 教科書シリーズ 心理学』和田(編), 弘文堂(2017)</li> <li>・『改訂版 精神保健の基礎と実際』米山・辻(編著), 文化書房博文社(2010)</li> <li>・『看護にいかすカウンセリング』白井幸子, 医学書院(1987)</li> <li>・『はじめての臨床心理学』森谷・竹松(編著), 北樹出版(1996)</li> </ul>							
備 考：適宜、机椅子を取り除いた状態でワークを行う。各自で予めクリップボードを準備しておくこと(100 円ショップのもので構わない)							
講師紹介：主に大学において、臨床及び教育、研究に従事してきた							

学科目	家族論	単位数	1	時間数	15	科目区分	基礎分野
講師名	笹部 建				学期	1年後期	
科目目標・内容							方法
<p>ねらい・目標</p> <p>「現代」の社会における家族の内実をより詳細に論じるためには、まずもって家族の「歴史」について、その深度と複雑さを学ぶことが肝要となる。家族の機能や構造が、社会に対して／または個人に対して、どのような役割を担ってきたのかを、地域ごと、時代ごとの個別具体性を損なわずに把握することが前半の目標となる。</p> <p>授業の後半では、現代の家族像の変化とその要因を明らかにしていき、これからの(=未来の)家族の在り方を模索し、いくらかの道筋を立てていくことが目指される。</p> <p>授業計画</p> <p>各回で個別テーマを設け、前後で関連性を持たせながら進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族の定義・機能・類型・構造</li> <li>2. 家族の歴史</li> <li>3. 家族と社会階層</li> <li>4. 家族と国家</li> <li>5. 家族と差別</li> <li>6. 家族と福祉</li> <li>7. 家族とグローバル化</li> </ol> <p>7.5 終講試験</p>							<p>講義形式</p> <p>教室で印刷物を配布し、その画像をプロジェクタで表示しながら授業を行う。</p> <p>回によっては映像資料やグループワーク用資料を適宜使用し、ゲストスピーカーに来てもらうこともある。</p>
評価方法 : 授業内課題 30点 終講試験 70点							
<p>テキスト : 『系統看護学講座 別巻 家族看護学』第1班 医学書院</p> <p>参考図書 : A. ギデンズ、1995年『親密性の変容』而立書房 筒井淳也、2016年『結婚と家族のこれから：共働き社会の限界』光文社 U. ベックほか、2014年『愛は遠く離れて：グローバル時代の「家族」のかたち』岩波書店</p> <p>※その他、参考図書は授業時に配布資料での引用等を通じて適宜指示していく。</p>							
<p>講師紹介 行岡では2015年から「社会学入門」の講義を担当してきました。専門は文化社会学、メディア研究。最近は大阪市内でまちづくりにも関わっており、地域で貧困世帯や片親世帯、外国人家庭のために子ども食堂や学習支援をされている方のお手伝いなどもやっています。</p>							

学科目	文化人類学	単位数	1	時間数	15	科目区分	基礎分野
講師名	熱田典子				学期	1年前期	
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>人間が生存のためにそれぞれの地で行ってきた活動によって築き上げた文化と今の私たちとの関係を理解することによって、「人間」を文化より見る。そして、文化のつながりと人間の生存の在り方を考えることによって、「人間とは何か」を学ぶ。</p> <p>目 標</p> <p>「人間」との関りの中で、生活、生存、そして死について、文化をはじめとした様々な方向から考えることができる。またそのような視野を持つ。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 私たち「人間」とは何か</li> <li>2. 質的研究と文化人類学</li> <li>3. 人生と宗教・通過儀礼</li> <li>4. 家族そして食べること文化</li> <li>5. 人間の健康と死</li> <li>6. 7回目：ゲストスピーカーにより、アフリカやアジアの少数民族（ウイグル等）の文化について学ぶ&amp; 小論文</li> <li>7.5 小論文</li> </ol>							講義
評価方法：小論文 100 点							
<p>テキスト：系統看護学講座 「文化人類学」第4版 医学書院</p> <p>参考図書：参考資料は都度プリント配布</p>							
講師紹介	<p>アジア協会アジア友の会 副事務局長</p> <p>大阪経済法科大学 客員研究員</p> <p>大精協看護専門学校 文化人類学講師</p>						

# 專 門 基 礎 分 野



## 専門基礎分野

### 1. 考え方

看護学は人間を対象とし概論・援助論・演習を統合させ展開することで成立する学問である。そこで、専門基礎分野では看護の対象である人間の健康と生活を、基礎分野で学んだ統合体としての人間を捉える知識と態度を基盤にし、人間を一つの生命体として存在していると捉えるために必要な知識や社会保障制度と健康支援について学ぶ。これらの知識を健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復促進に関する観察力・判断力・調整力の根拠とし、看護を実践する基礎的能力を養う。

### 2. 科目の設定および設定の理由

専門基礎分野 22 単位、570 時間。

人間を成長・発達・変化している身体的・精神的・社会的・霊的（スピリチュアル）に統合された存在として捉え、幅広く理解するにあたり、特に人体の構造や生命現象の機能、回復促進について科学的判断力や自然治癒力を高めるための基礎知識として解剖生理学、生化学、栄養学、東洋健康科学を設定した。また、薬理学、微生物学、病理学総論、疾病治療論、臨床検査では病因・病態・症状の特徴と検査・治療について理解し、人々の健康上の課題に対応し、健康状態に応じた科学的根拠に基づく看護を実践する基礎知識を学ぶ。

さらに、医療概論、公衆衛生、社会福祉学、関係法規において、保健医療福祉制度の動向と今後の保健・医療・福祉のあり方、疾病構造の変化や社会の中での組織的な保健活動と社会資源の活用、現代医療が抱えている諸問題について基礎的知識を学び、看護の実践において調整できる能力を養う。

学科目	解剖生理学 I	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門基礎分野
講師名	稲垣 忍			学期	1 年前期		
科目目標・内容							方法
<p>ねらい</p> <p>人体の構造、生命現象の機能について学び、健康障害を学ぶ基礎とし看護実践に根拠づける。 人体、消化と吸収、呼吸器</p> <p>目標</p> <p>「正常な人体の構造と機能」の知識を身につけ、疾病の成り立ちを考え理解できる。</p> <p>教科書の I 章 解剖生理学のための基礎知識、2 章 栄養の消化と吸収、3 章 呼吸と血液の働き について学ぶ。</p> <p>単元ごとに副読本のワークブックで知識・理解の確認を行う。</p> <p>授業計画【2コマ分ずつ記載】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1章 基礎知識 A形から見た人体：体表から触知する人体の構造、人体の構造と区分、人体の部位と器官</li> <li>1章 基礎知識 B素材から見た人体：細胞の構造、細胞を構成する物質とエネルギー生成、細胞膜の構造と機能</li> <li>1章 基礎知識 B素材から見た人体：細胞の増殖と染色体、分化した細胞が作る組織、C：機能から見た人体</li> <li>2章 栄養の消化と吸収：A 口・咽頭・食道の構造と機能 B 腹部消化管の構造と機能</li> <li>2章 栄養の消化と吸収：C 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 D 腹膜</li> <li>3章 呼吸と血液のはたらき：A 呼吸器の構造 B 呼吸</li> <li>3章 呼吸と血液のはたらき：C 血液</li> </ol> <p>15. 終講試験</p>							講義
評価方法 終講試験							
テキスト 系統看護学講座 人体の構造と機能[1] 解剖生理学、第 11 版 医学書院 解剖生理学ワークブック 医学書院							
講師紹介:大阪行岡医療大学で神経解剖学・内臓解剖学、内臓生理学、解剖学実習を担当							

学科目	解剖生理学Ⅱ	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門基礎分野
講師名	稲垣 忍				学期	1年前期	
科目目標・内容							方法
<p>ねらい</p> <p>人体の構造、生命現象の機能について学び健康障害を学ぶ基礎とし看護実践の根拠づけとする。 心臓、末梢循環系、血液、腎臓、体液、内分泌</p> <p>目 標</p> <p>「正常な人体の構造と機能」の知識を身につけ、疾病の成り立ちを考え理解できる。 教科書の4章血液の循環とその調節、5章体液の調節と尿、6章内臓機能の調節について学ぶ。單元ごとに副読本ワークブックで知識・理解の確認を行う。</p> <p>授業計画 【2コマ分ずつ記載】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 4章 血液の循環とその調節 : A 循環器系の構成 B 心臓の構造、 C 心臓の拍出機能</li> <li>2. 4章 血液の循環とその調節 : D 末梢循環系の構造</li> <li>3. 4章 血液の循環とその調節 : E 血液の循環の調節 F リンパとリンパ管</li> <li>4. 5章 体液の調節と尿 : A 腎臓</li> <li>5. 5章 B 排尿路、体液の調節</li> <li>6. 6章 内臓機能の調節</li> <li>7. 6章 内臓機能の調節</li> </ol> <p>15. 終講試験</p>							講義
評価方法 : 終講試験							
<p>テキスト : 系統看護学講座 人体の構造と機能[1]解剖生理学 第11版 医学書院 解剖生理学ワークブック 医学書院</p> <p>参考書 : 病気の地図帳、講談社 イメージできる解剖生理学 メディカ出版(自習用)</p>							
講師紹介 : 大阪行岡医療大学で神経解剖学、内臓解剖学、内臓生理学、解剖学実習を担当							

学科目	解剖生理学Ⅲ	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門基礎分野
講師名	宮野音 亜也				学期	1年後期	
科目目標・内 容							方法
<p>ねらい</p> <p>人体の構造、生命の現象の機能について学び、健康障害を学ぶ基礎とし看護実践の根拠づけとする。骨格・骨格筋、神経系、脊髄と脳、運動機能</p> <p>目標</p> <p>「正常な人体の構造と機能」の知識を身につけ、疾病の成り立ちを考え理解できる。</p> <p>教科書の7章 身体の支持と運動、 8章 情報の受容と処理について学ぶ。單元ごとに副読本ワークブックで知識・理解の確認を行う。</p> <p>授業計画 2コマずつ記載</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7章 身体の支持と運動 A 骨格、B 骨の連結</li> <li>7章 身体の支持と運動 C 骨格筋 D 体幹の骨格と筋 E 上肢の骨格と筋</li> <li>7章 身体の支持と運動 F 下肢の骨格と筋、G 頭頸部の骨格と筋、H 筋の収縮</li> <li>8章 情報の受容と処理 A 神経系の構造と機能、B 脊髄と脳、C 脊髄神経と脳神経</li> <li>8章 情報の受容と処理 D 脳の高次機能、 E 運動機能と下行伝導路、F 感覚機能と上行伝導路</li> <li>8章 情報の受容と処理 G 眼の構造と視覚</li> <li>8章 情報の受容と処理 H 耳の構造と聴覚</li> <li>終講試験</li> </ol>							講 義
評価方法 : 終講試験							
テキスト : 系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 第11版 医学書院 解剖生理学ワークブック 医学書院							
講師紹介 : 大阪大学大学院 医療系研究科 修士課程在籍							

学科目	解剖生理学Ⅳ	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門基礎分野
講師名	中山 穂香				学期	1年後期	
科目目標・内容							方法
<p>ねらい</p> <p>人体の構造、生命の現象の機能について学び、健康障害を学ぶ基礎知識を身につける。</p> <p>目標</p> <p>「正常な人体の構造と機能」の知識を身につけ、疾病の成り立ちを考え理解できる。 教科書の9章身体機能の防御と適応、10章生殖・発生と老化のしくみ について学ぶ。單元ごとに副読本のワークブックで知識・理解の確認を行う。</p> <p>授業計画 【2コマ分ずつ記載】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 8章 情報の受容と処理 I 味覚と嗅覚、J 痛み</li> <li>2. 9章 身体機能の防御と適応:A 皮膚の構造と機能</li> <li>3. 9章 身体機能の防御と適応:B 生体の防御機能</li> <li>4. 9章 身体機能の防御と適応:C 代謝と運動、D 体温とその調節</li> <li>5.6. 10章 生殖・発生と老化のしくみ A 男性生殖器 B 女性生殖器</li> <li>7. 10章 生殖・発生と老化のしくみ C 受精と胎児の発生、D 成長と老化</li> <li>8. 終講試験</li> </ol>							講義
評価方法： 終講試験							
テキスト： 系統看護学講座 人体の構造と機能[1]解剖生理学、第11版 医学書院							
副読本： 解剖生理学ワークブック 医学書院							
講師紹介： 大阪大学大学院医学研究科 修士課程在籍							

学科目	生化学	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門基礎分野
講師名	折田久美				学期	1年前期	
科目目標・内容						方法	
<p>ねらい</p> <p>人体の構成成分である化学物質の性状、その分析、及び代謝について学び、人間の生命現象を科学的に判断する能力を養う。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生化学を学ぶための基礎知識</li> <li>2. 糖質</li> <li>3. 脂質</li> <li>4. タンパク質</li> <li>5. 核酸、水分、ミネラル</li> <li>6. ホルモン</li> <li>7. 酵素</li> <li>8. ビタミンと補酵素</li> <li>9. 糖代謝</li> <li>10. 脂質代謝</li> <li>11. コレステロール代謝</li> <li>12. タンパク質代謝</li> <li>13. 核酸代謝・ポルフィリン代謝</li> <li>14. 遺伝情報</li> <li>15. 総まとめ・国家試験門問題</li> </ol>						講義	
評価方法： 終講試験							
テキスト： 系統看護学講座 専門基礎分野 人体と構造の機能〔2〕 生化学 第14版 医学書院							
<p>講師紹介： 大阪市立大学大学院医学研究科 皮膚病態学 医学博士</p> <p>講師の実績に基づき生化学研究の予備的な知識を与えると同時に、先端研究の一端も紹介する。</p>							

学科目	栄養学	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門基礎分野
講師名	折田 久美					学期	1年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>人間の生命維持・成長に必要な栄養について学び、食事と健康の維持・回復との関係について理解を深める。</p> <p>授業計画：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床栄養学と看護</li> <li>2. 栄養状態の評価・判定（定義と目的）</li> <li>3. 栄養状態の評価・判定法（臨床診査、身体計測、臨床検査、食事調査）</li> <li>4. 栄養ケアマネージメント（栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養ケア計画、計画の実施とチェック、モニタリング、評価）</li> <li>5. 糖質（栄養素としての役割と代謝）</li> <li>6. 脂質（栄養素としての役割と代謝）</li> <li>7. タンパク質（栄養素としての役割と代謝）</li> <li>8. 栄養素の種類とはたらき タンパク質、ビタミン、ミネラル、水分</li> <li>9. ライフステージと栄養 学童期、思春期・青年期、成人期、妊娠・授乳期、更年期、高齢期</li> <li>10. 疾患別食事療法の実際（循環器疾患、消化器疾患）</li> <li>11. 疾患別食事療法の実際（栄養・代謝疾患）</li> <li>12. 疾患別食事療法の実際（腎臓疾患、血液疾患、食物アレルギー疾患、骨粗鬆症、小児疾患、妊娠高血圧症候群）</li> <li>13. 栄養素の消化・吸収</li> <li>14. 食事摂取基準、栄養素の摂り方</li> <li>15. 総まとめ・国家試験問題</li> </ol>							講義
							演習
評価方法：終講試験							
テキスト：系統看護学講座 人体の機能と構造〔3〕栄養学 第14版							
<p>講師紹介：大阪市立大学大学院医学研究所 皮膚病態学 医学博士</p> <p>講師の実務経験から食事内容と疾病との関係性にに基づき、栄養学研究の予備的な知識を与えるとともに、実際の食事管理指導内容の一端も紹介する。</p>							

学科目	薬理学	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門基礎分野
講師名	篠原光子					学期	1年後期
科目目標・内容							方法
<p>ねらい</p> <p>薬理の特徴、作用機序、人体への影響および薬物の取扱い、管理について学ぶ。</p> <p>目標</p> <p>疾病に対する診断・治療について基本的な知識を得る。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 総論 薬理学とは、薬物について、薬物の作用機序、治療法など</li> <li>2. 薬物の動態、薬理作用の変動など</li> <li>3. 薬物の取扱い・管理、日本薬局方など</li> <li>4. 薬物の連用・併用など</li> <li>5. 薬物の副作用・併用など</li> <li>6. 各論 中枢神経と薬</li> <li>7. 末梢神経と薬</li> <li>8. 痛みと薬</li> <li>9. 炎症と抗炎症薬</li> <li>10. 感染と薬</li> <li>11. 血液と薬</li> <li>12. 呼吸・循環系と薬</li> <li>13. 消化器系と薬</li> <li>14. 代謝と薬 悪性腫瘍と薬</li> <li>15. 終講試験</li> </ol>							講義
評価方法： 終講試験							
<p>テキスト： 系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進 [3] 薬理学 第15版</p> <p>参考書 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学</p> <p>治療薬マニュアル 2021 (調べものパック)</p>							
<p>講師紹介： 大阪歯科大学 薬理学講座 教授 平成25年3月31日</p> <p>平成11年～当科「薬理学」担当</p> <p>大学の薬理学講座に勤務し、学生の教育・研究にあたる。</p>							



学科目	微生物学	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門基礎分野
講師名	浜田 茂幸				学期	1年前期	
科目目標・内容							方法
<p>ねらい</p> <p>微生物が生物界においてどのような位置を占め、自然界のどこにいて、生き物としてどのような生活をしているか、一方、微生物が人体内に侵入した後、体内でどのような反応や現象が起こり、感染から個体を防御しているか、さらに感染症と人間の社会との関係を理解する。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 微生物と微生物学</li> <li>2. 細菌の性質</li> <li>3. 真菌の性質</li> <li>4. 原虫の性質</li> <li>5. ウイルスの性質</li> <li>6. 感染と感染症</li> <li>7. 感染に対する生体防御機能</li> <li>8. 感染源・感染経路からみた感染症</li> <li>9. 感染症の予防</li> <li>10. 感染症の診断</li> <li>11. 感染症の治療</li> <li>12. 病原細菌と細菌感染症</li> <li>13. 病原真菌と真菌感染症</li> <li>14. 病原原虫と原虫感染症 おもなウイルスとウイルス感染症 感染症の現状と対策</li> <li>15. 終講試験</li> </ol>							講義
評価方法： 終講試験							
テキスト： 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進〔4〕 微生物学 第14版 医学書院							
講師紹介： 大阪大学名誉教授 大阪大学微生物研究所招聘教授 専門は病原細菌学							

学科目	病理学総論	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門基礎分野
講師名	小 仲 邦					学期	1年後期
科目目標・内容							方法
ねらい 病因と病変の特徴について理解する。  目 標 疾病の要因と生体反応について基本的な理解をする。  授業計画 1. 病理学とは、病因、病理 検査の基本 2. 細胞の障害と適応 3. 循環障害、臓器不全 4. 出血、炎症、免疫反応 5. 免疫細胞、免疫異常 6. 内分泌異常、代謝異常 7. 遺伝子異常、先天異常 7.5 終講試験							講 義
評価方法 : 終講試験							
テキスト : 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [1] 病理学 医学書院							
講師紹介 : 大阪行岡医療大学 医療学部 理学療法学科 教授							

学科目	疾病治療論 I	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門基礎分野
講師名	仁科 昌久				学期	1年後期	
科目目標・内容							方法
<p>ねらい 循環器・呼吸器に障害があるときは全身にどのような影響があるのか、診断、治療、処置の一般的な内容、特殊な内容を理解する。</p> <p>目 標 各疾患の病態と診断・治療について基本的な理解をする。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 呼吸器概論(1) 呼吸器の構造と機能</li> <li>2. 呼吸器概論(2) 同上 症状とその病態生理</li> <li>3. 呼吸器概論(3) 症状とその病態生理、検査と治療</li> <li>4. 呼吸器概論(4) 検査と治療、疾患の理解 感染症：かぜと急性気管支炎</li> <li>5. 各論(2) 感染症：インフルエンザ、肺炎、結核</li> <li>6. 各論(3) 間質性肺疾患：原因不明の間質性肺炎)、サルコイドーシス、好酸球性肺疾患、過敏性肺炎、塵肺、膠原病に伴う肺病変（間質性肺炎）、薬剤性肺炎、放射線肺炎</li> <li>7. 呼吸器(4) 管支喘息、気管支拡張症、慢性閉塞性肺疾患、肺循環疾患：肺血栓塞栓症、肺高血圧症、呼吸不全、呼吸調節に関する疾患：過換気症候群、睡眠時無呼吸症候群、肺腫瘍：良性腫瘍、悪性腫瘍（原発性肺がん、転移性肺腫瘍）、肺・肺血管の形成異常、胸膜・縦隔・横隔膜の疾患、肺移植、胸部外傷</li> <li>8. 循環器概論(1) 循環器の構造と機能</li> <li>9. 循環器概論(2) 症状とその病態生理 胸痛、動悸、呼吸困難、浮腫、チアノーゼ、めまい・失神、四肢の疼痛、ショック</li> <li>10. 循環器概論(3) 検査と治療 各論(1)疾患の理解 虚血性心疾患</li> <li>11. 各論(2)心不全、血圧異常 12. 各論(3)不整脈 13. 各論(4)弁膜症、心膜炎</li> <li>14. 各論(5)心筋疾患、肺性心、先天性心疾患、動脈系疾患、静脈系疾患、リンパ系疾患</li> <li>15. 終講試験</li> </ol>							講義
評価方法： 終講試験 (呼吸器系 45分 50点、循環器系 45分 50点)							
テキスト： 系統看護学講座 成人看護学〔2〕呼吸器 第15版 成人看護学〔3〕循環器 第15版 医学書院 プリント							
講師紹介 仁科医院 院長							

学科目	疾病治療論Ⅱ	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門基礎分野
講師名	村田 紀和・藤原 正昭					学期	1年後期
科目目標・内容							方法
<p>ねらい</p> <p>骨・筋系・脳神経系に障害があるときは全身にどのような影響があるのか、診断、治療、処置の一般的な内容、特殊な内容を理解し、看護実践における健康・疾病に関する観察力・判断力の根拠とする。</p> <p>目 標</p> <p>各疾患の病態と診断・治療について基本的な理解をする。</p> <p>授業計画【骨・筋系】15時間 講師:村田 紀和</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 整形外科の基礎</li> <li>2. 外傷・感染</li> <li>3. 関節リウマチと類縁疾患</li> <li>4. OA、結晶誘発性関節炎など</li> <li>5. 代謝性骨疾患</li> <li>6. 治療</li> <li>7. その他の種々の疾患</li> <li>7.5 終講試験</li> </ol> <p>【脳神経系】15時間 講師:藤原 正昭</p> <p>授業計画</p> <p><u>臨床に必要な神経解剖・生理</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 頭部軟部組織 顔面の表情筋＝顔面神経支配 顔面の感覚 三叉神経血管(頭蓋軟部組織は外頸動脈が灌流) 頭蓋骨 頭蓋底 髄膜 神経細胞(ニューロン)と神経膠(グリア) シナプスと神経伝達物質 中枢神経系の臓器特殊性</li> <li>2. 大脳新皮質と辺縁系 大脳基底核と錐体外路系 白質;内包、大脳脚、脳梁 間脳;視床と視床下部 視床下部・下垂体系 脳幹 小脳 脊髄</li> <li>3. 脳室・くも膜下腔・脳脊髄液、脳動脈 脳静脈・静脈洞 脳の病態生理 頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア 髄膜刺激症状</li> <li>4. <u>症候論</u>:頭痛 失語症 構音障害 失行と失認 運動麻痺 失調 不随意運動 けいれんとてんかん 筋萎縮 感覚障害 嚥下障害 排尿・排便障害 <u>検査・診断</u>: 神経学的診察 運動・感覚検査 脳神経検査 高次脳機能検査 <u>補助検査法</u>: 頭部単純X線撮影 CT スキャン MRI 脳血管撮影(DSA)、 SPECT,PET 脳波など</li> </ol> <p>5.6.7 <u>疾患の理解</u></p> <p>脳血管障害:くも膜下出血 脳内出血 脳梗塞</p>							講義

<p>脳腫瘍;神経膠腫と脳実質腫瘍 頭部外傷  脊髄疾患:脊髄血管障害 脊髄腫瘍 脊髄空洞症など  末梢神経障害;糖尿病性ニューロパチー ギラン/バレー症候群  単ニューロパチー 筋ジストロフィーなど筋疾患 脱髄・変性疾患  感染症 中毒 認知症 内科疾患に伴う神経疾患</p> <p>7.5 終講試験</p>	
<p>評価方法： 終講試験 国家試験に準ずる多肢選択試験  評価配分： 骨筋系 50 点 脳神経系 50 点</p>	
<p>テキスト： 系統看護学講座 成人看護学〔7〕 脳・神経 第 15 版 医学書院  成人看護学〔10〕 運動器 第 15 版 医学書院  他 資料 参考資料 病気がみえる 7 脳・神経 発行:メディックメディア</p>	
<p>備 考： 既習の解剖生理学 I ～IVを基盤とし、成人看護学、老年看護学の基礎となる科目である</p>	
<p>講師紹介：  藤原正昭  岡山大学大学院医学研究科にて神経化学(脳内アセチルコリン代謝)研究にて医学博士号取得。昭和 53 年より大阪厚生年金病院、大阪大学医学部附属病院脳神経外科にて脳神経外科臨床に従事し、昭和 58 年脳神経外科専門医となる。その後、市立豊中病院脳神経外科医長、行岡病院脳神経外科部長、医誠会病院部長など経て、平成 20 年より現職の行岡保健衛生学園顧問。行岡病院にて中枢神経疾患のリハビリテーション臨床に従事している。病院での診療にかかわりつつ昭和 61 年より行岡理学療法専門学校(現 大阪行岡医療大学医療学部)はじめ行岡保健衛生学園の看護専門学校、柔道整復師専門学校、鍼灸専門学校にても神経解剖・生理及び神経疾患の臨床系講義を担当している。神経疾患の臨床を行うには基盤に神経解剖生理の知識が不可欠である。神経解剖・生理は複雑でむつかしいと思われるが、ひとつひとつの項目を理解して積み重ねればとても興味の湧くものである。しっかりとした基礎の上に正しい臨床経験を積めるように指導することを目指している。</p> <p>村田紀和 行岡病院 整形外科医師</p>	

学科目	疾病治療論Ⅲ	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門基礎分野
講師名	池田 昌弘 ・ 仁科 昌久					学期	1年後期
科目目標・内容							方法
<p>ねらい</p> <p>消化器系・内分泌系・代謝系に障害があるときは全身にどのような影響があるのか、診断、治療、処置の一般的な内容、特殊な内容を理解する。</p> <p>目 標</p> <p>各疾患の病態と診断・治療について基本的な理解をする。</p> <p>授業計画【消化器系】池田昌弘 15 時間</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 消化器 構造</li> <li>2. 消化器 機能・症状</li> <li>3. 消化器 症状 検査</li> <li>4. 検査・治療</li> <li>5. 治療 疾患Ⅰ</li> <li>6. 疾患Ⅱ</li> <li>7. 疾患Ⅲ</li> </ol> <p>7.5. 終講試験</p> <p>授業計画【内分泌・代謝系】仁科昌久 15 時間</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1～2. 内分泌概論①② 内分泌・代謝器官の構造と機能</li> <li>3. 内分泌概論③ 症状とその病態生理 検査 各論① 疾患の理解 内分泌疾患</li> <li>4. 各論② 視床下部-下垂体後葉系疾患</li> <li>5. 各論③ 甲状腺疾患 副甲状腺疾患 副腎疾患</li> <li>6. 各論④ 性腺疾患 膵・消化管神経内分泌腫瘍 多発性内分泌腫瘍症 内分泌疾患の救急治療</li> <li>7. 各論⑤ 代謝疾患 糖尿病 脂質異常症 肥満症とメタボリックシンドローム 尿酸代謝異常</li> </ol> <p>7.5. 終講試験</p>							講義
評価方法 終講試験 (消化器 50点 内分泌・代謝 50点)							
<p>テキスト 消化器系 プリント</p> <p>内分泌・代謝系 系統看護学講座 成人看護学〔5〕 内分泌・代謝 第15版</p> <p>参考書 系統看護学講座 成人看護学〔5〕消化器 第15版</p>							
備 考：既習の解剖生理学Ⅰ～Ⅳを基盤とし、成人看護援助論・成人看護学演習の基礎となる科目である							
<p>講師紹介：池田 昌弘 学校長</p> <p>医師として長年携わってきた専門領域をコンパクトにまとめてお話しします。</p> <p>仁科 昌久 仁科医院 院長</p>							

学科目	疾病治療論Ⅳ	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門基礎分野
講師名	塚本 達雄・遠藤 知美・森 慶太・高柳 俊亮 奥山 明彦				学期	1年後期	
科目目標・内容							方法
<p>ねらい</p> <p>腎・泌尿器系に障害があるときは全身にどのような影響があるのか、診断治療、処置の一般的な内容、特殊な内容を理解する。</p> <p>目 標</p> <p>各疾患の病態と診断、治療について基本的な理解をする。</p> <p>授業計画</p> <p>【腎系】 塚本達雄・遠藤知美・森慶太・高柳俊亮 8.5時間</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 腎臓の構造と機能（高柳）</li> <li>2. 急性腎不全・慢性腎不全（急性腎障害・慢性腎臓病）（森）</li> <li>3. 腎炎とネフローゼ（遠藤）</li> <li>4. 腎臓病の治療 腎代替療法（血液透析、腹膜透析、腎移植）（塚本）</li> </ol> <p>終講試験</p> <p>【泌尿器】 奥山明彦 6.5時間</p> <p>授業計画</p> <p>1～3. 泌尿器科学、総論</p> <p>泌尿器とは、尿に学ぶ、患者さんから学ぶ泌尿器科の看護、構造と機能、症状と病態、検査と処置、泌尿器疾患と看護の特徴</p> <p>終講試験</p>							講 義
評価方法：終講試験（腎系60点 泌尿器40点）							
テキスト：系統看護学講座 成人看護学[8] 腎・泌尿器 第15版 医学書院 プリント							
備 考：既習の解剖生理学Ⅰ～Ⅳを基盤とし、成人看護学・老年看護学の基礎となる科目である。							
講師紹介							
腎 系：北野病院 腎臓内科医師							
泌尿器系：顧問 行岡病院泌尿器科医師							

学科目	疾病治療論Ⅴ	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門基礎分野
講師名	山手 百合香 ・ 浜田 茂幸				学期	1年次後期	
科目目標・内容							方法
<p>ねらい 血液・造血器系・免疫系に障害があるときは全身にどのような影響があるのか、診断、治療、処置の一般的な内容、特殊な内容を理解する。</p> <p>目 標 各疾患の病態と診断・治療について基本的な理解をする。</p> <p>【血液・造血器】 山手百合香 14.5 時間 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 血球の種類と分化</li> <li>2. 血液検査と異常値</li> <li>3. 貧血の種類と病態</li> <li>4. 貧血の種類と治療</li> <li>5. 白血病の種類と病態</li> <li>6. 白血病の検査・治療</li> <li>7. 造血器移植治療など</li> </ol> <p>7.5 終講試験</p> <p>【免疫・感染】 浜田 茂幸 14.5 時間 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 免疫のしくみとアレルギー（Ⅰ型アレルギー）</li> <li>2. アレルギーのしくみ 検査と治療</li> <li>3. アレルギー症状と疾患の理解</li> <li>4. アレルギー症状疾患の理解 免疫トレランス</li> <li>5. 膠原病 症状とその病態生理</li> <li>6. 膠原病 検査と治療 関節リウマチ</li> <li>7. 膠原病 症状と疾患の理解</li> </ol> <p>7.5 終講試験</p>							講義
評価方法 : 終講試験 (血液・造血器 50 点 免疫・感染 50 点)							
テキスト : 系統看護学講座 成人看護学 [4] 血液・造血器 第 15 版 医学書院 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症 第 15 版 医学書院							
講師紹介 山手百合香 : 大阪大学大学院医学系研究科 浜田茂幸 : 大阪大学名誉教授、大阪大学微生物病研究所招聘教授							



学科目	疾病治療論VI	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門基礎分野
講師名	二宮欣彦・瀧端 睦・川上友美・折田久美・妹尾日登美					学期	2年後期
科目目標・内容							方法
<p>ねらい</p> <p>感覚器系（眼・耳鼻咽喉・皮膚・歯・口腔）に障害があるときは身体にどのような影響があるのか、診断、治療・処置の一般的な内容、特殊な内容を理解し、看護実践における健康・疾病に関する観察力・判断力の根拠とする</p> <p>目 標</p> <p>各疾患の病態と診断、治療について基本的な理解をする。</p> <p>【眼】9時間（二宮 7時間 瀧端 2時間）</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 眼科総論</li> <li>2. 看護を学ぶにあたって</li> <li>3・4 検査と治療、疾患の理解</li> </ol> <p>内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 症状とその病態生理（視機能に関連する症状・関連しない症状）</li> <li>2. 検査・処置：眼底検査</li> <li>3. 治療：眼底 光凝固療法、網膜剥離治療、眼内レンズ挿入術</li> <li>4. 眼系の疾患の病態と診断・治療： <ol style="list-style-type: none"> <li>a.視覚障害（白内障、緑内障、網膜剥離、網膜症）、中途視覚障害者</li> </ol> </li> </ol> <p>【耳鼻咽喉】川上友美 6時間</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 耳・鼻疾患</li> <li>2. 咽喉頭疾患</li> <li>3. 難聴、めまい</li> </ol> <p>内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 症状とその病態生理（耳、鼻、口腔・唾液腺・咽頭、喉頭に現れる症状と病態生理）</li> <li>2. 検査・処置：聴力検査、経鼻内視鏡検査、味覚検査</li> <li>3. 治療：鼓室形成術、小線源治療</li> <li>4. 疾患の理解（耳疾患、鼻疾患、口腔・咽喉頭疾患、気道・食道・頸部疾患と音声・言語障害、難聴、音声ならびに嚥下障害、摂食・嚥下障害） 聴覚障害（難聴、Meniere&lt;メニエール&gt;病）、副鼻腔炎） 嗅覚・味覚障害</li> </ol> <p>【皮膚】 折田久美 8時間</p> <p>授業計画</p>							講義

<p>1. 皮膚構造、スキンケア、発疹  2. 老化、アトピー、熱傷、褥創  3. スクール、アレルギー、紅斑  4. 国家試験対策問題</p> <p>内容</p> <p>1. 症状とその病態生理（発疹、掻痒（かゆみ）、皮膚の老化）  2. 検査と治療・処置  3. 皮膚疾患の理解（表在性皮膚疾患、真皮・皮下脂肪識及び皮膚付属器の疾患、脈管系の皮膚疾患、物理・化学的皮膚障害、腫瘍及び色素異常症、感染症、内臓疾患に伴う皮膚病変）  d.皮膚障害（湿疹、アトピー性皮膚炎、带状疱疹、疥癬、蜂窩識炎）  触覚障害、末梢神経障害  4. スキンケア</p> <p>【歯・口腔】 妹尾日登美 6時間</p> <p>授業計画</p> <p>1. 口腔の解剖、歯科疾患  2. 口腔外科疾患  3. 口腔外科疾患と口腔ケア</p> <p>内容</p> <p>1. 症状とその病態生理（口腔症状、顎口腔機能障害）  2. 検査と治療処置  3. 疾患の理解（歯の異常と疾患、歯周組織の疾患、齶蝕に続発する疾患、口腔粘膜の疾患、口腔領域の悪性腫瘍・口腔領域の先天異常及び発育異常、唾液線の疾患、舌の疾患）  4. 機能障害（咀嚼障害・嚥下障害） c.嗅覚・味覚障害</p> <p>【終講試験】0.5時間</p>	
<p>評価方法：終講試験（眼 25点 耳鼻咽喉 25点 皮膚 25点 歯・口腔 25点）</p>	
<p>テキスト：系統看護学講座 成人看護学[12] 皮膚 第15版  成人看護学[13] 眼 第14版、成人看護学[14] 耳鼻咽喉 第14版  成人看護学[15] 歯・口腔 第14版 医学書院</p>	
<p>講師紹介 二宮欣彦 行岡病院 眼科部長 副院長、大阪大学医学部臨床教授  泷端 睦 行岡病院 眼科医師  川上 友美 行岡病院 耳鼻咽喉科医師  妹尾 日登美 行岡病院 歯科部長  折田 久美 大阪市立大学大学院医学研究科 皮膚病態学 医学博士</p>	

学科目	臨床検査	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門基礎分野
講師名	秦野 満喜子 ・ 吉川 嘉寿浩 名田 克彦 ・ 森松 弘和				学期	2年後期	
科目目標・内容							方法
<p>ねらい</p> <p>看護師は、対象者の客観的生体反応の検査データの解釈・アセスメントを行い、必要かつ適切な看護を実践することが求められます。</p> <p>臨床検査の意義や目的を理解し、検査データを解釈できることを目標とします。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床検査の基礎(意義・目的・種類・評価)</li> <li>2. 検体検査Ⅰ(生物化学分析検査)</li> <li>3. 検体検査Ⅱ(形態検査)</li> <li>4. 生理機能検査(循環機能・呼吸機能・神経生理機能・超音波検査)</li> <li>5. 放射線と被曝線量について(吉川) 2時間</li> <li>6. X線を使用した撮影(一般撮影・造影検査・CT撮影)(名田 2時間)</li> <li>7. 磁気共鳴画像(MRI)検査(森松 2時間)</li> </ol> <p>7.5 終講試験</p>							講義
評価方法：終講試験 秦野 55点 吉川 15点 名田 15点 森松 15点							
<p>テキスト：プリント</p> <p>系統看護学講座 臨床検査 第8版</p> <p>臨床放射線学 第10版 医学書院</p>							
<p>講師紹介</p> <p>秦野満喜子：限病院勤務 臨床検査技師。</p> <p>吉川嘉寿浩：大阪行岡医療専門学校長柄校 放射線科勤務。専任教員、診療放射線技師。</p> <p>名田克彦：大阪行岡医療専門学校長柄校 放射線科勤務。専任教員、診療放射線技師、臨床工学技士。</p> <p>森松宏和：医療法人淀こんせん会金井病院勤務。医療技術副部長 放射線技師 行岡医学技術専門学校非常勤講師</p>							

学科目	医療概論	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門基礎分野
講師名	池田昌弘					学期	1年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的 医療の変遷と役割を理解し、医療制度と今後の医療のあり方について学ぶ。</p> <p>目標 医療の歴史と成立要件、現在の医療を取り巻く環境（患者の置かれている環境、医療制度、医療資源、医療スタッフ等）、疾患とその診断・治療について学ぶ。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医学と医療、医療の歴史</li> <li>2. 医療の対象</li> <li>3. 医療の方法</li> <li>4. 患者の置かれた環境—自然・生活環境、社会環境</li> <li>5. 医療職、医療制度</li> <li>6. 疾患の診断・治療</li> <li>7. 現代医療の問題点</li> </ol> <p>7.5 終講試験</p>							講義
評価方法：終講試験							
<p>テキスト：なし</p> <p>参考書：系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔1〕医療概論、医学書院。</p>							
<p>講師紹介：学校長 池田 昌弘</p> <p>医療概論に含まれる内容は多岐にわたり、国家試験でも大きなウエートを占めています。臨床経験を生かした講義を目指していますが、いっしょに学んでいきましょう。</p>							

学科目	東洋健康科学	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門基礎分野
講師名	西口 陽通					学期	1 年前期
科目目標・内容							方法
<p>ねらい</p> <p>東洋医学の考えを知ることにより、人間の自然治癒力を高める必要性について学ぶ。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>東洋医学について 病と気について、痛みについて、病気というものの一所見</li> <li>日本昔話の中から東洋医学に親しむ日本の昔話、かぐや姫、ももたろう、一寸法師が意味するもの</li> <li>肩こり腰痛は昔からあった。 首のコリ肩のコリは首を絞める？体の反応 水を垂らす処刑</li> <li>手技療法について 看護に応用できるマッサージについて あん摩・マッサージ・指圧の違い、作用、指圧の三原則等</li> <li>東洋医学的な健康管理 養生について・養生訓・生活習慣、衣食住気血水、陰陽五行理論</li> <li>はり・きゅう施術について 定義、種類と作用、適応、注意等、 陰陽五行理論</li> <li>経穴について、経路について ツボの取り方・主治 陰陽五行理論</li> <li>関連学説について ストレス学説・デルマトーム関連痛、トリガーポイント、低周波治療</li> <li>実技の準備について 準備するものを説明、注意事項、施術手順</li> <li>あん摩実技&amp;指圧の実技 上半身坐り揉み、脊柱1側線押圧 てぬぐい</li> <li>あん摩実技&amp;指圧の実技(上半身) うつ伏せ、手、肩、背部の施術(てぬぐい、タルクを準備)</li> <li>あん摩実技&amp;指圧の実技 上向きで施術、脚、顔、その他</li> <li>はり・きゅう施術体験 円皮針、鍬鍼、集毛針等</li> <li>テスト範囲復習 復習・まとめ</li> <li>終講試験</li> </ol>							講義 ・ 演習
評価方法：終講試験							
テキスト：プリント配布							
参考書：東洋医学便覧 経絡経穴概論編 西口陽通著							
講師の紹介：大阪行岡医療専門学校長柄校 鍼灸科教務主任、日頃は教員として「経絡経穴概論」「社会あはき学」を担当し、学校におります。大阪府鍼灸マッサージ師会員、全日本鍼灸学会の会員でもあります。鍼灸の臨床として行岡病院で週 2 日程度あん摩マッサージ指圧、はり、灸の施術を行っております。							

学科目	公衆衛生学	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門基礎分野
講師名	関口敏彰					学期	1年後期
科目目標・内容							方法
<p>ねらい</p> <p>公衆衛生に関する統計情報について理解し、疾病構造の変化や高齢社会の中での組織的な保健活動、社会資源について学ぶ。</p> <p>目標</p> <p>公衆衛生に関する現状や法律にもとづく対策、統計などについて理解し、住民の健康増進として医療者に何が求められているのかを理解する。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生の基本 公衆衛生の歴史、領域と活動の特徴、健康の概念、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、社会保障の理念と制度</li> <li>2. 健康の指標と疫学 人口構造、出生、死亡・死因、平均寿命、健康寿命、有病率・罹患率、疫学とエビデンス</li> <li>3. 環境保健：環境破壊と健康影響、放射性物質、廃棄物、住環境、食品管理</li> <li>4. 母子保健：母子保健法</li> <li>5. 児童福祉：児童福祉法、少子化対策、児童虐待防止法、保健福祉の関連機関</li> <li>6. 成人保健：生活習慣病の現状と予防、医療保険制度、飲酒と喫煙、特定健康査と特定保健指導、健康増進法、健康日本21、がん対策</li> <li>7. 高齢者保健：高齢者の世帯構成、介護保険制度、介護予防、高齢者虐待防止法</li> <li>8. 精神保健：精神保健福祉法とその施策、精神障害者の医療と福祉、こころの健康対策と自殺対策</li> <li>9. 障害者と難病保健：障害者基本法、障害者総合支援法、身体・知的・発達障害に関する法と施策、難病法</li> <li>10. 感染症保健：感染症の基本、主な感染症と動向、感染症法、予防接種</li> <li>11. 学校保健：学校保健安全法、健康診断、感染症対策、学校環境衛生</li> <li>12. 産業保健：労働安全衛生法、職業病の予防、作業環境管理、ワークライフバランス</li> <li>13. 災害保健：災害医療、災害の種類と特徴、災害各期の支援</li> <li>14. 国際保健：健康格差、国際協力活動と日本の役割、国際機関の役割、健康目標</li> <li>15. 終講試験</li> </ol>							講義
評価方法：終講試験							
テキスト：系統看護学講座 健康支援と社会保障制度[2]公衆衛生 第14版 医学書院							
講師紹介 行政保健師として勤務後、現在は森之宮医療大学にて公衆衛生看護学の授業・研究を担当。保健センターでの実務経験をもとに公衆衛生学について話をします。							

学科目	社会福祉学	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門基礎分野																
講師名	前田 崇博				学期	2年前期																	
科目目標・内容							方法																
<p>ねらい</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護師として必要となる社会福祉の法制度の基本的な知識や社会福祉援助技術の方法を学ぶ。</li> <li>2. 社会福祉の知識を修得することにより、様々な領域で活躍できる能力を養う。</li> <li>3. 患者や家族における多種多様な社会的問題・課題（社会保障・生活）にも向き合える看護師を目標とする。</li> </ol> <p>目標</p> <p>社会保障の理念、社会保険制度及び社会福祉に関する法や施策について基本的な理解をする。</p> <p>授業計画</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 福祉3法</td> <td>2. 地域包括、障害者福祉①</td> </tr> <tr> <td>3. 社会福祉 援助技術</td> <td>4. 介護保険 I</td> </tr> <tr> <td>5. 介護保険 II 高齢者福祉</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6. 援助技術 障害者福祉</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. 生活保護 児童条約</td> <td>8. 児童福祉 低所得</td> </tr> <tr> <td>9. 生活保護</td> <td>10. 障害者福祉～地域福祉</td> </tr> <tr> <td>11. 援助技術 2 法制</td> <td>12. 医療保険 年金</td> </tr> <tr> <td>13～14. 総括</td> <td>15. 終講試験</td> </tr> </table>							1. 福祉3法	2. 地域包括、障害者福祉①	3. 社会福祉 援助技術	4. 介護保険 I	5. 介護保険 II 高齢者福祉		6. 援助技術 障害者福祉		7. 生活保護 児童条約	8. 児童福祉 低所得	9. 生活保護	10. 障害者福祉～地域福祉	11. 援助技術 2 法制	12. 医療保険 年金	13～14. 総括	15. 終講試験	講義
1. 福祉3法	2. 地域包括、障害者福祉①																						
3. 社会福祉 援助技術	4. 介護保険 I																						
5. 介護保険 II 高齢者福祉																							
6. 援助技術 障害者福祉																							
7. 生活保護 児童条約	8. 児童福祉 低所得																						
9. 生活保護	10. 障害者福祉～地域福祉																						
11. 援助技術 2 法制	12. 医療保険 年金																						
13～14. 総括	15. 終講試験																						
評価方法 : 終講試験 80点 提出物 10点、ワーク 10点																							
テキスト : 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉 第23版																							
備考 : 毎回、映像教材（ビデオ、DVD）や配布資料を活用します																							
<p>講師紹介 : 在宅介護支援センターのソーシャルワーカーの経験を活かして、社会保障制度全般を実践の視点から教えている。</p> <p>また、介護福祉士養成校の教員歴を活かして、社会福祉の法律制度、社会福祉援助等の看護師の国家試験対策として必要な知識とコミュニケーション技術をアクティブラーニングの方法で教えている。また、大阪市や神戸市の委嘱委員としての社会活動を通して社会福祉の課題や問題を提起している。</p>																							

学科目	関係法規 I	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門基礎分野
講師名	深 田 敬 子				学期	3 年前期	
科目目標・内容							方法
<p>(医療と法律)</p> <p>ねらい</p> <p>看護師の活動は多くの場合、法的規制に基づいて行われ、また、時には法的規制を受ける。そのため、看護専門職にとって関連法規の理解は必修条件となる。看護師、医療関係者の身分や医療に関する法、衛生行政諸法規を知ることにより、看護師の法的立場を理解する。</p> <p>目標</p> <p>人々の健康を守るための従事者に関する法や施策およびサービス提供体制について基本的な理解をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護師の活動に関連する諸法規の基本的知識を習得する。</li> <li>2. 法律及び法体系の理解を深め、法的思考力を養成する。</li> </ol> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法とは</li> <li>2. 医療法</li> <li>3. 保健師助産師看護師法</li> <li>4. 保健衛生法規、薬事法</li> <li>5～6. 福祉関係法規、その他</li> <li>7. 労働関係法規、環境法</li> <li>8. 終講試験</li> </ol>							講 義
評価方法：終講試験							
<p>テキスト：系統看護学講座 健康支援と社会保障制度[4]看護関係法令 第54版 医学書院</p> <p>参考書：看護六法 看護行政研究会編集 新日本法規出版</p> <p>看護師の基本的責務 日本看護協会監修 日本看護協会出版会</p>							
講師紹介：太成学院大学兼任講師 保健師							



学科目	関係法規Ⅱ	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門基礎分野
講師名	前 島 良 弘					学 期	3年前期
科目目標・内容							方法
<p>(看護と医療過誤)</p> <p>ねらい</p> <p>看護師が日常的に遭遇する、event incident accident について、患者(利用者、client)・その家族にとって、それが持つ意味を法的に及び倫理的に分析することで、その社会的立ち位置を認識する。また、特に医療過誤については、それによって生じる責任について社会的制裁も含めて考察する。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 規律について(摂理と倫理と法の違い)</li> <li>2. compliance と国家試験出題レベル英語</li> <li>3. 医療現場での事故と看護師の義務</li> <li>4. 医療現場での事故(過誤)と責任の類型</li> <li>5. 事例演習 I</li> <li>6. 事例演習 II</li> <li>7. 学習のまとめ+終講試験対策</li> </ol> <p>7.5 終講試験</p>							<p>基本は講義ですが、学生参加型になります。予習復習をしっかりと熟してください。</p>
評価方法 : 終講試験 (記述問題+選択問題)							
テキスト : 配布するプリント							
<p>講師紹介 : 法学士(中央大学)</p> <p>看護教育研究家(看護師養成校受験専門塾 啓学館 代表)</p> <p>看護大学・短大・専門学校 講師</p>							

# 專 門 分 野

專 門 分 野

基礎看護学

## 基礎看護学

### 1. 考え方

基礎看護学は看護を志す学生が専門分野として看護学を学習していく導入部であり、土台となる領域である。地域で生活する対象とその家族を理解し、さまざまな場での看護の基礎を学ぶ地域・在宅看護論や成人・老年・小児・母性・精神看護学という人間の成長・発達段階に応じた看護学と看護の統合と実践に段階的、総合的につながる基礎的知識・技術・態度を学習する分野として位置づける。

基礎看護学では臨床判断能力や看護の基礎となる概念や基礎的理論、看護の機能と役割や歴史、対象の健康課題の解決に必要な看護を実践するための基礎的技術、看護の展開方法を学ぶ。また、最近の看護を取り巻く状況から、看護の動向、インフォームドコンセントなど患者の権利擁護に関する内容も含める。同時に地域で生活している人に関心を持ち、専門職として対象に関する役割・責務・倫理について学ぶ。

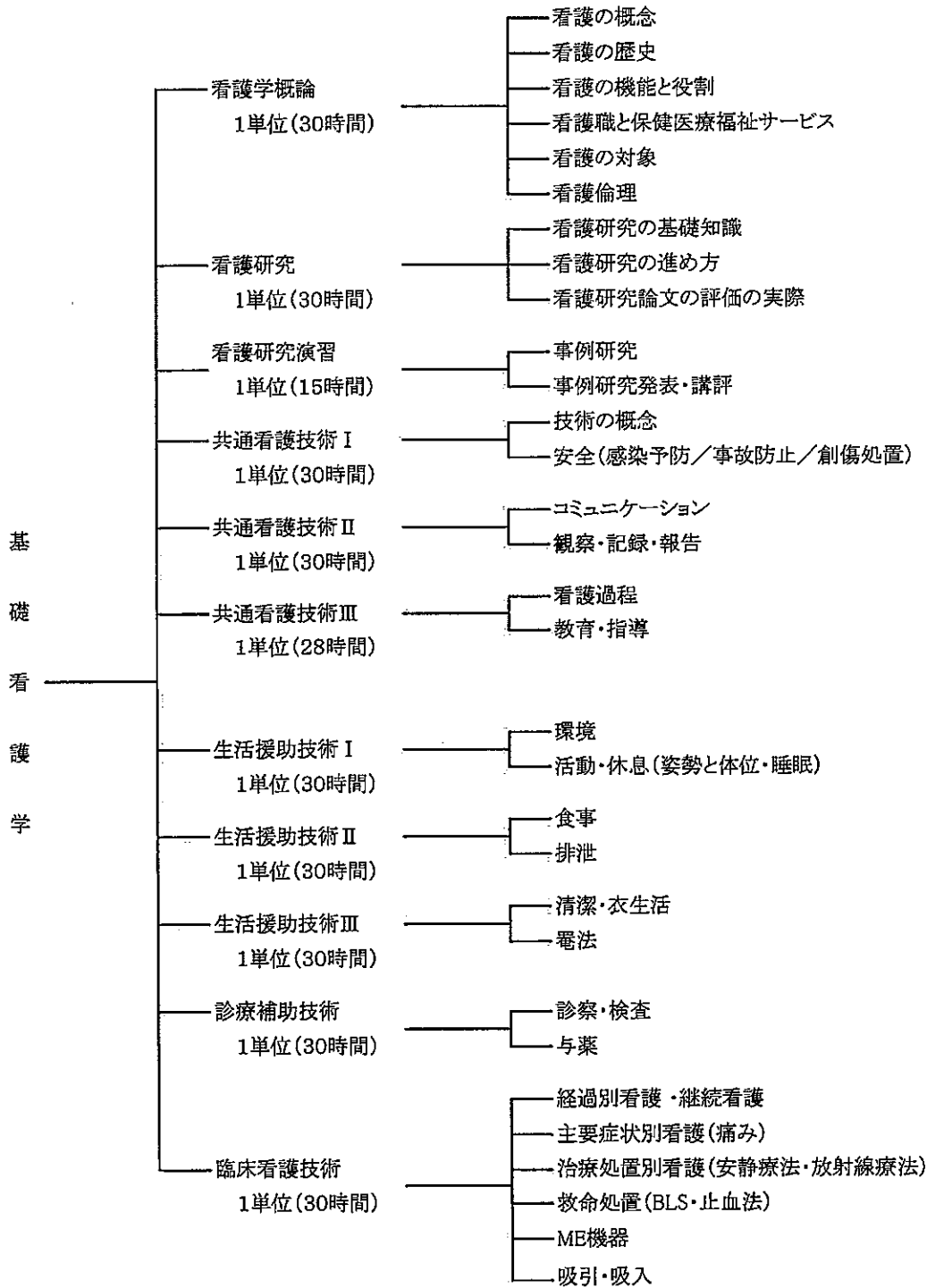
### 2. 科目の設定及び設定の理由

基礎看護学は、11単位 313時間。科目構成は、看護学概論（1単位 30時間）、看護研究（1単位 30時間）、看護研究演習（1単位 15時間）、共通看護技術Ⅰ（1単位 30時間）、共通看護技術Ⅱ（1単位 30時間）、共通看護技術Ⅲ（1単位 28時間）、生活援助技術Ⅰ（1単位 30時間）、生活援助技術Ⅱ（1単位 30時間）、生活援助技術Ⅲ（1単位 30時間）、診療補助技術（1単位 30時間）、臨床看護技術（1単位 30時間）とする。

看護学概論は、看護の基本概念（人間、環境、健康、看護）、看護の理論、看護の歴史を学び、看護の対象、看護の機能と役割について学ぶ内容とする。看護研究は看護における研究の意義と必要性、研究に関する基礎的知識について学ぶ内容とする。看護研究演習は研究計画書の作成・研究の実際・研究論文の作成・講評の一連のプロセスを学ぶ内容とする。共通看護技術Ⅰ～Ⅲはあらゆる看護場面に共通する看護行為である安全（感染予防・事故防止）、コミュニケーション、観察・記録・報告、看護過程、教育・指導についての基本技術を学ぶ内容とする。生活援助技術Ⅰ～Ⅲでは、人間の日常生活行動について理解し、対象のニーズを充足するための日常生活援助技術を学ぶ内容とする。診療補助技術では治療や処置に対する対象のニーズを把握し、安全・安楽を基盤とした援助技術を学ぶ内容とする。臨床看護技術では健康障害をもつ対象の理解とその状態に応じた看護の基礎を学ぶ内容とする。学習内容としては①経過別看護②治療処置別看護③主要症状別看護④継続看護⑤医療用機器の原理と実際を学ぶ。①④では疾病の経過と治療の特徴、対象のニーズを理解し健康状態に応じた看護について学ぶ。②⑤では安静療法、放射線療法、創傷処置、一次救命処置（BLS）、止血法、吸引・吸入と臨床場面で必要となる ME 機器の基本的知識について学ぶ。③では痛みへの看護を通して主要症状に対する看護の考え方を学ぶ。

# 基礎看護学の構造

講義(11単位:313時間)



科目	基礎看護学講義(11単位:313時間)	単位 時間	履修 時期
	科目目的・目標		
看護学概論	<p>ねらい 看護学の導入として、看護の概念・対象・機能と役割・歴史について学ぶ。さらに、専門職としての倫理観と知識・技術をもち、保健・医療・福祉チームの中でどのような役割を担うべきか医療の高度化・専門化の背景も踏まえて学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の概念について理解する。</li> <li>2. 看護の対象としての人間について理解する。</li> <li>3. 健康の捉え方と国民の健康状態を理解する。</li> <li>4. 看護の提供のしくみを理解し、医療安全と看護の質の保証を考える。</li> <li>5. 看護の歴史について理解し、これからの看護について考える。</li> </ol>	1単位 30時間	1年 前期
看護研究	<p>ねらい 看護研究に必要な研究の基礎的知識を理解し、研究的態度を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護実践における研究の意義を説明できる。</li> <li>2. 看護研究の領域と種類を説明する。</li> <li>3. 文献検索ができ、文献カードが作成できる。</li> <li>4. クリティークができる。</li> <li>5. データー収集と分析方法がわかる。</li> <li>6. 研究的態度で研究に取り組める。</li> </ol>	1単位 30時間	2年 後期
看護研究演習	<p>ねらい 自己の看護体験から疑問に思ったり、考えたり、気になったことから何が問題かを明らかにし、その問題にどのように取り組めばよいか学ぶ。</p> <p>論述することで、自己の看護に対する考えや課題を明確にしていく。さらに看護の現象を客観的・科学的・論理的にとらえ、看護を探求することを学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究計画書の作成をする。</li> <li>2. 研究論文を作成する。</li> <li>3. 研究発表をする。</li> <li>4. 研究発表の講評をする。</li> </ol>	1単位 15時間	3年 前期
(技術の概念/安全) 共通看護技術Ⅰ	<p>ねらい 基礎看護技術を学ぶ導入として、技術とは何か、看護技術とは何か、技術の概念について学ぶ。それを踏まえ、看護行為に共通する技術の中で最も基本となる対象の「安全」を守る技術について学ぶ。「安全」を守る技術は、医療現場や療養の場において、対象の生命や健康状態を直接おびやかす危険性をできる限り排除するための技術である。感染予防と医療事故防止の視点から、その必要性和看護の役割について考え、看護実践につながる技術の基礎を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護技術の概念について理解する。</li> <li>2. 患者の療養生活における安全確保の重要性を理解する。</li> <li>3. 医療事故の種類と事故防止のための方法を知る。</li> <li>4. 抑制法について理解する。</li> <li>5. 感染及び院内感染の要因を理解し、防御のための基礎知識を理解する。</li> <li>6. 感染予防の看護方法について理解する。</li> <li>7. 感染予防の技術(手指衛生・PPEの着脱・無菌操作)を習得する。</li> <li>8. 創傷処置(洗浄・消毒・保護)・包帯法の基本を知る。</li> </ol>	1単位 30時間	1年 前期
(コミュニケーション/観察・記録・報告) 共通看護技術Ⅱ	<p>ねらい すべての看護行為に共通する技術の中で、対象理解の基本となる技術について学ぶ。患者—看護師のよりよい関係構築のための意図的で目的を持ったコミュニケーション方法を学ぶ。また、フィジカルアセスメントの概念、観察、身体計測、バイタルサインの測定方法について学び、患者の情報を正しく捉え、把握することの重要性を学ぶ。そして、その後の治療や看護援助につなげるよう記録・報告の重要性について個人情報保護の視点を踏まえ学んでいく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護におけるコミュニケーションの意義と基本的コミュニケーション技術を理解する。</li> <li>2. コミュニケーション技術の評価方法がわかる。</li> <li>3. 観察・記録・報告の目的・種類・方法について理解する。</li> <li>4. フィジカルアセスメントの概念について理解する。</li> <li>5. 身体計測の目的・方法を理解する。</li> <li>6. バイタルサイン測定の目的・方法を理解し、バイタルサインを測定を実施する。</li> </ol>	1単位 30時間	1年 前期

科目	科目目的・目標	単位 時間	履修 時期
(看護過程／教育・指導) 共通看護技術Ⅲ	<p>ねらい 効果的な看護ケアを提供するために看護上の問題を解決するための思考過程を学ぶ。看護実践時に使用する看護過程の定義や構成要素を理解し、展開方法の基礎を学ぶ。看護計画の立案を通して、個別的な看護ケアを提供するための考え方を学び、看護展開方法を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護を実践するための思考過程を理解する。</li> <li>2. 看護過程の定義を理解し、各段階を説明する。</li> <li>3. 個々の課題に積極的に取り組み、グループメンバーにその成果をわかりやすく伝えられる。</li> <li>4. 学習の成果を共有し、対象の全体像を理解する。</li> <li>5. 事例の看護上の問題を導き出す過程を理解する。</li> <li>6. 事例の看護上の問題解決に向けての効果的な看護計画を立案する。</li> </ol>	1単位 28時間	1年 後期
(環境／活動・休息・睡眠) 生活援助技術Ⅰ	<p>ねらい 生活援助技術の導入として、すべての援助場面に存在し、対象の健康回復に影響をもたらす環境の意味を理解し、健康障害や個性に応じた生活環境を整えるために必要な知識と援助方法を学ぶ。また、生活援助において対象と看護師双方が、安全かつ安楽な姿勢・体位で生活するための基本となるボディメカニクスの原理とそれを活用した援助方法を学ぶ。人間の活動と休息・睡眠の意義を理解し、健康な生活をするために必要な援助方法を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境の意義について理解する。</li> <li>2. 療養生活における快適な環境条件とニーズのアセスメントを理解する。</li> <li>3. 療養環境を調整する方法について知識と援助方法を習得する。</li> <li>4. ベッドメイキングとリネン交換についての知識と援助方法を習得する。</li> <li>5. 活動・運動の意義を理解し、ニーズのアセスメントを理解する。</li> <li>6. 姿勢・体位の種類と身体への影響・ボディメカニクスの方法を習得する。</li> <li>8. 体位変換・移乗・移送の基本技術を習得する。</li> <li>9. 休息・睡眠の意義とメカニズムを理解し、ニーズのアセスメントをする。</li> </ol>	1単位 30時間	1年 前期
(食事／排泄) 生活援助技術Ⅱ	<p>ねらい 「食べる」「排泄する」ことは人間にとって基本的ニーズの一つであり、生命維持や日常生活に欠かせないものである。人間の健康回復に影響をもたらす食事・排泄の意義を理解し、健康的な生活を送るための援助方法について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間にとっての食と栄養の意義を理解する。</li> <li>2. 食行動を理解する。</li> <li>3. 栄養と食事に関するアセスメントの視点を理解する。</li> <li>4. 健康状態、食行動に応じた栄養と食事のニーズを充足する方法を理解する。</li> <li>5. 食事援助の基本を理解する。</li> <li>6. 食事援助の基本を習得する。</li> <li>7. 人間にとっての排泄の意義を理解する。</li> <li>8. 排泄に関するアセスメントの視点を理解する。</li> <li>9. 健康状態、排泄行動の自立度に応じた排泄のニーズを充足する方法を理解する。</li> <li>10. 排泄の援助の基本を習得する。</li> </ol>	1単位 30時間	1年 前期
(清潔・衣生活／電法) 生活援助技術Ⅲ	<p>ねらい 身体を清潔にし、身だしなみを整え、TPOに合わせた衣服を洗濯しながら生活することは基本的ニーズの一つである。「清潔・衣生活」では皮膚と粘膜の保護及び清潔保持に関する生理学的メカニズムを理解し、対象者が健康な生活を送るために必要するために必要な援助方法を学ぶ。「電法」では対象者に安静・安楽をもたらす重要な技法であることを理解し、温度刺激の生体への影響をアセスメントした上でより効果的に、安全に援助する方法を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間にとっての身体の清潔の意義・目的を理解する。</li> <li>2. 身体各部の清潔に対する援助技術の基本を習得する。</li> <li>3. 衣生活の意義・目的を理解する。</li> <li>4. 寝衣交換の援助技術の基本を習得する。</li> <li>5. 電法の意義・目的を理解する。</li> <li>6. 冷電法・温電法の援助技術の基本を習得する。</li> </ol>	1単位 30時間	1年 後期

	科目目的・目標	単位時間	履修時期
(診察・検査補助技術)	<p>ねらい 治療や処置・検査を受ける対象への看護に必要な援助技術を学ぶ。診察・検査(採血を含む)、与薬の技術は生体侵襲を伴うことを理解した上で、正確な技術と知識を用いて安全・安楽に行う方法を学ぶ。さらに与薬では薬物療法の視点からの法的責任と役割について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 診療における診察・検査の位置づけ・意義・目的・種類を理解する。</li> <li>2. 診察・検査時の看護師の役割・援助方法を理解する。</li> <li>3. 採血の援助を習得する。</li> <li>4. 与薬の意義・目的を理解する。</li> <li>5. 与薬における看護師の役割を理解する。</li> <li>6. 与薬の種類とその援助方法を理解する。</li> <li>7. 経口与薬・筋肉内注射・点滴静脈内注射の基本技術を習得する。</li> </ol>	1単位 30時間	1年 後期
臨床看護技術	<p>ねらい 看護の概念を踏まえ、各発達段階や各発達段階や健康問題の経過に共通する看護実践について学ぶ。また、救命救急時に必要な技術の基礎を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康問題の経過と各経過の特徴を理解する。</li> <li>2. 各経過の特徴と発達段階との関連を理解する。</li> <li>3. 各経過をたどる患者の看護を理解する。</li> <li>4. 継続看護の定義を理解する。</li> <li>5. 主要症状別看護の特徴を理解する。</li> <li>6. 痛みのある患者への看護を理解する。</li> <li>7. 治療処置別看護(安静療法・放射線療法)の特徴を理解する。</li> <li>8. 安静療法・放射線療法を受ける患者の看護を理解する。</li> <li>9. 救命救急処置について理解する。(BLS、止血法、ACLS、トリアージ、熱傷看護)</li> <li>10. ME機器の種類・特性・取り扱いと使用時の看護について理解する。</li> <li>11. 吸引・吸入の適応と種類、援助方法を理解する。</li> <li>12. 一次救命処置法(BLS)・止血法を習得する。</li> <li>13. 一時的吸引(口腔・鼻腔・気管内吸引)の技術を習得する。</li> </ol>	1単位 30時間	1年 後期



看護技術マトリックス：領域関連

2021.6.30

技術の種類	基礎	成人	老年	小児	母性	精神	在宅	統合
1 環境整備	環境整備 臥床患者のリネン交換	術後ベッド作成						足元に清潔、輸液ライン・酸素療法中の患者の環境整備 リネンが濡れた(シーツ等)患者の環境整備
2 食事	食事介助(嚥下障害のない)	食事指導	とろみ食、食事介助(嚥下障害のある患者) アイスマッサージ おむつ交換・排便				経管栄養法による流動食の注入・経管栄養チューブの挿入	
3 排泄	便器・尿器、ポータブル グリセリン洗腸 一時的導尿 車椅子・ストレッチャー移送	膀胱留置カテーテルの 挿入・管理 ストーマ管理			ベビーのおむつ交換			
4 活動・休息		術後患者の体位変換・褥瘡吸入・吸引・人工呼吸器管理	車椅子の移乗介助・歩行 移動介助 関節可動域 運動(自動・他動運動の 援助)MMT				布団からの起き上がり	輸液ラインそとに挿入中で胸痛のある患者の車椅子移送 酸素療法・輸液ライン挿入中の患者の体位変換
5 清潔・衣生活	ボディカニックス・体位変換 足・手浴・整容・全身清拭 洗濯(ケリーパッド) 寝衣交換・口腔ケア	フットケア	入浴・シャワー浴の介助 陰部の保清 手浴・歯磨きのケア		新生児の沐浴・清拭		洗髪 (シャワーボトル)	
6 呼吸・循環	酸素吸入療法・超音波ブライザー 口腔内・鼻腔内吸引・気管内吸引	状態に応じた体位ドレナージ		吸引・吸入			在宅酸素療法(HOT) 非侵襲的陽圧換気療法(NPPV)	
7 創傷管理	包帯法(巻帯巻き方、三角巾・絆創膏 包帯の用い方) 創部の洗浄・消毒・保護 経口薬・経皮外用薬・産薬	褥瘡処置	褥瘡予防ケア (好発部位の体圧測定他)					
8 与薬	皮下注射・筋肉内注射・静脈注射 点滴静脈内注射(置状針) 点滴静脈内注射の管理(ルート・滴下数) アンブル・バイアルの薬液吸い上げ方法	点滴静脈内注射の管理 併薬の取り扱い		与薬 静脈内注射 (点滴)の固定				
9 救命救急処置	緊急時の応援要請 AEDの使用 一次救命処置(BLS)・止血法				新生児蘇生アルゴリズム 産科危篤的出血への対応フロー			
10 症状・生体機能管理	バイタルサインの測定・身体計測 フィジカルアセスメント 意識レベル(JCS・GOS)対光反射・瞳孔の大きさ 静脈採血(注射器・真空採血管)	簡易血糖測定・検査の介助 フィジカルアセスメント インシュリン注射の取り扱い	小児のBLS 小児のバイタルサイン フィジカルアセスメント		新生児のバイタルサイン 新生児の計測 妊産婦 術のフィジカルアセスメント	心理テスト ストレステスト		脈管疾患・呼吸のフィジカルアセスメント ABIの測定
11 感染予防	スタンダードプリコーションに基づく手洗い 個人防護具(PPE)の着脱 無菌操作・滅菌手袋の着脱 感染性廃棄物の取り扱い・廃棄方法 注射針リキヤップ禁止、消毒薬の作り方							
12 安全管理	患者の誤認防止策の実施 与薬時の6Rの3回以上確認 安全な搬送環境 医療機器(輸液・シリンジポンプ・心電図モニター、酸素ボンベ・人工呼吸器等)の操作・管理	インジデント・アクシデント 報告、放射線の被ばく防止策 薬剤のばく漏り予防				拘束 総管理 危険物、薬品 管理 自傷他害		輸液ポンプ・シリンジポンプの 操作・心電計の電極の装着
13 安楽確保	ポジショニング 冷電法・温電法	状態に応じたポジショニング タッピング・懸球法		産褥緩和			看取りのケア	胸痛がある患者の看護(車椅子移送・検査時)

専門分野別・症状別・治療処置別看護

2021.6.30

専門分野別	経過別	症状別	治療・処置別	健康支援	看護技術	薬物療法と看護
基礎看護学	健康の状態に応じた看護	治療・処置を必要とする対象の看護	安静療法・BLS・医療機器・吸引・吸入・輸液ポンプ・放射線療法・化学療法		レントゲン	吸入薬
	健康の状態に応じた看護	診療の補助を必要とする対象の看護	採血・筋肉注射・静脈注射・薬物療法		血液・尿検査	
地域在宅看護学	慢性期 終末期	在宅療養者とその支援者の看護	HMVの管理・HOT・HPM・経管栄養法・ストマ管理・褥瘡ケア・服薬管理	保健と健康	血液・培養	高カロリー輸液・経管栄養剤
	成人の健康の状態に応じた看護	循環器系疾患の看護 脳・神経系疾患の看護 血液・造血器系疾患の看護	心電図・心エコー・胸部X-P・心カテ・バイパス術・薬物療法・ベースメーカ	生活指導 社会資源	心電図・超音波 一般撮影・CT・MRI	降圧剤・利尿剤 頭蓋内圧調整剤
成人看護学	急性期 回復期	成人の健康の状態に応じた看護	頭部レントゲン・CT・脳波・脳脊髄液検査・v-pシヤント・開頭術・薬物療法		生体検査	鉄剤・免疫抑制剤
	慢性期 終末期	腎・泌尿器系疾患の看護	腎臓穿刺・放射線療法・造血幹細胞移植・輸血・抗がん剤	薬病保健と施薬	培養	副腎皮質ステロイド剤
成人看護学演習 I	急性期 回復期	周手術期の看護	皮膚テスト・ステロイド療法・抗ヒスタミン薬・免疫療法	自己管理支援：集回指導・個別指導	血液検査・生体検査 学校検査	抗生物質・抗菌剤 輸液製剤・抗菌剤
	慢性期 終末期	内分泌・代謝系疾患の看護	腎機能・造影・内視鏡・外科的治療・透析・腎移植・膀胱留置カテーテル	生活指導	生体検査	インシュリン・縮口血糖降下剤
成人看護学演習 II	急性期 回復期	呼吸器系疾患の看護	麻酔・術後モニタリング・創傷処置・ドレーン管理・無菌操作	ライフステージ各期の健康課題	一般撮影・CT・MRI	気管支拡張剤・去痰剤
	慢性期 回復期	骨・筋系・感覚器系疾患の看護	ホルモン検査・血糖・代謝検査・画像診断・食事療法・薬物療法・運動療法	社会資源	レントゲン・血液・エコー	糖質降下剤・抗菌剤・軟膏
小児看護学	急性期 慢性期 終末期	循環器系・腎・泌尿器系・呼吸器系の看護	高齢者が受ける手術療法・保存的療法・高齢者のリハビリ		レントゲン・血液・生体検査	貼用薬・水薬・予防接種
	妊娠・分娩・産褥期 新生児期	妊娠・分娩・産褥期・新生児期の異常	輸液療法・薬物療法・検体採取	健康を守るための法律・施策	超音波	陣痛促進剤・子宮収縮抑制剤
小児看護学演習	急性期 慢性期	精神疾患の看護	薬物療法・集団精神療法・作業療法・レクレーション	健康を守るための法律・施策	脳波	向精神薬

学科目	看護学概論	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門分野
講師名	磯 口 ツユ子				学期	1年前期	
科目目標・内容							方法
<p>ねらい</p> <p>看護学の導入として看護の概念・看護の対象・看護の機能と役割および歴史について学ぶ。さらに、専門職としての倫理観と知識・技術をもち、保健・医療・福祉チームの中でどのような役割を担うべきか医療の高度・専門化を背景も踏まえて学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の概念について理解する</li> <li>2. 看護の対象としての人間を理解する。</li> <li>3. 健康の捉え方と国民の健康状態を理解する。</li> <li>4. 看護における倫理を理解する。</li> <li>5. 看護の提供のしくみを理解し、医療安全と看護の質保証を考える。</li> <li>6. 国際的にどのような健康問題が課題になっているか理解する。</li> <li>7. 看護の歴史について理解し、これからの看護について考える。</li> </ol> <p>授業計画</p> <p>1-2 看護とは</p> <p>A 看護の本質 ①看護の変遷 ②看護の定義 B 看護の役割と機能 ①看護ケア ②看護実践とその質保証に必要な要件 ③看護の役割・機能の拡大 C 看護の継続性と連携</p> <p>3-4 看護の対象の理解</p> <p>人間の心と体(オメオスタシス、ストレス、人間のニード)、生涯発達しつづける存在としての人間の理解、人間の暮らしの理解</p> <p>5-6 国民の健康状態と生活</p> <p>健康のとらえ方、国民の健康状態と健康の全体像 国民のライフサイクル</p> <p>7-8 看護の提供者 A 職業としての看護、B 看護職の資格・養成制度・就業状況</p> <p>9 看護における倫理</p> <p>A 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理、B 看護実践における倫理問題への取り組み 患者の権利擁護、患者のプライバシー保護、看護師の倫理規定、職業倫理</p> <p>10 看護の提供のしくみ</p> <p>サービスとしての看護、提供の場、看護をめぐる制度と政策、看護サービスの管理 医療安全と医療の質保証</p> <p>11-12 広がる看護の活動領域</p> <p>A 際化と看護看護 B 災害時における看護 日本に在留する外国人の看護</p> <p>13-14 看護の提供者(看護の歴史)</p> <p>職業としての看護歴史、看護職の養成制度就業状況およびその課題、看護職者の教育とキャリア開発</p> <p>15 終講試験</p>							講義 レポ ート 課題 発表
評価方法：終講試験							
<p>テキスト：①系統看護学講座 専門分野 基礎看護学1 看護学概論 医学書院</p> <p>②ナイチンゲール=看護覚書、湯槇ます他 訳現代社 ③看護の基本となるもの ヴァージニア・ヘンダーソン 湯槇ます・小玉香津子訳 日本看護協会出版会 ④新版 看護者の基本的債務(定義・概念/基本法/倫理)日本看護協会監修、日本看護協会出版会 ⑤実践に生かす看護理論 19 サイオ出版 参考書 系統看護学講座 別巻 看護史、医学書院</p>							
<p>講師紹介：助産師・看護師経験。助産師教育、看護師教育、看護師長経験。</p> <p>専門領域：母性看護学。担当科目：看護学概論、看護研究演習。</p>							

学科目	看護研究	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門分野 I
吉田 菊江						学期	2年後期
科目目標・内容							方法
<p>ねらい：看護研究に必要な基礎的知識を理解し、研究的態度を身につける</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護実践における研究の意義を説明できる。</li> <li>2. 看護研究の領域と種類を説明できる。</li> <li>3. 文献検索ができ、文献カードが作成できる。</li> <li>4. クリティークができる。</li> <li>5. 研究計画書が立案できる。</li> <li>6. データ収集と分析方法がわかる。</li> <li>7. 研究的態度で研究に取り組める。</li> </ol> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護研究の意義、看護研究とは、リサーチアクションの選択、文献レビューとその方法</li> <li>2. リサーチアクションの絞り込み、看護研究における倫理的配慮、研究デザイン</li> <li>3. データ収集、データ分析</li> <li>4. 研究計画書、論文構成、クリティーク</li> <li>5. 研究計画書</li> <li>6. 中間試験、アンケート作成または実験手順の作成</li> <li>7. 看護研究の実際 データ収集</li> <li>8. 看護研究の実際 データ整理</li> <li>9. 看護研究の実際 データ分析</li> <li>10. 看護研究の実際 論文作成</li> <li>11. 看護研究の実際 論文作成</li> <li>12. 看護研究の実際 論文作成</li> <li>13. 看護研究の実際 論文作成</li> <li>14. 研究発表</li> <li>15. 研究発表</li> </ol>							講義 グループワーク
<p>評価方法 筆記試験 30 点、文献カード 10 点、クリティーク 10 点、研究計画書 10 点、論文・抄録作成 35 点、発表・参加貢献度 5 点 合計 100 点で評価。</p>							
<p>テキスト</p> <p>系統看護学講座 別巻 看護研究 2023 年春改訂 医学書院</p>							
<p>講師紹介</p> <p>副学校長・看護部長経験 担当：基礎看護学概論・老年看護学・看護研究</p>							



学科目	共通看護技術 I (技術の概念/安全)	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門分野 I
講師名	中村 敏代				学期	1年前期	
科目目標・内容							方法
<p>ねらい</p> <p>基礎看護技術を学ぶ導入として、技術とは何か、看護技術とは何か、技術の概念について学ぶ。それを踏まえ看護行為に共通する技術の中で最も基本となる対象の「安全」を守る技術について学ぶ。「安全」を守る技術は、医療現場や療養の場において、対象の生命や健康状態を直接おびやかす危険性をできる限り排除するための技術である。感染予防と医療事故防止の視点からその必要性和看護の役割について考え、看護実践につながる技術の基礎を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護技術の概念について理解する。</li> <li>2. 患者の療養生活における安全確保の重要性を理解する。</li> <li>3. 医療事故の種類と事故防止の発生要因、分析方法を知る。</li> <li>4. 抑制法について理解する。</li> <li>5. 感染及び院内感染の要因を理解し、防御のための基礎知識を理解する。</li> <li>6. 感染予防の看護方法について理解する。</li> <li>7. 感染予防の技術(手指衛生・PPEの着脱・無菌操作)を習得する。</li> <li>8. 創傷処置(洗浄・消毒・保護)・包帯法の基本を知る。</li> </ol> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護技術の定義・特徴・基本原則</li> <li>2. 安全とは 看護における安全の意義と看護師の役割、安全に影響する要因</li> <li>3. 看護事故の種類と発生要因 ヒューマンエラー 事故報告と分析 (スイスチーズモデル スノーボールモデル pm-SHELLモデル)</li> <li>4. 感染とは 感染症とは 感染予防の意義と原則、標準予防策(スタンダードプリコーション)と経路別感染(接触・飛沫・空気) 予防策の基本方針と具体策</li> <li>5. 洗浄・消毒・滅菌 スポルディングの分類 消毒薬の作り方(デモンストレーション)</li> <li>6. 手指衛生(手洗い)PPEの着脱の演習デモンストレーション、部分演習</li> <li>7. 演習 - (抗菌石鹸による手洗い・速乾性擦式消毒剤による手指消毒 PPEの着脱(マスク・帽子・ガウン・手袋、エプロン)</li> <li>8. 転倒転落予防の実際 デモストレーション 部分演習</li> <li>9. 創傷管理 創傷の種類 治癒過程と影響因子 創傷処置の方法(洗浄・消毒・保護)</li> <li>10. 包帯法 種類・原則・巻き方(巻軸帯・三角筋等) デモンストレーション 部分演習</li> <li>11. 無菌操作の原則と実際(鑷子・鉗子の取り扱い、滅菌パックの開け方、綿球の取り出し方・渡し方、滅菌法の開け方、滅菌手袋の着脱)デモンストレーション・部分演習</li> <li>12. 褥瘡とは NPUAPの分類 プレーデンスケール DESING-Rによる評価</li> <li>13. 無菌操作・創傷処置演習デモンストレーション・部分演習</li> <li>14. 無菌操作(滅菌パックの開け方、鑷子の取り扱い、滅菌ガーゼ・綿球の取り出し・受け渡し、)創傷処置(創部の洗浄・消毒・保護) 滅菌手袋の着脱</li> <li>15. 終講試験 / 技術チェック(手指衛生・PPEの着脱)</li> </ol>							<p>講義 演習</p> <p>・抗菌石鹸による手洗い</p> <p>・手指消毒</p> <p>・PPEの着脱 (マスク・帽子・ガウン・手袋・エプロン)</p> <p>・無菌操作 (鑷子・鉗子の取り扱い、滅菌パックの開け方、滅菌手袋の着脱)</p> <p>・創部の洗浄・消毒・保護</p> <p>・包帯法</p>
評価方法	終講試験						
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2]基礎看護技術 I 第18版 看護技術プラクティス 竹尾恵子監修 第3班動画付 学研メディカル秀潤社						
講師紹介	高度先進医療機関での臨床経験、地域～病院看護までの全専門領域の実習指導、基礎看護学では全科目の講義・演習を担当した実務経験がある。						

学科目	共通看護技術Ⅱ (コミュニケーション/観察・記録・報告)	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門分野
講師名	安 齋 匡 代			学期	1年前期		
科目目標・内容							方法
<p>ねらい</p> <p>全ての看護行為に共通する技術の中で、対象理解の基本をとなる技術について学ぶ。患者-看護師のよりよい関係構築のための意図的で目的を持ったコミュニケーション方法を学ぶ。また、フィジカルアセスメントの概念、観察、身体計測、バイタルサインの測定方法について学び、患者の情報を正しく捉え把握することの重要性を学ぶ。そして、その後の治療や看護援助につなげるよう記録・報告の重要性について、個人情報保護の視点を踏まえ学んでいく。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護におけるコミュニケーションの意義と基本的なコミュニケーション技術を理解する。</li> <li>2. コミュニケーション技術の評価方法がわかる。</li> <li>3. 観察・記録・報告の目的・種類・方法について理解する。</li> <li>4. フィジカルアセスメントの概念について理解する。</li> <li>5. 身体計測の目的・方法を理解する。</li> <li>6. バイタルサイン測定の目的・方法を理解し、バイタルサイン測定を実施する。</li> </ol> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護におけるコミュニケーション 2. コミュニケーションの手段とその特徴</li> <li>2. 看護における観察 1)観察とは 2)観察の意義と方法</li> <li>3-4. 観察技術 1)ヘルスアセスメントとは 2)フィジカルアセスメントとは 3)身体計測 4)バイタルサイン測定の目的と方法</li> <li>5. 4)-①バイタルサイン(意識・体温・呼吸)</li> <li>6. 4)-②バイタルサイン(脈拍・血圧)</li> <li>7. バイタルサイン測定の実際 1)血圧測定方法①マンシエットの巻き方 ②血圧計・聴診器の扱い方 ③血圧測定方法</li> <li>8. 記録と報告 1)記録の意義と目的 2)看護記録の種類と方式 3)看護記録の方法 4)記載・管理における留意点 5)報告の意義と目的 6)報告の方法</li> <li>9. プロセスレコードの目的と記述方法</li> <li>10. ロールプレイングの目的と方法</li> <li>11. フィジカルアセスメントの実際(演習) 1)意識 2)瞳孔の観察 3)対光反射 4)呼吸音 5)心音 6)腸蠕動音 7)MMT 8)ホーマンズ兆候</li> <li>12. バイタルサイン測定(体温・呼吸・脈拍・血圧)の実際(演習)</li> <li>13-14. バイタルサイン測定・記録報告の実際 ①体温・呼吸・脈拍・血圧・パルスオキシメータ ②記録(フローシート・看護記録)・報告</li> <li>15. :終講試験 / 技術チェック</li> </ol>							<p>講義</p> <p>演習</p> <p>・身体計測</p> <p>・バイタルサイン測定</p> <p>(体温表の記載を含む)</p>
評価方法	終講試験						
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 第18版						
サブテキスト	看護がみえる Vol. 3 フィジカルアセスメント メディックメディアア 看護技術プラクティス 第4版動画付き 学研メディカル秀潤社 竹尾恵子監修						
講師紹介	専任教員。高度先進医療機関での臨床経験、地域～病院看護までの全専門領域の実習指導 基礎看護学では全科目の講義・演習を担当した実務経験がある。 看護学生雑誌への看護技術法の連載。 介護支援専門員、国際・日本アンガーマネジメントファシリテーターの資格有。						

学科目	共通看護技術Ⅲ (看護過程/教育・指導)	単位数	1	時間数	28	科目区分	専門分野
講師名	安 齋 匡 代				学期	1年後期	
科目目標・内容							方法
<p>ねらい</p> <p>効果的な看護ケアを提供するために看護上の問題を解決するための思考過程を学ぶ。 看護実践時に使用する看護過程の定義や構成要素を理解し、展開方法の基礎を学ぶ。 看護計画の立案を通して、個別的な看護を提供するための考え方を学び、看護展開方法を習得する。看護における教育・指導の技術についての重要性を学ぶ。</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護を実践するための思考過程が理解する。</li> <li>2. 看護過程の定義を理解し、各段階を説明する。</li> <li>3. 個々が課題に積極的に取り組み、グループメンバーにその成果をわかりやすく伝えられる。</li> <li>4. 学習の成果を共有し、対象の全体像を理解する。</li> <li>5. 事例の看護上の問題を導き出す過程が理解する。</li> <li>6. 事例の看護上の問題解決に向けての効果的な看護計画が立案する。</li> </ol> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1)看護過程を学習する意義 2)看護における指導活動の意義・目的、医療計画とクリニカルパス、報告の必要性と方法 3)看護過程とは ①構成要素 ②クリティカルシンキング</li> <li>2. 情報の整理とアセスメント・看護上の問題の抽出方法</li> <li>3. 事例1 グループワーク①:情報の整理とアセスメント</li> <li>4. 全体像・関連図の作成と看護上の問題抽出</li> <li>5. 事例1 グループワーク②:関連図の作成と看護上の問題抽出</li> <li>6. 問題の優先順位と看護の方向性</li> <li>7. 事例1 グループワーク③:問題の優先順位と看護の方向性</li> <li>8. 事例1 成果の共有①:グループ発表と質疑応答</li> <li>9. 事例1 まとめ① 事例1「アセスメントから看護の方向性」まとめ 1)アセスメント・関連図の見直し 2)看護上の問題と優先順位の修正</li> <li>10. 看護目標の設定と看護計画立案/実施と評価</li> <li>11. 事例1 グループワーク④:看護目標の設定と看護計画立案</li> <li>12. 事例1 成果の共有②:グループ発表と質疑応答 まとめ</li> <li>13-14. 事例2 看護過程の展開 個人ワーク</li> <li>15. 終講試験</li> </ol>							講 義 演 習 事例 展開
評価方法 終講試験 50点 課題学習 50点							
<p>テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 第18版 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ヌーベルヒロカワ、 経過がみえる疾患別病態関連マップ 山口瑞穂子他監修 学研、基準看護計画 第3版 照林社、 看護過程に沿った対症看護 学研メディカル秀麗社 NANDA-I看護診断 定義と分類 2021-2023 第12版 上鶴重美(訳)医学書院。</p>							
<p>講師紹介 専任教員。高度先進医療機関での臨床経験、地域～病院までの全専門領域の実習指導。基礎看護学では全科目の講義・演習を担当した実務経験がある。看護学生雑誌への看護技術法の連載。介護支援専門員、国際・日本アンガーマネジメントファシリテーターの資格有。</p>							



学科目	生活援助技術 I (環境/活動・休息・睡眠)	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門分野
講師名	黒田 薫				学期	1 年前期	
科目目標・内容							方法
<p>ねらい</p> <p>生活援助技術の導入として、すべての援助場面に存在し、対象の健康回復に影響をもたらす環境の意味を理解し、健康障害や個別性に応じた生活環境を整えるために必要な知識と援助方法を学ぶ。また、生活援助場面において対象と看護師双方が、安全かつ安楽な姿勢・体位で生活活動するための基本となるボディメカニクスの原理とそれを活用した援助方法を学ぶ。それを踏まえ、人間の活動と休息・睡眠の意義を理解し、健康な生活を送るために必要な援助方法を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境の意義を理解する。</li> <li>2. 療養環境における快適な環境条件とニードのアセスメントを理解する。</li> <li>3. 療養環境を調整する方法について知識と援助方法を習得する。</li> <li>4. ベッドメイキングとリネン交換についての知識と援助方法を習得する。</li> <li>5. 活動・運動の意義とニードのアセスメントを理解する。</li> <li>6. 姿勢・体位の種類・身体への影響・ボディメカニクスの方法を習得する。</li> <li>7. 体位変換・移乗・移送の基本技術を習得する。</li> <li>8. 休息・睡眠の意義とメカニズム・ニードのアセスメントを理解する。</li> <li>9. 休息・睡眠を促す援助方法を理解する。</li> </ol> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境とは</li> <li>2. 療養生活における環境条件</li> <li>3. 病床の観察・リネン類の取り扱い</li> <li>4. ベッドメイキング(クローズドベッド・オープンベッド)</li> <li>5. 環境調整の方法</li> <li>6. 活動の意義・体位の種類・ニードのアセスメント</li> <li>7. 体位変換(水平移動・上方移動・仰臥位～側臥位・長座位・端座位)</li> <li>8. ポジショニング(仰臥位・側臥位・ファーラー位)</li> <li>9. 移乗・移送(車いす・ストレッチャー)の援助方法</li> <li>10. 睡眠・休息の意義とメカニズム</li> <li>11. 睡眠のニードのアセスメント</li> <li>12. 臥床患者の環境のニードとアセスメント</li> <li>13. 臥床患者の環境調整の方法</li> <li>14. 臥床患者のリネン交換の援助方法</li> <li>15. 終講試験 / 技術チェック(臥床患者のリネン交換)</li> </ol>							<p>講義</p> <p>演習</p> <p>・環境整備</p> <p>・ベッドメイキング</p> <p>・臥床患者のリネン交換</p> <p>・体位変換 ・ポジショニング</p> <p>・車いす移乗・移送</p> <p>・ストレッチャー移乗・移送</p>
評価方法	終講試験						
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学(3) 基礎看護技術Ⅱ 第18版 医学書院 ベッドまわりの環境学 川口 孝泰 医学書院						
その他	配布資料						
講師紹介	専任教員。専門領域:成人看護学。 成人看護学(急性、慢性、周手術期、緩和期)と基礎看護学全般の看護教員経験有。						

学科目	生活援助技術Ⅱ (食事/排泄)	単位数	1	時間数	30	科目区分		専門分野	
講師名	岩井志乃 ・ 中川貴子				学期		1年前期		
科目目標・内容								方法	
<p>ねらい 人間の健康回復に影響をもたらす食事、排泄の意義を理解し、健康な生活を送るための援助方法を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間にとっての食と栄養の意義を理解する。</li> <li>2. 食行動を理解する。</li> <li>3. 栄養と食事に関するアセスメントの視点を理解する。</li> <li>4. 健康状態、食行動の自立度に応じた栄養と食事のニーズを充足する方法を理解する。</li> <li>5. 食事援助の基本を理解する。</li> <li>6. 食事援助の基本を習得する。</li> <li>7. 人間にとっての排泄の意義を理解する。</li> <li>8. 排泄に関するアセスメントの視点を理解する。</li> <li>9. 健康状態、排泄行動の自立度に応じた排泄のニーズを充足する方法を理解する。</li> <li>10. 排泄の援助の基本を習得する。</li> </ol> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食事・栄養の意義 12時間 (岩井志乃)</li> <li>2. 食行動(食物を口に入れる→咀嚼→嚥下→消化・吸収)のメカニズム</li> <li>3. 食事介助・口腔ケアの方法と実際</li> <li>4. 中心静脈栄養法・経管栄養法</li> <li>5. 演習一食事介助・口腔ケア</li> <li>6. 排泄の意義 18時間 (中川貴子)</li> <li>7. 排尿の生理的機序と異常</li> <li>8. 排便の生理的機序と異常</li> <li>9. 排泄に影響する要因</li> <li>10. 排泄の援助 1)使用器具・(ポータブルトイレと便器, 尿器・紙オムツ) 2)自然排便・自然排尿</li> <li>11. 排泄の援助 3)排泄と感染予防 4)排泄障害(失禁ケア、排泄訓練、ストレス緩和)</li> <li>12. 浣腸・導尿(一時的・持続的)の意義と目的</li> <li>13. 演習一排泄の援助の実際(床上排泄・浣腸)</li> <li>14. 演習一排泄の援助の実際(一時的導尿)</li> <li>15. 終講試験 / 技術チェック</li> </ol>								<p>講義 演習</p> <p>&lt;食事&gt;</p> <p>・食事援助 (臥床患者 視力障害 の患者)</p> <p>・口腔ケア</p> <p>&lt;排泄&gt;</p> <p>・グリセリン 浣腸</p> <p>・便器の 当て方</p> <p>・一時的 導尿</p>	
評価方法：終講試験 (食事40点、排泄60点)									
テキスト：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 第18版 医学書院 看護技術プラクティス 竹尾恵子監修 第4版動画付 学研メディカル秀潤社									
講師紹介 岩井志乃：専任教員。在宅看護論、災害看護の教育経験有。基礎看護学、老年看護学、成人看護学の実習指導経験有。 中川貴子：専任教員。NICUや小児科・産科病棟で看護師として勤務経験有。									

学科目	生活援助技術Ⅲ (清潔・衣生活/褻法)	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門分野Ⅰ
講師名	井手 窪 澄子				学期	1年後期	
科目目標・内容							方法
<p>ねらい</p> <p>身体を清潔にし、身だしなみを整え、TPOに合わせた衣服を選択しながら生活することは基本的ニーズの一つである。「清潔・衣生活」では皮膚と粘膜の保護及び清潔保持に関する生理学的メカニズムを理解し、対象者が健康な生活を送るために必要な援助方法を学ぶ。</p> <p>「褻法」では対象者に安寧・安楽をもたらすことにつながる技術であることを理解し、温度刺激の生体への影響をアセスメントし、より効果的に、安全に援助する方法を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間にとっての身体の清潔の意義を理解する。</li> <li>2. 清潔のニーズのアセスメントを理解する。</li> <li>3. 身体各部の清潔に対する援助技術の基本を習得する</li> <li>4. 衣生活の意義を理解する。</li> <li>5. 衣生活のニーズのアセスメントを理解する。</li> <li>6. 寝衣交換の援助技術の基本を習得する。</li> <li>7. 褻法の意義・目的を理解する。</li> <li>8. 冷褻法・温褻法の援助技術の基本を習得する。</li> </ol> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 衣生活の意義・目的</li> <li>2. 衣生活の・ニーズのアセスメント</li> <li>3. 寝衣交換の方法</li> <li>4. 身体清潔の意義・皮膚粘膜の構造と生理学的メカニズム</li> <li>5. 入浴・シャワー浴・清潔のニーズのアセスメント</li> <li>6. 手・足浴の援助</li> <li>7. 全身清拭の援助</li> <li>8. 頭皮・頭髪の生理的メカニズム</li> <li>9. 頭髪の清潔のニーズとアセスメント</li> <li>10. 洗髪の援助(ケリーパッド)</li> <li>11. 陰部の清潔</li> <li>12. 整容・口腔ケア</li> <li>13. 褻法の意義・目的</li> <li>14. 冷褻法・温褻法の実際</li> <li>15. 終講試験</li> </ol>							<p>講義</p> <p>演習</p> <p>・全身清拭</p> <p>・手・足浴</p> <p>・洗髪</p> <p>・寝衣交換</p> <p>・冷褻法</p> <p>・温褻法</p>
評価方法：終講試験							
<p>テキスト：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(3)基礎看護技術Ⅱ 第18版 医学書院 看護技術プラクティス 竹尾恵子監修 第4班動画付 学研メディカル秀潤社</p> <p>その他：配布資料</p>							
<p>講師紹介 専任教員。専門領域:母性看護学。</p> <p>公的病院で助産師として臨床勤務経験有。看護専門学校・短期大学にて専任教員、母性看護学担当。大学にて助教、基礎看護学領域担当。</p>							

学科目	診療補助技術 (診察・検査/与薬)	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門分野
講師名	中村 敏代				学期	1年後期	
科目目標・内容							方法
<p>ねらい</p> <p>治療や処置・検査を受ける対象への看護に必要な援助技術を学ぶ。診察・検査(採血を含む)、与薬の技術は生体侵襲を伴うことを理解した上で、正確な技術と知識を用いて安全・安楽に行う方法を学ぶ。与薬については薬物療法の視点から看護の法的責任と役割について学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 診療における診察・検査の位置づけ・意義・目的・種類を理解する。</li> <li>2. 診察・検査時の看護師の役割・援助方法を理解する。</li> <li>3. 採血の技術を習得する。</li> <li>4. 与薬の意義・目的を理解する。</li> <li>5. 与薬における看護師の役割を理解する。</li> <li>6. 与薬の種類とその援助方法を理解する。</li> <li>7. 経口与薬・筋肉内注射・点滴静脈内注射の基本的技術を習得する。</li> </ol> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 与薬とは 与薬の目的 薬物療法における看護師の役割と責任 薬物の法令と保管 薬物の種類 薬物の投与・吸収経路と排泄</li> <li>2-3. 確認すべき6R(内容)と3回以上確認(確認時期)</li> <li>各与薬法と援助(経口与薬 口腔内与薬 塗布・塗擦 直腸内与薬 吸入 点眼・点鼻注射(皮内・皮下・筋肉内・静脈内・点滴静脈内)</li> <li>与薬方法と血中濃度(効果発現時間 吸収速度等)</li> <li>4. 注射法 注射とは 注射の種類 注射器具(注射器・注射針・点滴セット 三方活栓)</li> <li>5. 注射器と注射針の接続 部分演習/経口与薬の実際 デモンストレーション</li> <li>6. 演習—経口与薬 6Rの確認 誤嚥予防を考慮した体位の調整 確実な服用援助</li> <li>7. 筋肉注射(三角筋・中殿筋)・皮下注射(上腕)の実際 デモンストレーション</li> <li>8. 演習—筋肉注射(三角筋)・薬液の準備(アンプル)・6Rの確認</li> <li>9. 診察・検査の意義・目的・看護師の役割 対象の心理</li> <li>10. 点滴静脈内注射・静脈内注射の実際 デモンストレーション 部分演習</li> <li>11. 検査の種類と看護(生体検査 検体検査/穿刺・洗浄を含む)</li> <li>12. 採血の実際 デモンストレーション 部分演習</li> <li>13. 演習—点滴静脈内注射(誤刺予防翼状針)・静脈注射・薬液の準備(バイアル) 6Rの確認</li> <li>14. 演習—採血(真空採血管・注射器)</li> <li>15. 終講試験</li> </ol>							<p>講義</p> <p>演習</p> <p>&lt;検査&gt;</p> <p>・採血</p> <p>注射器</p> <p>真空管</p> <p>&lt;与薬&gt;</p> <p>・注射器の接続</p> <p>・アンプルの吸い上げ</p> <p>・経口与薬</p> <p>・筋肉内注射</p> <p>・点滴内静脈内注射</p>
評価方法	終講試験						
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術II 第18版 医学書院 看護技術プラクティス 竹尾恵子監修 第4版動画付き 学研メディカル秀潤社						
講師紹介	専門領:基礎看護学 高度先進医療機関での臨床経験、地域～病院看護までの全専門領域の実習指導、基礎看護学では全科目の講義・演習を担当した実務経験がある。						

学科目	臨床看護技術	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門分野
講師名	浦田 由希子				学期	1年後期	
科目目標・内容							方法
ねらい 看護の概念を踏まえ、各発達段階や健康問題の経過に共通する看護の考え方、看護実践について学ぶ。また、救命救急時に必要な技術の基礎を習得する。							
目標							
<ol style="list-style-type: none"> <li>健康問題の経過と各経過の特徴を理解する。</li> <li>各経過の特徴と発達段階との関連を理解する。</li> <li>各経過をたどる患者の看護を理解する。</li> <li>継続看護の定義を理解する。</li> <li>主要症状別看護の特徴を理解する。</li> <li>痛みのある患者への看護を理解する。</li> <li>治療処置別看護(安静療法・放射線療法)の特徴を理解する。</li> <li>安静療法・放射線療法を受ける患者の看護を理解する。</li> <li>救命処置法について理解する。(BLS・ACLS・トリアージ・止血法、熱傷看護)</li> <li>ME機器の種類・特性・取り扱いと使用時の看護について理解する。</li> <li>吸引・吸入の適応と種類、援助方法を理解する。</li> <li>一次救命処置(BLS)法・止血法を習得する。</li> <li>一時的吸引(口腔・鼻腔内・気管内吸引)の技術を習得する。</li> </ol>							講義  演習
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>経過別看護とは</li> <li>各経過別看護の特徴 1)急性期 2)慢性期 3)回復期 4)終末期 5)リハビリテーションと看護</li> <li>継続看護とは</li> <li>主要症状別看護とは</li> <li>痛みのある患者への看護</li> <li>治療・処置別看護の特徴と安静療法・放射線療法を必要とする患者の看護</li> <li>ME機器の種類と特性、使用時の看護</li> <li>医療ガス(酸素)の取り扱いについて</li> <li>酸素吸入療法を必要とする患者の看護</li> <li>救命処置法とは(BLS・ACLS・トリアージ・止血法、熱傷看護)</li> <li>演習— 一次救命処置(BLS)・止血法の実際</li> <li>吸引・吸入の目的と看護の役割</li> <li>演習— 一時的吸引(口腔・鼻腔内・気管内吸引)の実際</li> <li>終講試験</li> </ol>							・一次救命処置(BLS)  ・一時的吸引(口腔鼻腔気管内)
評価方法	終講試験 課題提出内容 授業技術態度を総合して評価						
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4]臨床看護総論 第7版 医学書院 看護技術プラクティス 竹尾恵子監修 第4版動画付 学研メディカル秀潤社 医療安全ワークブック 第4版 医学書院						
講師紹介	専任教員 専門領域:小児看護学。 高度先進医療機関(新生児・乳幼児・成人・老年)集中治療室、市立病院(内科・外科)や療育園で看護師として臨地経験あり						

專 門 分 野

地域・在宅看護論

## 地域・在宅看護論

### 1. 考え方

社会は少子超高齢・多死社会の時代を迎え、今後生産年齢人口の減少が大きな課題となる。そのことは「公助」「共助」の限界を意味し、これからの社会は「自助」「互助」に比重が置かれることになる。看護師は地域で「共に生きる」(共生社会)ことを学び、地域包括ケアシステムのなかで、地域で暮らす人々すべてを看護の対象とし、地域の人々が暮らすあらゆる場での活動が求められている。

地域・在宅看護論は各領域における実践的な位置づけであり、学問体系はそれらに依拠するものである。また、あくまで個人・家族を看護の対象として、健康な暮らしを支援するために、生活の基盤である地域をその拠点として理解するものである。

地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを支援するために、地域や暮らしを深く理解する能力、自助を支える健康支援のための基本的能力、自らも互助に参加し、互助組織を理解する能力、自助や互助、さらには共助をより効果的にするための多職種連携・協働のための基本的能力、今の健康状態を適切にアセスメントし、対応方法を提案する能力・更には地域での終末期看護を実践する基礎的能力を養う。すなわち地域に暮らす人々とのパートナーシップに基づき、地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを継続的に支援する能力を育成する。

### 2. 科目の設定および設定理由

地域・在宅看護論は6単位 124時間とする。

科目構成は、地域と暮らしを1年次(1単位 15時間)に履修する。地域・在宅看護概論(1単位 24時間)、家族看護(1単位 15時間)、地域・在宅看護援助論(1単位 20時間)、地域・在宅看護論演習(1単位 15時間)、多職種連携(1単位 20時間)は2年次に履修する。

地域に暮らす人々の看護は、看護の土台ともいえるものである。地域で暮らしながら病気を発症し、必要な治療をうけ、病気とともに地域で暮らす場合もある。重篤な病気に罹患せずに地域で暮らし続ける場合もある。つまり、入院が必要になったときは病院で、地域に暮らしているときは地域で看護を受ける。このような社会のしくみづくりが地域包括ケアシステムの構築につながる。したがって地域・在宅看護論は専門分野であるが、1年次の早い時期から基礎看護学と並行して「地域と暮らし」を学習していく。

「地域・在宅看護概論」では地域社会の変化の中で、人々の成長発達段階を深く理解し、様々な健康状態にある人々及び多様な場での看護を必要とする人々に対する看護の方法を地域医療、関係法規、社会保障制度と関連づけながら学ぶ。

「家族看護」は1年次の基礎分野で人間と生活・社会の理解における「家族論」の学びを受けて発展学習をする。核家族化、家族の役割機能の衰退の影響を受けて、在宅ケアの実践に困難さを招いている状況をふまえて看護師は入院から退院、在宅療養によって生活を安定させる継続的な療養過程で、保健医療福祉サービスなどの様々な社会資源を的確に活用し支援する在宅療養者および家族の看護の学習を各領域の看護学とともに設定する。

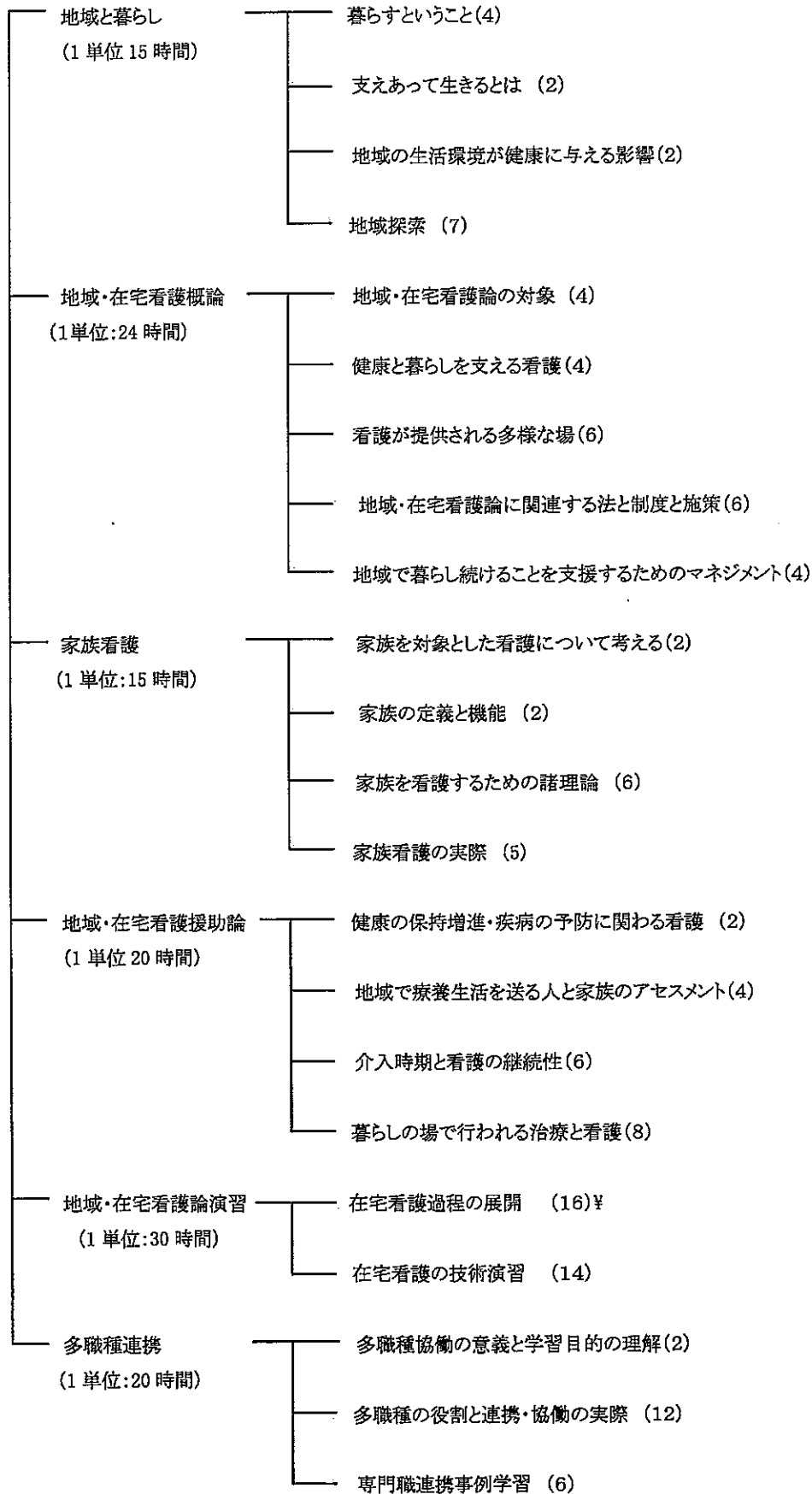
「地域・在宅看護援助論」では、在宅看護の対象となる人々の健康の保持・増進及び疾病の予防に関する看護、また、地域医療や在宅看護で接することの多い疾患を抱える療養者について、その症状の特徴や医療処置、看護援助を学ぶ。さらに今後増加するとされている在宅終末期ケアでは、安らかに尊厳のある療養生活を送るうえで看護者として何が出来るかを学ぶ。

「地域・在宅看護演習」では問題解決型思考・目標指向型思考による在宅看護過程の展開について学び、在宅での療養生活を支える基本的な生活構造の視点から、基本的な日常生活援助技術(家族への指導技術)を習得する。

「多職種連携」では保健・医療・福祉チームの各職種を理解し、多職種連携・協働の意義と方法を理解する。

地域・在宅看護論の構造  
講義(6単位:124時間)

地域・在宅看護論





科目	地域在宅看護論講義(6単位 124時間)	単位 時間	履修 時期
	科目目的・目標		
地域 と 暮 ら し	目的:地域における暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解する。	1単位 15 時間	1年 前期
	目標 1. 暮らすということが人々のどのような営みにより成り立っているのかを理解する。 2. 支えあっているということは日常のどのようなことであるのかを暮らしの場を通して理解する。 3. 地域の生活環境が健康に与える影響を理解する。		
地域 ・ 在宅 看護 概 論	目的:地域在宅看護論の対象と看護の基盤となる概念を理解する。	1単位 24 時間	2年 前期
	目標 1. 地域在宅看護論の対象を理解する。 2. 地域に暮らす人々の健康と暮らしを支える看護について理解する。 3. 地域において看護が提供される多様な場を理解する。 4. 地域在宅看護論に関連する法と制度と施策について理解する。 5. 地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメントの必要性について理解する。		
家 族 看 護	目的:家族成員の健康問題が家族に及ぼす影響を理解し、より正しいアセスメントのもと家族支援が行えるための基礎を理解する。	1単位 15 時間	2年 前期
	目標 1. 家族の必要性と家族看護の目的・基本的構えを理解する。 2. 家族の定義と機能を理解する。 3. 家族を看護するための諸理論を理解する。 4. 家族看護の実際について理解する。		
地 域 ・ 在 宅 看 護 援 助 論	目的:在宅看護の対象となる人々の心身の状況・生活の実際、在宅看護の方法について理解し、地域医療や在宅看護で接することの多い疾患を抱える療養者について、症状、医療処置、看護援助、緊急時の対処、終末期ケアを理解する。	1単位 20 時間	2年 後期
	目標 1. 健康の保持増進・疾病の予防に関わる看護において、対象にいかに関与するかを理解する。 2. 地域で療養生活を送る人と家族のアセスメントについて学ぶ。 3. 継続看護のための介入時期と方法について理解する。 4. 暮らしの場で行われる治療と看護について理解する。		

地域・在宅看護演習	<p>目的</p> <p>基本的な生活構造の視点から、療養者・家族への看護の実際を学ぶ。</p>	1 単位 30 時間	2年 後期
	<p>目標</p> <p>1. 問題解決型思考・目標指向型思考による在宅看護過程の展開の基本的考え方について理解する。</p> <p>2. 在宅療養における基本的な日常生活援助技術(家族への指導技術を含む)を習得する。</p>		
多職種連携	<p>目的</p> <p>保健・医療・福祉チームの各職種を理解し、多職種連携・協働の意義と方法を理解する。</p>	1 単位 20 時間	2年 後期
	<p>目標</p> <p>1. 多職種協働の意義と看護職の役割を理解する。</p> <p>2. 多職種の役割と連携・協働の実際を理解する。</p> <p>3. 専門職連携の意義を事例協同学習により深める。</p>		

学科目	地域と暮らし	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門分野
講師名	森山ゆかり				学期	1年前期	
科目目標・内容							方法
<p>目的 地域における暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>暮らすということが人々のどのような営みにより成り立っているのかを理解する。</li> <li>支えあっていきるといことは、日常どのようなことであるのか 暮らしの場を通して理解する。</li> <li>地域の生活環境が健康に与える影響を理解する。</li> </ol> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1～2 暮らすということ <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもを生き育てる ・学ぶ</li> <li>働く ・病を治す</li> <li>老いとともに生きる ・最期を迎える</li> </ul> </li> <li>3. 支えあって生きるとは <ul style="list-style-type: none"> <li>家族 ・仲間</li> <li>近隣の人々 ・学校や職場</li> <li>支え合い</li> </ul> </li> <li>4. 地域の生活環境が療養に与える影響 <ul style="list-style-type: none"> <li>文化的環境・社会的環境・自然環境</li> </ul> </li> <li>5～7 地域探索 <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の人々とその健康課題についてまとめる</li> </ul> </li> </ol>							講義 動画 グループワーク レポート発表
<p>評価方法 グループワーク参加における評価 50点</p> <p>課題提出内容を総合して評価 50点</p>							
<p>テキスト 系統看護学講座 基礎看護学〔1〕看護学概論 第17版 医学書院</p> <p>系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔2〕公衆衛生 第14版 医学書院</p> <p>参考資料：授業中に指示する</p>							
備考 2年次の地域・在宅看護論につながる内容となる。							
<p>講師紹介： 専任教員。専門領域：在宅看護論。総合病院での臨床実践・看護教育実践を経て訪問看護師・介護支援専門員として訪問看護ステーションに勤務し10年間地域看護に従事。社会福祉士の資格を有し、社会福祉協議会での勤務経験がある。</p>							

学科目	地域・在宅看護概論	単位数	1	時間数	24	科目区分	専門分野
講師名	森山ゆかり					学期	2年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的 地域・在宅看護論の対象と看護の基盤となる概念を理解する。</p> <p>目標 1. 地域・在宅看護論の対象を理解する。 2. 地域に暮らす人々の健康と暮らしを支える看護について理解する。 3. 地域において看護が提供される多様な場を理解する。 4. 地域・在宅看護論に関連する法と制度について理解する。 5. 地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメントの必要性について理解する。</p> <p>授業計画 1～2. 地域・在宅看護論の対象 看護を取り巻く社会の変化、地域で暮らすすべての人々、健康状態（健康のよい状態～終末期まで）、発達段階（胎児期～老年期まで）、家族 3～4. 健康と暮らしを支える看護 地域包括ケアシステムにおける看護の役割、自助/互助/共助/公助の意義と役割、家族を支える看護・災害時の看護、多職種連携・協働の意義と方法 5～7. 看護が提供される多様な場 病院（外来・入院）・診療所、居宅（自宅・施設）、地域包括支援センター、訪問看護事業所、療養通所介護事業所、看護小規模多機能型居宅介護、通所サービス、介護施設など 8～10. 地域・在宅看護論に関連する法と制度と施策 医療保険・介護保険制度、訪問看護に関する法と制度、権利保障に関する法と施策、各保健・障害者等に関する法と施策 11～12. 地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメント 自己決定支援（ACPを含む）、ケアマネジメントの必要性、インフォーマルネットワークの維持 12.5 終講試験</p>							講義 ビデオ グループ ワーク レポート 発表
評価方法 終講試験							
テキスト 系統看護学講座 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤 第6版 医学書院、 地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護の実践 第6版 医学書院							
備考 1年次の「地域と暮らし」の学習、基礎看護実習Ⅰを踏まえての発展科目となる。							
講師紹介：専任教員。専門領域：在宅看護論。総合病院での臨床実践・看護教育実践を経て訪問看護師・介護支援専門員として訪問看護ステーションに勤務し10年間地域看護に従事。社会福祉士の資格を有し、社会福祉協議会での勤務経験がある。							

学科目	家族看護	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門分野
講師名	森山ゆかり					学期	2年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的 家族成員の健康状態が家族に及ぼす影響を理解し、より正しいアセスメントのもと家族支援が行えるための基礎を理解する。</p> <p>目標 1. 家族の必要性と家族看護の目的・基本的構えを理解する。 2. 家族の定義と機能を理解する。 3. 家族を看護するための諸理論を理解する。 4. 家族看護の実際について理解する。 5.</p> <p>授業計画 1. 家族を対象とした看護について考える 家族の必要性、家族看護の目的と家族看護の基本的構え 2. 家族の定義と機能 さまざまな家族のあり方、家族の機能の変化、家族の定義 3～5. 家族を看護するための諸理論 家族発達論の理解、家族システム理論、家族ストレス対処理論 6～7. 家族看護の実際 エコマップとジェノグラムの書き方、協同学習 7.5 終講試験</p>							講義 ビデオ グループワーク レポート発表
評価方法 終講試験							
<p>テキスト 系統看護学講座 地域・在宅看護論〔1〕地域・在宅の基盤 第6版 医学書院 別巻 家族看護学 医学書院</p> <p>参考書 ナンガ・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版</p>							
備考 1年次の「家族論」2年次の「地域・在宅看護概論」を踏まえての内容となる。 領域横断型の内容となる。							
講師紹介：専任教員。専門領域：在宅看護論。総合病院での臨床実践・看護教育実践を経て訪問看護師・介護支援専門員として訪問看護ステーションに勤務し10年間地域看護に従事。社会福祉士の資格を有し、社会福祉協議会での勤務経験がある。							

学科目	地域・在宅看護援助論	単位数	1	時間数	20	科目区分	専門分野
講師名	渡邊 典子					学期	2年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>在宅看護の対象となる人々の心身の状況・生活の実際、在宅看護の方法について理解し、地域医療や在宅看護で接することの多い疾患を抱える療養者について症状、医療処置、看護援助、緊急時の対処、終末期ケアを理解する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康の保持増進・疾病の予防に関わる看護において、対象にいかにかアプローチをするかを理解する。</li> <li>2. 地域で療養生活を送る人と家族のアセスメントについて学ぶ。</li> <li>3. 継続看護のための介入時期と方法について理解する。</li> <li>4. 暮らしの場で行われる治療と看護について理解する。</li> </ol> <p>講義計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康の保持増進・疾病の予防に関わる看護 ハイリスクアプローチ（生活習慣病予防・介護予防など）、健康行動理論の活用、セルフケア理論の活用</li> <li>2～3. 地域で療養生活を送る人と家族のアセスメント ヘルスアセスメント、病態・症状のアセスメント、家族のアセスメント、生活のアセスメント</li> <li>4～6. 介入時期と看護の継続性 治療の場からの移行期、在宅療養の安定期、在宅リハビリテーション期、急性憎悪期、災害時、終末期、グリーフケア、継続看護の意義と方法</li> <li>7～9. 暮らしの場で行われる治療と看護 服薬管理、褥瘡予防・褥瘡処置、栄養状態改善のケア、輸液・在宅中心静脈栄養法、膀胱留置カテーテル、在宅人工呼吸療法、非侵襲的陽圧換気療法、ストーマ管理、疼痛緩和など</li> <li>10. 終講試験</li> </ol>							講義 ビデオ グループワーク レポート発表
評価方法 終講試験							
<p>テキスト 系統看護学講座 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤 第6版 医学書院</p> <p>地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護の実践 第6版 医学書院</p>							
備考 基礎・専門基礎・専門分野の他領域との関連を考えながら統合していく学習となる。							
<p>講師紹介：(株) かのん代表取締役。地域で活躍中。会社事業として訪問介護員向けの医療的ケアの講師。看護教育・訪問看護ステーション勤務・介護支援専門員の実務経験を活かし、多くの訪問看護ステーションとの関わり、多職種連携で公正中立な立場で学生に講義を展開している。地域で生活する人工呼吸器装着中の方々の交流も含め在宅看護のダイナミックさを伝えている。</p>							

学科目	地域・在宅看護論 演習	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門分野
講師名	岩井志乃					学期	2年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的 基本的な生活構造の視点から、療養者・家族への看護の実際を学ぶ。</p> <p>目標 1. 問題解決型思考・目標指向型思考による在宅看護過程の展開の基本的考え方について理解する。 2. 在宅療養における基本的な日常生活援助技術（家族への指導技術を含む）を習得する。</p> <p>授業計画 在宅看護過程の展開（14時間） 1. 事例紹介・病態の理解 2. 療養者の状態をヘンダーソンの14項目に沿って分析する 3. 生活関連図作成 4. 関連図発表：療養者の健康状態と生活への影響を関連図を用いて説明 5. 関連図追加・修正 看護計画作成 6. 看護計画発表 7. 看護計画の追加・修正 提出 在宅看護技術演習（16時間） 1～2. 退院調整・初回訪問・訪問時のマナー・指導技術・記録 3. 緊急時の対応 4～5. 在宅療養者への洗髪 6～7. 在宅経管栄養法：経鼻胃チューブの挿入 8. 在宅での看取りの看護  30. 終講試験</p>							講義 ビデオ グループワーク レポート発表
評価方法 看護過程展開成果評価 60点 演習レポート40点							
テキスト 系統看護学講座 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤 第6版 医学書院 地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護の実践 第6版 医学書院							
備考 基礎・専門基礎・専門分野との関連を考えながら統合していく学習となる。							
講師紹介：専任教員。専門領域：在宅看護論。在宅看護論、災害看護の教育経験有。基礎看護学、老年看護学、成人看護学の実習指導経験有。							

学科目	多職種連携	単位数	1	時間数	20	科目区分	専門分野
講師名	森山ゆかり、岩井志乃、福井紀子、秋田順香、今井恭子、寺井 亮、岡本明大、中村万里子					学期	2年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的 保健・医療・福祉チームの各職種を理解し、多職種連携・協働の意義と方法を理解する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多職種協働の意義と看護職の役割を理解する。</li> <li>2. 多職種の役割と連携・協働の実際を理解する。</li> <li>3. 専門職連携の意義を事例協同学習により深める。</li> </ol> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多職種協働の意義と学習目的の理解（森山ゆかり、岩井志乃） 多職種協働の意義と学習目的・看護職の役割・保健・医療・福祉チームの各職種の理解</li> <li>2～7. 多職種の役割と連携・協働の実際 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 管理栄養士の役割と連携・協働の実際（福井紀子）</li> <li>2) 薬剤師の役割と連携・協働の実際（秋田順香）</li> <li>3) 歯科医師・歯科衛生士の役割と連携・協働の実際（今井恭子：12月中旬）</li> <li>4) 介護支援専門員・社会福祉士・介護福祉士の役割と連携・協働の実際（森山ゆかり）</li> <li>5) 理学療法士・作業療法士の役割と連携・協働の実際（寺井 亮）（岡本明大）</li> <li>6) 言語聴覚士の役割と連携・協働の実際（中村万里子）</li> </ol> </li> <li>8～10. 専門職連携事例学習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 理学療法学生・看護学生による協同学習（在宅・老年事例）</li> <li>2) 多職種連携・協働の意義と方法まとめ</li> </ol> </li> </ol>							講義 ビデオ グループ ワーク レポート 発表
評価方法	ポストテスト	成果評価	レポート				
テキスト	系統看護学講座 専門4 在宅看護論 医学書院 系統看護学講座 別巻 家族看護学 医学書院 ナンガ・グラフィック 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版 在宅看護論②地域療養を支える技術 メディカ出版 その他 各領域テキスト						
備考	領域横断型の内容となる。						
講師紹介：	森山ゆかり：専任教員。専門領域：在宅看護論。総合病院での臨床実践・看護教育実践を						



経て訪問看護師・介護支援専門員として訪問看護ステーションに勤務し 10 年 間地域  
看護に従事。社会福祉士の資格を有し、社会福祉協議会での勤務経験がある。

岩井志乃：専任教員。専門領域：在宅看護論。在宅看護論、災害看護の教育経験有。基礎  
看護学、成人看護学の実習指導経験有。

福井紀子：行岡病院 管理栄養士

秋田順香：行岡病院 薬剤師

今井恭子：行岡医学技術専門学校 歯科衛生科 専任教員

寺井 亮：行岡病院 回復期リハビリテーション病棟 理学療法士

岡本明大：行岡病院 リハビリテーション科 作業療法士

中村万里子：行岡病院 リハビリテーション科 言語聴覚士

専 門 分 野

成人看護学

## 成人看護学

### 1. 考え方

成人期は青年期、壮年期、向老期と人生の中で最も長い期間にあり、成長・成熟・老化の過程をたどる中で、様々な変化を経験する。ライフサイクルの中で最も充実した時期でもあるが、生産年齢人口に値する時期でもあり、社会を支えていく大きな役割を担っている。21世紀に入ると、グローバル化・AI化が一挙にすすみ、目まぐるしく変化する社会となると同時に、地球環境の変化等により予測困難な社会ともなり、この傾向には一層拍車がかかっている。生産性重視の社会構造のひずみからもたらされる心身のストレスや危機状態などから健康問題が引き起こされやすい。しかし、そのことを切り抜け、困難を経験知としながら、さらなる課題に次々に立ち向かう力を、どのように身に付けていくのか。また、大変な世の中にあっても、社会の一員として、次代を担う人々の幸福と安寧のために力を尽くしながら生きている時期である。現代の経済的・環境的变化は目まぐるしく、そのことに影響を受けるであろう成人の健康問題も多様化を増している。

成人看護学は、このような成人期にある人々とその家族を多面的な視点から理解する考え方や、健康と病気を連続したものとして捉え、あらゆる健康状態の変化にある対象の健康課題の特徴を理解した上で、それぞれに応じた看護を学ぶ。

### 2. 科目の設定および設定の理由

成人看護学は、6単位、149時間。科目構成は、成人看護学概論（1単位15時間）、成人看護援助論Ⅰ（1単位28時間）、成人看護援助論Ⅱ（1単位28時間）、クリティカルケア・周手術期看護（1単位30時間）、成人看護学演習Ⅰ（1単位24時間）、成人看護学演習Ⅱ（1単位24時間）とする。

成人看護学概論では、成人期にある人について多面的な視点から理解する考え方を学び、成人期の特徴を踏まえて健康課題の特徴、あらゆる健康状態の変化にある成人を理解し、それぞれに応じた看護の概念を学ぶ内容とする。

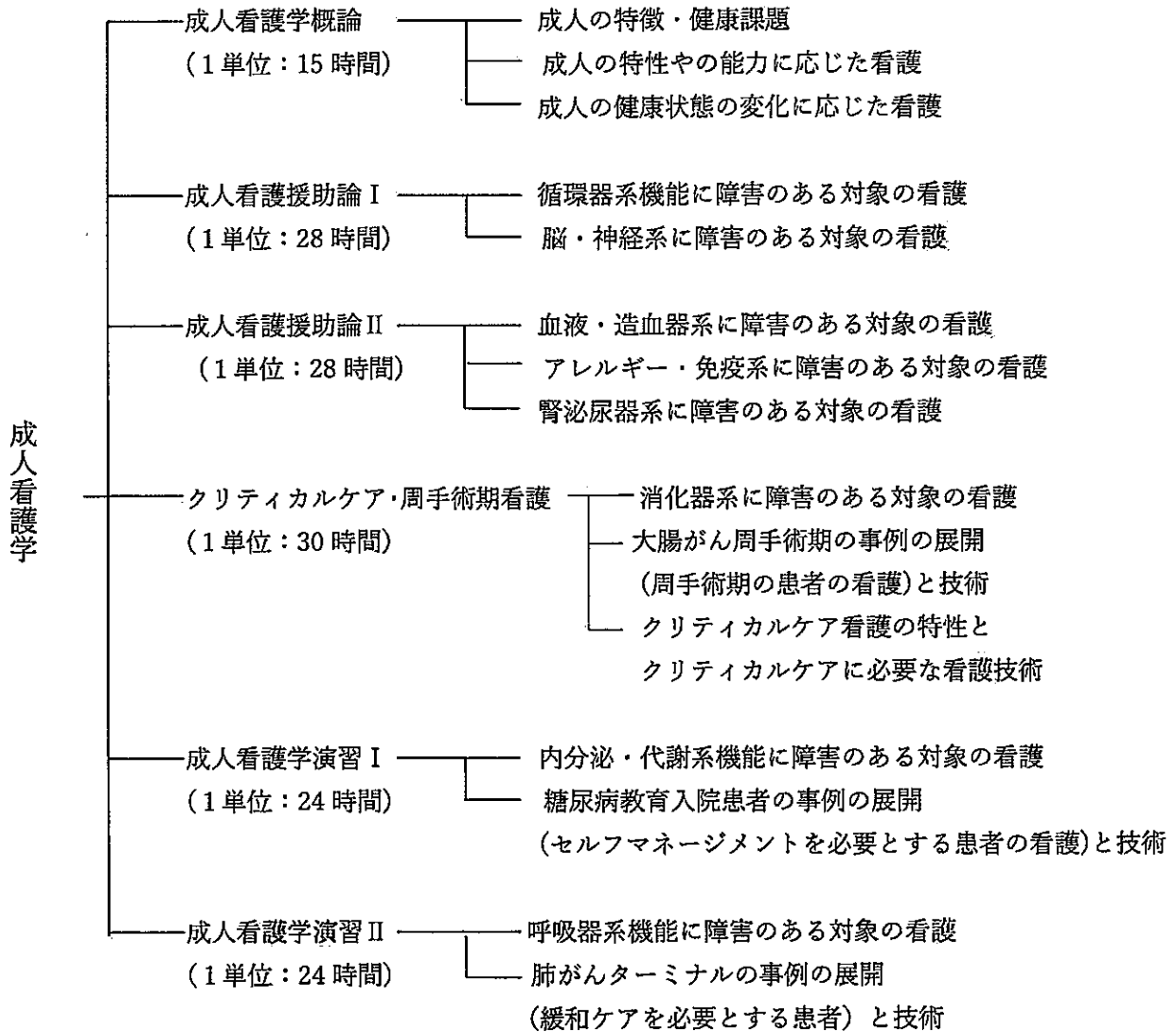
学習内容の関連づけや自分で考えることの習慣の少ない現代学生の特徴を考慮し、成人看護援助論Ⅰ・Ⅱでは、専門基礎分野の疾病治療論・基礎看護学と関連づけて理解した上で、各疾患・障害を有する対象の看護の基礎、および関連する検査や治療の看護を学ぶために機能障害別に学ぶ。また、実践力を強化するために技術演習を含む内容とする。成人看護援助論Ⅰでは、循環器・脳・神経系に障害のある対象の看護、成人看護援助論Ⅱでは、血液・造血器・アレルギー・免疫・腎・泌尿器系機能に障害のある対象の看護を学ぶ。

クリティカルケア・周手術期看護では、成人期に限らず、あらゆる発達段階を対象としている。病院での医療は年々高度化し、重症患者を専門的かつ集中的に看護する機会が増えている。また、在院日数の短縮化を図り望ましい生活（地域社会へ戻る）が再獲得できるようにするための看護を学ぶ。成人看護学演習Ⅰ・Ⅱでは、機能障害別の看護を学ぶとともに、問題解決能力・実践力を育成する目的で各健康段階に応じた看護過程の展開と技術演習をするが、クリティカルケア・周手術期看護でも同様に実践する。また、クリティカルケア・周手術期看護では、消化器系機能に障害のある対象の看護過程の展開・技術演

習を行い、成人看護学演習Ⅰでは、内分泌・代謝機能の障害のある対象の看護およびセルフマネージメントを必要とする対象の看護過程の展開・技術演習、成人看護学演習Ⅱでは、呼吸器系機能に障害のある対象の看護および緩和ケアを必要とする対象の看護過程の展開・技術演習とする。

# 成人看護学の構造

講義時間 (6 単位 : 149 時間)



科目	成人看護学講義(6単位:149時間)	単位 時間	履修 時期
	目的・科目目標		
成人看護学概論	目的:成人期にある人について多面的な視点から理解する考え方を学び、成人期における健康課題の特徴、あらゆる健康状態に変化のある成人を理解し、それぞれに応じた看護の概念を学ぶ	15時間 1単位	1年 後期
	目標 1. ライフステージと健康問題の視点から成人の特徴を理解できる 2. 成人を対象とする看護の特性と役割を理解できる 3. 対象の健康レベルに応じた看護を提供するための基礎的知識を習得できる		
成人看護援助論Ⅰ	目的:循環器系・脳・神経系機能に障害のある対象および、その家族に対する看護を学ぶ	28時間 1単位	2年 前期
	目標 1. 循環器系・脳・神経系機能に障害をもつ対象の特徴を説明することができる 2. 循環器系・脳・神経機能の障害が日常生活に与える影響と健康問題を理解できる 3. 循環器系・脳・神経機能に障害のある対象およびその家族に対する基礎的援助を説明できる		
成人看護援助論Ⅱ	目的:血液・造血器系、アレルギー・免疫系、腎・泌尿器系機能に障害のある対象およびその家族に対する看護を学ぶ	28時間 1単位	2年 前期
	目標 1. 血液・造血器系、アレルギー・免疫系、腎・泌尿器系機能に障害のある対象の特徴を説明できる 2. 血液・造血器系、アレルギー・免疫系、腎・泌尿器系機能の障害が日常生活に与える影響と健康問題が説明できる 3. 血液・造血器系、アレルギー・免疫系、腎・泌尿器系機能に障害のある対象と家族に対する基礎的援助を説明できる		
クリティカルケア・周手術期看護	目的:消化器系機能に障害のある対象、クリティカルケア・周手術期ある対象およびその家族に対する看護を学ぶ	30時間 1単位	2年 後期
	目標 1. 周手術期の生体反応を理解し、看護の役割を理解できる 2. 周手術期での各期における看護の特徴を説明できる 3. 手術を受ける患者の日常生活に与える影響と健康問題が言える 4. 手術を受ける患者とその家族に対する基礎的援助を説明できる 5. 消化器疾患の周手術期の看護の特徴がわかる 6. 人工肛門造設術の看護展開が理解できる		
成人看護学演習Ⅰ	目的:内分泌・代謝系機能に障害のある対象、セルフマネジメントが必要な対象および、その家族に対する看護を学ぶ	24時間 1単位	2年 後期
	目標 1. 内分泌・代謝系機能に障害のある対象の特徴を説明できる 2. 内分泌・代謝系機能の障害が成人の日常生活に与える影響と健康問題が説明できる 3. 内分泌・代謝系機能に障害のある対象と家族に対する基礎的援助を説明できる 4. 事例展開を通して糖尿病患者の看護がわかる 5. 事例展開を通して糖尿病を持つ人が課題とするセルフケアがわかる 6. 事例展開を通して、セルフマネジメントを必要とする対象の看護がわかる		
成人看護学演習Ⅱ	目的:呼吸器系機能に障害のある対象、終末期ある対象およびその家族に対する看護を学ぶ	24時間 1単位	2年 前期
	目標 1. 呼吸器系機能に障害のある対象の特徴を説明できる 2. 呼吸器系機能の障害が成人の日常生活に与える影響と健康問題が説明できる 3. 呼吸器系機能に障害のある対象と家族に対する基礎的援助を説明できる 4. 事例展開を通して肺がん患者の看護がわかる 5. 事例展開を通して終末期の看護がわかる		

学科目	成人看護学概論	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門分野
講師名	黒田 薫				学期	1年後期	
科目目標・内容							方法
<p>目的 成人期にある人々とその家族を多面的な視点から理解する考え方や、健康と病気を連続したものとして捉え、あらゆる健康状態の変化にある対象の健康課題の特徴を理解し、それぞれに応じた看護を学ぶ</p> <p>目標 1. ライフステージと健康問題の視点から成人の特徴を理解できる 2. 成人を対象とする看護の特性と役割を理解できる 3. 対象の健康状態の変化に応じた看護を提供するための基礎的知識を習得できる</p> <p>授業計画 7回</p> <p>1. 成人の特徴と生活 1) 対象の理解: 大人になること                      2) 対象の生活: 働いて生活を営むこと</p> <p>2. 成人への看護アプローチの基本 1) 成人教育学    4) 看護におけるマネジメント 2) 医療における人間関係                              5) 看護実践における倫理的判断, 意思決定支援 3) チームアプローチ</p> <p>3. 健康をおびやかす要因と看護 1) ストレスマネジメント                              2) 就業と生活習慣や生活環境</p> <p>4. 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 1) 健康の急激な破綻                                      2) 急性期にある人の看護・危機理論</p> <p>5. 慢性病との共存を支える看護 1) 慢性病患者の理解     ・病みの軌跡    ・首尾一貫感覚(SOC) 2) 慢性病との共存を支える看護の実際     ・エンパワメント    ・セルフケアとセルフマネジメント</p> <p>6. 障害がある人とリハビリテーション看護 1) 障害とは              2) 障害がある人とその生活を支援する看護              3) 看護の実際</p> <p>7. 人生の最期のときを支える看護 1) 人生の最期のときにおける医療の現状 2) 人生の最期のときを過ごしている人の理解     ・全人的苦痛(トータルペイン) 3) 人生の最期のときを支える看護     ・アドバンスケアプランニング    ・死の準備教育(デスエデュケーション)    ・看護師自身のケア</p>							講義  グループワーク
評価方法	終講試験 90点    グループワーク参加貢献度 5点    課題レポート 5点						
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学Ⅰ 成人看護学総論 第16版 医学書院 国民衛生の動向 2022/2023 厚生労働統計協会 統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 第11版 医学書院						
備考	既習学習である看護学概論、基礎看護学、解剖生理学を復習しておくこと						
講師紹介: 専任教員。専門領域: 成人看護学。成人看護学(急性、慢性、周手術、緩和期)と基礎看護学全般の看護教員経験有。							

学科目	成人看護援助論Ⅰ	単位数	1	時間数	28	科目区分	専門分野
講師名	中井 聡 紀 ・ 山 之 内 由 美				学期	2年前期	
科目目標・内容						方法	
<p>目的 循環器系・脳・神経機能に障害のある対象および、その家族に対する看護を学ぶ</p> <p>目標 循環器系・脳・神経機能に障害のある対象の特徴が理解できる。  循環器系・脳・神経機能の障害が日常生活に与える影響と健康問題が理解できる。  循環器系・脳・神経機能に障害のある対象および、その家族に対する基礎的援助が説明できる。</p> <p>授業計画【循環器系】 中井聡紀 14時間</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.循環器系機能に障害をもつ対象の理解 (フィジカルアセスメント含む)</li> <li>2.循環器系機能に障害のある成人に対する看護の役割</li> <li>3.主要な症状に対する看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1)胸痛のある対象の看護 アセスメント 目標設定 計画・実施と評価</li> <li>2)不整脈のある対象の看護</li> <li>3)浮腫のある対象の看護</li> </ol> </li> <li>4.主要な検査に伴う看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1)心臓カテーテル検査をうける対象の看護</li> <li>2)心電図検査をうける対象の看護</li> </ol> </li> <li>5.主要な治療・処置に伴う看護</li> <li>6. 主要な疾患をもつ対象の看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1)虚血性心疾患(心筋梗塞)心不全・不整脈・高血圧患者の看護</li> </ol> </li> </ol> <p>授業計画【脳・神経系】 山之内由美 13時間</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.脳・神経系機能に障害をもつ対象の理解 (フィジカルアセスメント含む)</li> <li>2. 脳・神経系機能に障害のある成人に対する看護の役割</li> <li>3.主要な症状に対する看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1)意識障害・頭蓋内圧亢進症状のある対象の看護</li> <li>2)けいれんのある対象の看護</li> <li>3)運動麻痺のある対象の看護</li> <li>4)言語障害のある対象の看護</li> </ol> </li> <li>4. 主要な検査に伴う看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1)腰椎穿刺・脳血管撮影をうける患者の看護</li> </ol> </li> <li>5.主要な治療・処置に伴う看護</li> <li>6. 主要な疾患をもつ患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1)脳梗塞・脳動脈瘤患者の看護</li> <li>2)外科的療法—脳出血で開頭術を受ける患者の看護</li> </ol> </li> </ol> <p>28. 終講試験【循環器系】+【脳・神経系】 1時間</p>						<p>講義・技術 演習(心電 図)</p> <p>グループワ ーク 演習</p> <p>講義</p> <p>グループワ ーク</p>	
評価方法 終講試験(循環器50点 脳・神経50点)							
テキスト 系統看護学講座 成人看護学[3] 循環器 第15版 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[7] 脳・神経 第15版 医学書院							
備考 既習学習である、疾病治療論の循環器、脳・神経系、基礎看護診療の補助技術の復習を確実にしておくこと。この授業は成人看護学実習Ⅰに繋げるための授業でもある。看護過程、成人看護学概論、成人看護援助論・臨床看護技術などの既習学習を振り返っておく。							
講師紹介 循環器系担当/ 中井聡紀：守口敬仁会病院 看護師 循環器 認定看護師 脳・神経系担当/ 山之内由美：専任教員。専門領域：精神看護学。ケアマネージャー(介護支援専門員)。社会福祉士。基礎看護学、成人・老年看護学、小児看護学、在宅看護論の教員として経験有。整形外科、眼科・耳鼻咽喉科・泌尿器科・皮膚科の混合科、精神科の実務経験有。							



学科目	成人看護援助論Ⅱ	単位数	1	時間数	28	科目区分	専門分野
講師名	遠田有利・北出順子				学期	2年前期	
科目目標・内容							方法
<p>目的 血液・造血器、アレルギー・免疫、腎・泌尿器系機能に障害のある対象およびその家族に対する看護を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>血液・造血器、アレルギー・免疫、腎・泌尿器系の障害のある成人期の対象の特徴が理解できる。</li> <li>血液・造血器・アレルギー・免疫・腎・泌尿器系の障害が日常生活に与える影響と健康問題が理解できる。</li> <li>血液・造血器・アレルギー・免疫・腎・泌尿器系の障害のある対象および、その家族に対する基礎的援助が説明できる。</li> </ol> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>血液・造血器に障害のある成人期の対象の理解 【遠田有利：10時間】 <ol style="list-style-type: none"> <li>アセスメント(免疫機能障害・骨髄機能障害・生命/生活への影響)</li> <li>検査・処置を受ける患者への看護(骨髄穿刺)</li> <li>治療を受ける患者への看護(造血幹細胞移植・輸血)</li> <li>病期や機能障害に応じた看護(血液悪性疾患)</li> </ol> </li> <li>アレルギー・免疫に障害のある成人期の対象の理解 【遠田有利：10時間】 <ol style="list-style-type: none"> <li>アセスメント(皮膚粘膜障害・免疫機能障害)</li> <li>検査・処置を受ける患者への看護(スキントテスト・パッチテスト・粘膜皮膚生検)</li> <li>治療を受ける患者への看護(アレルゲン免疫療法・免疫抑制薬・ステロイド療法)</li> <li>病期や機能障害に応じた看護(アレルギー疾患・自己免疫疾患・ヒト免疫不全ウイルス感染症)</li> </ol> </li> <li>腎系に障害のある成人期の対象の理解 【北出順子 4時間】 <ol style="list-style-type: none"> <li>アセスメント(体液量調節障害・電解質調節機能障害・酸塩基平衡調節機能障害・生命活動への影響)</li> <li>検査・処置を受ける患者への看護(静脈性尿路造影・腎生検)</li> <li>治療を受ける患者への看護(薬物療法・食事療法・急性期持続血液濾過透析・血液透析・腹膜透析)</li> <li>病期や機能障害に応じた看護(急性腎不全・慢性腎不全・慢性腎臓病・腎移植術後)</li> </ol> </li> <li>泌尿器系に障害のある成人期の対象の理解 【北出順子 4時間】 <ol style="list-style-type: none"> <li>アセスメント(畜尿・排尿障害・生命/生活への影響)</li> <li>検査・処置を受ける患者への看護(尿流動態検査・残尿測定・膀胱鏡)</li> <li>治療を受ける患者への看護(膀胱切除術・前立腺切除術・ホルモン療法)</li> <li>病期や機能障害に応じた看護(腎/尿路結石・腎癌・膀胱癌・前立腺肥大)</li> </ol> </li> </ol> <p>28. 終講試験</p>							講義       グループワーク
評価方法	終講試験(血液・造血 35点 アレルギー・免疫 35点 腎・泌尿器系 30点)						
テキスト	<p>系統看護学講座 成人看護学[4] 血液・造血器 第15版 医学書院</p> <p>系統看護学講座 成人看護学[8] 腎・泌尿器 第15版 医学書院</p> <p>系統看護学講座 成人看護学[11] アレルギー・膠原病・感染症 第15版 医学書院</p>						
備考	既習学習である、疾病治療論の循環、血液・造血器、アレルギー・免疫、腎・泌尿器、基礎看護診療の補助技術の復習を確実にしておくこと。この授業は成人看護学実習Ⅰに繋げるための授業でもある。看護過程、成人看護学概論、成人看護援助論・臨床看護技術などの既習学習を振り返っておくこと						
講師紹介	<p>遠田有利：看護師、看護師長、看護教員の経験有。専門：基礎看護学、成人・老年看護学</p> <p>北出順子：北野病院 看護師長</p>						

学科目	クリティカルケア・ 周手術期看護	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門分野
講師名	村上 未恵				学期	2年次後期	
科目目標・内容							方法
<p>目的 クリティカルケア・周手術期にある対象および、その家族に対する看護を学ぶ</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周手術期の生体反応を理解し、看護の役割を説明できる。</li> <li>2. 周術期での各期における看護の特徴を説明できる。</li> <li>3. 手術を受ける患者の日常生活に与える影響と健康問題が言える。</li> <li>4. 手術を受ける患者とその家族に対する基礎的援助を説明できる。</li> <li>5. 消化器疾患の周手術期の看護の特徴がわかる。</li> <li>6. 人工肛門造設術の看護展開が理解できる</li> </ol> <p>内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周手術期の看護の概要と看護師の役割について <ul style="list-style-type: none"> <li>①発達段階に応じた手術看護の役割</li> <li>②クリティカルな治療を受ける患者の看護</li> </ul> </li> <li>2. 麻酔とは。麻酔の種類と術前・中・後の管理方法について</li> <li>3. 全身麻酔と局所麻酔の合併症</li> <li>4. 手術侵襲と合併症、手術方法について</li> <li>5. 術後合併症の理解 看護過程とのつながり</li> <li>6. 術前の患者の看護:術前オリエンテーション、術前検査について</li> <li>7. 術中の患者の看護</li> <li>8. 術後の患者の看護①: 患者の術後環境理解</li> <li>9. 術後の患者の看護②: 患者の症状理解・判断方法について</li> <li>10. 様々な疾患における周術期の看護におけるポイント: <ul style="list-style-type: none"> <li>①消化器疾患:大腸がん</li> <li>②人工肛門造設術とその看護</li> <li>③事例展開についてのオリエンテーション</li> </ul> </li> <li>11~14. <ul style="list-style-type: none"> <li>人工肛門造設術患者の事例展開</li> <li>1)術前からの看護(術前オリエンテーション)2)術中の看護</li> <li>3)術後の看護(術後合併症と予防)4)術後の機能障害や生活制限への看護</li> <li>5)看護上の問題(共同問題立案) 6)計画・立案(術後観察 早期回復促進への援助)</li> <li>7)事例を基に術後の計画立案と演習(術後観察、報告)</li> </ul> </li> <li>15. 終講試験</li> </ol>							<p>講義 視聴覚教材</p> <p>講義 デモンスト レーション (術直後の観察と 術後ベッド作成)</p> <p>講義 視聴覚教材</p> <p>事例展開 グループワーク 協同学習 演習実施</p>
評価方法	: 終講試験 70点 演習課題 30点						
テキスト	系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護 第2版 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 [5] 消化器 第15版 医学書院 高齢者と成人の周手術期看護 術中術後の生体反応と急性期看護 第3版 医歯薬出版						
講師	臨床では主任看護師としてリウマチ病棟、回復期リハビリ病棟、整形外科病棟・外来看護に携わり、教育では基礎看護学を担当している。						

学科目	成人看護学演習 I	単位数	1	時間数	24	科目区分	専門分野
講師名	松本 順子					学期	2年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的 内分泌・代謝系機能に障害のある対象、自己管理支援が必要な対象および、その家族に対する看護を学ぶ</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内分泌・代謝系機能に障害のある対象の特徴を説明できる。</li> <li>2. 内分泌・代謝系機能の障害が成人の日常生活に与える影響と健康問題が言える。</li> <li>3. 内分泌・代謝系機能に障害のある対象と家族に対する基礎的援助を説明できる。</li> <li>4. 事例展開を通して糖尿病を持つ対象の看護がわかる。</li> <li>5. 事例展開を通して糖尿病を持つ人が課題とするセルフケアがわかる。</li> <li>6. 事例展開を通して、自己管理支援を必要とする対象の看護がわかる。</li> </ol> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内分泌・代謝系機能に障害をもつ対象の理解 (フィジカルアセスメント含む)</li> <li>2. 内分泌・代謝系機能に障害のある成人に対する看護の役割</li> <li>3. 主要な症状に対する看護</li> <li>4. 主要な検査に伴う看護(ホルモン負荷試験・OGTT)</li> <li>5. 主要な治療・処置に伴う看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 食事療法</li> <li>2) 薬物療法 (インスリン療法・糖尿病治療内服薬)</li> <li>3) 運動療法</li> </ol> </li> <li>6. 主要な疾患をもつ対象の看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>・糖尿病、バセドウ病</li> </ul> </li> <li>7~11. 糖尿病の教育入院患者の事例展開 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 情報収集</li> <li>2) 分析(自己管理状況のアセスメント、セルフケア行動形成への影響要因)</li> <li>3) 全体像</li> <li>4) 看護上の問題</li> <li>5) 計画・立案</li> <li>6) 援助計画</li> <li>7) 事例を基に自己管理支援計画立案と演習(自己効力感・エンパワメント)</li> </ol> </li> <li>12. 終講試験</li> </ol>							<p>講義・デモ・DVD(血糖測定・インシュリン注射)</p> <p>グループワーク 演習</p>
<p>評価方法</p> <p>終講試験 50点 演習課題 40点 グループワーク参加貢献度 10点</p>							
<p>テキスト</p> <p>系統看護学講座 成人看護学[6] 内分泌・代謝 第15版 医学書院 看護過程に沿った対症看護 学研</p>							
<p>備考</p> <p>既習学習である、疾病治療論の内分泌・代謝系、基礎看護学の指導技術、与薬、看護過程、成人看護学概論の病みの軌跡、セルフケア理論の復習を確実にしておくこと。 この授業は成人看護学実習 I に繋げるための授業でもある。</p>							

学科目	成人看護学演習Ⅱ	単位数	1	時間数	24	科目区分	専門分野
講師名	松本 順子					学期	2年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的 呼吸器系機能に障害のある対象、終末期にある対象および緩和ケアを必要とする対象と家族に対する看護を学ぶ</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.呼吸器系機能に障害のある対象の特徴を説明できる。</li> <li>2.呼吸器系機能の障害が成人の日常生活に与える影響と健康問題が言える。</li> <li>3.呼吸器系機能に障害のある対象と家族に対する基礎的援助を説明できる。</li> <li>4.事例展開を通して肺がん患者の看護がわかる。</li> <li>5.事例展開を通して終末期の看護がわかる。</li> </ol> <p>内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.呼吸器系機能に障害をもつ対象の理解 (フィジカルアセスメント含む)</li> <li>2.呼吸器系機能に障害のある成人に対する看護の役割</li> <li>3.主要な症状に対する看護</li> <li>4.主要な検査に伴う看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1)気管支鏡 2)胸腔穿刺 3)肺生検 4)呼吸機能検査 5)酸塩基平衡</li> </ol> </li> <li>5.主要な治療・処置に伴う看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1)肺切除 2)酸素療法 3)NIPPV 及び侵襲的陽圧換気 4)薬物療養</li> </ol> </li> <li>6.主要な疾患をもつ対象の看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1)腫瘍(肺癌・中皮腫) 2)肺炎・気管支炎・肺膿瘍 3)慢性閉塞性肺疾患(COPD) 4)気管支喘息</li> </ol> </li> <li>7.肺がん患者の事例展開 <ol style="list-style-type: none"> <li>1)情報収集 2)分析 3)全体像</li> <li>4)看護上の問題 5)計画・立案 6)看護計画に基づいた実技演習</li> </ol> </li> <li>8.事例を基に終末期における援助計画立案と演習 エンド・オブ・ライフ・ケア(end-of-life care) <ol style="list-style-type: none"> <li>1)①全人的苦痛 ,②死の受容過程 ,③疼痛 それぞれのアセスメントとマネジメント</li> <li>2)症状(呼吸困難、浮腫、排泄異常、食欲不振、睡眠障害)アセスメントとマネジメント</li> <li>3)家族ケア</li> </ol> </li> <li>12. 終講試験</li> </ol>							<p>講義</p> <p>技術演習</p> <p>グループワーク</p>
評価方法 終講試験 50点 演習課題 40点 グループワーク参加貢献度 10点							
テキスト： 系統看護学講座 成人看護学[2] 呼吸器 第15版 医学書院 看護がみえる フィジカルアセスメントガイドブック メディックメディア							
参考書： 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 第11版 医学書院 別巻 臨床外科看護各論 第9版 医学書院							
備考 既習学習である疾病治療論の呼吸器系、基礎看護診療の補助技術、看護過程、成人看護学概論の危機理論の復習をしておくこと。この授業は成人看護学実習Ⅱに繋げるための授業でもある。							
講師紹介：専任教員。専門領域：成人看護学。 公的医療機関である大阪府指定がん診療拠点病院に勤務。小児・成人・老年期を対象とする一般内科・外科病棟を経験。							

専 門 分 野

老年看護学

## 老年看護学

### 1、考え方

我が国の65歳以上の老年人口が前谷閉める割合は今後も上昇を続け、2035年頃までには3人に1人が65歳以上という超高齢社会が予測されている。平均寿命も男女とも80歳を越えた世界トップクラスであり、老年期を過ごす期間は平均20年程度が見込まれる。また、老年期は、人生の幕を引くという段階であり、エンドオブライフケアにも関与する。そのため、老年看護には、地域の人々や他の専門職と手を携えながら、住み慣れた生活の場と治療の場とを橋渡しする役割が求められている。このような社会情勢の中で、核家族化している現在、高齢者に接する機会が少なく、身体機能の低下、社会的役割の縮小、介護問題などの特性をマイナスのイメージと捉える学生も多い。

高齢者は長い年月を生きてきた人生の先輩であり、豊かな自己概念をもった存在として理解することが必要であり、老年期の人々の健康を総合的にとらえ、高齢者が人生の終末まで尊厳を保ち、生き抜くことができるような援助の在り方を理解する必要がある。そのため、老年看護学は、対象を生活機能の観点からとらえ、健康を維持しながら、疾病を予防し、豊かな人生の統合へと向かって歩む過程を援助することを目標とする。さらに、医療福祉チームの一員として多角的な視野を持ち、高齢者とその家族に応じた看護を学ぶ。

### 2、科目の設定および設定理由

老年看護学は4単位、78時間。科目構成は、老年看護学概論（1単位15時間）、老年看護援助論Ⅰ（1単位24時間）、老年看護援助論Ⅱ（1単位24時間）、老年看護学演習（1単位15時間）とする。

老年看護学概論では、高齢者の築いてきた生活史を基盤に対象を理解する考え方を学ぶ。また、高齢者を取り巻く社会構造の変化、保険、医療、福祉の動向及び老年看護の役割・機能・責務について学ぶ。

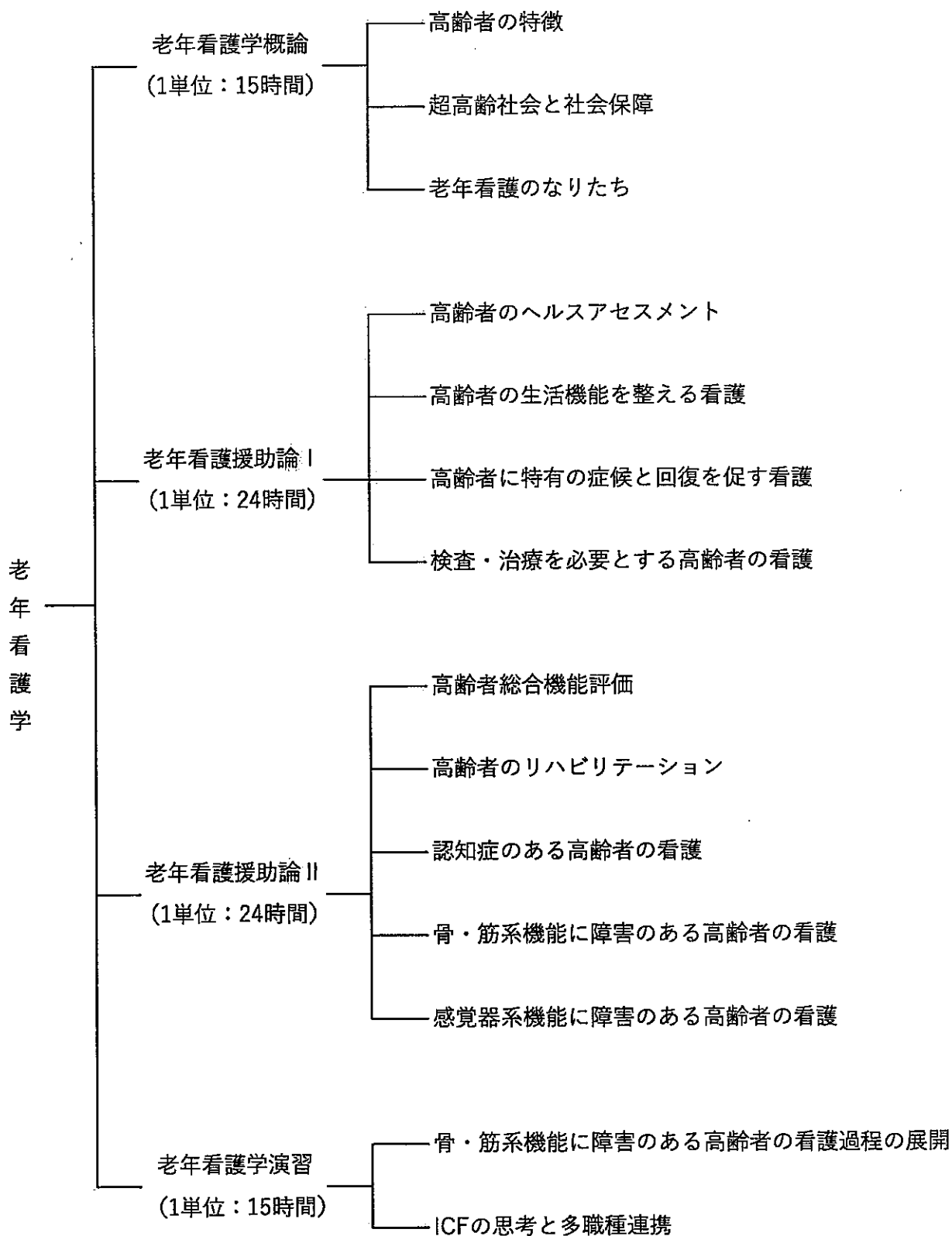
老年看護援助論Ⅰでは、基礎看護学を基盤として、加齢や健康障害に伴って生じる日常生活上の問題をとらえ、自立して、生きがいのある生活を送るための援助方法を学ぶとともに、老年症候群の特徴と症候の成因と治療・看護についても学ぶ。

老年看護援助論Ⅱでは、高齢者に特有な疾患・機能障害を理解し、必要なセルフケア能力を高めるための看護を学ぶ。また、解剖生理学や病理学を基盤に、老年看護援助論Ⅰで学んだ知識・技術を活用し、認知症のある高齢者の看護、骨格・筋系機能、感覚器系機能に障害のある高齢者の看護についても理解する。

老年看護学演習では、老年看護援助論Ⅰ・Ⅱでの学びを統合し、事例を基に、高齢者のアセスメントの視点、持てる力の維持・向上に向けて全体像を把握しケアプランを立案・実施・評価していく過程を学ぶ。また、ICFの思考を基に多職種連携における看護の役割を学ぶ。

# 老年看護学の構造

講義（4単位：78時間）



科目	老年看護学講義 (4単位 78時間)	単位 時間	履修 時期
	科目目的・目標		
老年看護学概論	目的： 高齢者の築いてきた生活史を基盤に対象を理解する考え方を学ぶ。 また、高齢者を取り巻く社会構造の変化、保険、医療、福祉の動向及び老年看護のなりたち・役割・責務について学ぶ。	1単位 15 時間	1年 後期
	目標 1 老年期の特徴を知り、高齢者のライフステージを理解する。 2 老人保健の動向・医療・福祉対策・介護保険制度を理解する。 3 高齢者施設における看護を理解する。 4 老年看護のなりたちと役割・責務について理解する。		
老年看護援助論Ⅰ	目的： ヘルスアセスメントを基に、高齢者の生活機能を整える看護及び高齢者に特有の症候のなりたちと回復を促す看護を学ぶ。 また、検査や治療を必要とする高齢者の特徴と看護を学ぶ。	1単位 24 時間	2年 前期
	目標 1 高齢者のヘルスアセスメントについて理解する。 2 高齢者の生活機能を整える看護を理解する。 3 高齢者に特有の症候と回復を促す看護を理解する。 4 検査・治療を必要とする高齢者の特徴と看護を理解する。		
老年看護援助論Ⅱ	目的： 高齢者の疾患の特徴・機能障害・診断・治療を理解し、セルフケア能力を高めるための看護を学ぶ。	1単位 24 時間	2年 前期
	目標 1 高齢者総合機能評価 (CGA) について理解する。 2 高齢者のリハビリテーションについて理解する。 3 認知症のある高齢者の看護を理解する。 4 骨・筋系に障害のある高齢者の看護を理解する。 5 感覚器系に障害のある高齢者の看護を理解する。		
老年看護学演習	目的： 事例展開を通して、高齢者の生活背景・生活史に応じたQOLを考える。疾患や障害をもち生活する高齢者に対して、ADLの維持・向上及びICFの思考を基に多職種連携における看護の役割を学ぶ。	1単位 15 時間	2年 後期
	目標 1 事例を通して、高齢者のアセスメントができる。 2 対象のADLの維持・向上や持てる力を引き出す援助が立案できる。 3 大腿骨頸部骨折の高齢患者の病態が理解でき、看護が実施できる。 4 ICFの思考と多職種連携における看護の役割が理解できる。		



学科目	老年看護学概論	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門分野
講師名	阿部 千栄子					学期	1年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的： 高齢者の築いてきた生活史を基盤に対象を理解する考え方を学ぶ。 また、高齢者を取り巻く社会構造の変化、保険、医療、福祉の動向及び老年看護のなりたち・役割・責務について学ぶ。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 老年期の特徴を知り、高齢者のライフステージを理解する。</li> <li>2 老人保健の動向・医療・福祉対策・介護保険制度を理解する。</li> <li>3 高齢者施設における看護</li> <li>4 老年看護のなりたちと役割・責務について理解する。</li> </ol> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老いるということ、老いを生きるということ <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 老化と寿命</li> <li>2) 高齢者の生理的特徴 認知・知覚・呼吸・循環機能の老化 消化・吸収・代謝・排泄・免疫・運動・性機能の老化</li> <li>3) 老年期の発達課題</li> <li>4) 高齢者体験</li> </ol> </li> <li>2. 超高齢社会と社会保障 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 超高齢社会の統計的輪郭</li> <li>2) 高齢社会における保健医療福祉の動向 保健医療福祉システムの構築 介護保険制度の整備 高齢者を支える多職種連携と看護活動の多様化</li> <li>3) 高齢者の権利擁護 虐待・高直・成年後見制度</li> </ol> </li> <li>3. 高齢者施設における看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 高齢者を支える多職種連携と看護活動</li> <li>2) 高齢者と家族の看護</li> </ol> </li> <li>4. 老年看護のなりたち <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 老年看護の役割</li> <li>2) 老年看護における理論</li> <li>3) 老年看護に携わる者の責務</li> </ol> </li> <li>5. 終講試験</li> </ol>							<p>講義 グループ ワーク</p> <p>高齢者体験</p>
評価方法	終講試験 90点		レポート課題 10点				
テキスト	系統看護学講座	専門分野	老年看護学	第9版	医学書院		
	系統看護学講座	専門分野	老年看護病態・疾患論	第5版	医学書院		
講師紹介	<p>基礎看護学・成人看護学・老年看護学の教員経験がある。 臨床実習指導者・病棟主任看護師としての勤務経験がある。</p>						

学科目	老年看護援助論Ⅰ	単位数	1	時間数	24	科目区分	専門分野
講師名	今川 貴実子					学期	2年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的：ヘルスアセスメントを基に、高齢者の生活機能を整える看護及び高齢者に特有の症候のなりたちと回復を促す看護を学ぶ。 また、検査や治療を必要とする高齢者の特徴と看護を学ぶ。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 高齢者のヘルスアセスメントについて理解する。</li> <li>2 高齢者の生活機能を整える看護を理解する。</li> <li>3 高齢者に特有の症候と回復を促す看護を理解する。</li> <li>4 治療を必要とする高齢者の特徴と看護を理解する。</li> </ol> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者のヘルスアセスメント <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ヘルスアセスメントの基本</li> <li>2) 身体の高齢変化とアセスメント</li> </ol> </li> <li>2. 高齢者の生活機能を整える看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 日常生活を支える基本的活動</li> <li>2) 食事・食生活を整える援助</li> <li>3) 排泄ケア</li> <li>4) 清潔ケア</li> <li>5) 生活リズムを整える看護</li> <li>6) 高齢者とのコミュニケーション</li> </ol> </li> <li>3. 症候のアセスメントと看護 <p>発熱・痛み・かゆみ・脱水・嘔吐・浮腫 倦怠感・褥瘡・スキンケア・るいそう・フレイル・せん妄</p> </li> <li>4. 検査・治療を必要とする高齢者の看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 検査を受ける高齢者の看護</li> <li>2) 薬物療法を受ける高齢者の看護</li> <li>3) 手術を受ける高齢者の看護</li> <li>4) リハビリテーションを受ける高齢者の看護</li> <li>5) 入院治療を受ける高齢者の看護</li> </ol> </li> <li>5. 終講試験</li> </ol>							講義 演習 グループ ワーク DVD
評価方法	終講試験 80点 レポート課題 20点						
テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野 老年看護学 第9版 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野 老年看護病態・疾患論 第5版 医学書院</p>						
講師紹介	今川 貴実子：地域包括ケア病棟勤務経験がある。						

学科目	老年看護援助論Ⅱ	単位数	1	時間数	24	科目区分	専門分野
講師名	阿部 千栄子					学期	2年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的： 高齢者の疾患の特徴・機能障害・診断・治療を理解し、セルフケア能力を高めるための看護を学ぶ。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 高齢者総合機能評価（CGA）について理解する。</li> <li>2 高齢者のリハビリテーションについて理解する。</li> <li>3 認知症のある高齢者の看護を理解する。</li> <li>4 骨・筋系に障害のある高齢者の看護を理解する。</li> <li>5 感覚器系に障害のある高齢者の看護を理解する。</li> </ol> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の総合機能評価 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) バイタルサイン・栄養評価・検査</li> <li>2) CGAによる評価</li> </ol> </li> <li>2. 高齢者のリハビリテーション <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 廃用症候群の予防</li> <li>2) 転倒予防プログラム</li> </ol> </li> <li>3. 認知症の症状・診断・治療・看護</li> <li>4. 骨格・筋系に機能に障害を持つ高齢者の看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大腿骨頸部骨折患者の看護</li> <li>2) パーキンソン症候群患者の看護</li> </ol> </li> <li>5. 感覚器系機能に障害のある高齢者の看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 皮膚</li> <li>2) 視覚</li> <li>3) 耳鼻咽喉</li> <li>4) 歯・口腔</li> </ol> </li> <li>6. 終講試験</li> </ol>							<p>講義</p> <p>演習</p> <p>グループワーク</p> <p>DVD</p>
評価方法	終講試験 80点		レポート課題 20点				
テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野 老年看護学 第9版 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野 老年看護病態・疾患論 第5版 医学書院</p>						
講師紹介	<p>基礎看護学・成人看護学・老年看護学の教員経験がある。</p> <p>臨床実習指導者・病棟主任看護師としての勤務経験がある。</p>						

学科目	老年看護学演習	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門分野
講師名	阿部 千栄子					学期	2年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的： 事例展開を通して、高齢者の生活背景・生活史に応じたQOLを考える。疾患や障害をもち生活する高齢者に対して、ADLの維持・向上及びICFの思考を基に多職種連携における看護の役割を学ぶ。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 事例を通して、高齢者のアセスメントができる。</li> <li>2 対象のADLの維持・向上や持てる力を引き出す援助が立案できる。</li> <li>3 大腿骨頸部骨折の高齢患者の病態が理解でき、看護が実施できる。</li> <li>4 ICFの思考と多職種連携における看護の役割が理解できる。</li> </ol> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 加齢変化と病態の理解</li> <li>2. 情報整理とアセスメント</li> <li>3. 全体像</li> <li>4. 看護上の問題</li> <li>5. 援助計画</li> <li>6. 援助の実施と評価</li> <li>7. ICFの思考と多職種連携における看護の役割</li> <li>7.5 終講試験</li> </ol>							<p>講義</p> <p>グループワーク</p> <p>発表会</p>
評価方法	終講試験						
テキスト	<p>配布資料¥</p> <p>系統看護学講座 専門分野 老年看護学 第9版 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野 老年看護病態・疾患論 第5版 医学書院</p>						
講師紹介	<p>基礎看護学・成人看護学・老年看護学の教員経験がある。</p> <p>臨床実習指導者・病棟主任看護師としての勤務経験がある。</p>						

専 門 分 野

小児看護学

## 小児看護学

### 1. 考え方

小児看護が果たす役割は基本的な人権を守り、その子どもの健やかな成熟を願い、子どもへの直接的な支援とともに、様々な不安や悩みをかかえる家族が安心して育児にあたることのできる環境づくりを支えることである。

少子超高齢社会を迎えて、親観や育児観、核家族化に伴う家庭環境や学校教育の場における問題など、子どもを取り巻く社会環境は急速に変化している。子どもはみずからのもてる力とこれらの環境との相互作用の中で成長発達する存在である。子どもの健康問題の経過や子どもと家族がおかれている状況、あらゆる症状にある子どもの健康回復を促進し、その子らしい生活ができるように援助するための基本的知識・技術・態度を学ぶ。そして、健康な子どもに対する保健指導、入院や外来での健康を障がいされた子どもへの治療上の生活援助、障がいをもちながら在宅で生活する子どもや災害といった家族の一連の体験としての健康管理を含め、子どもへのかかわり方を子どもの最善の利益を守る観点から養う。

### 2. 科目の設定および設定期理由

小児看護学は4単位98時間。科目構成は小児看護学概論（1単位28時間）、小児看護援助論Ⅰ（1単位29時間）、小児看護援助論Ⅱ（1単位26時間）、小児看護学演習（1単位：15時間）で構成する。小児が環境と相互に作用し合いながら成長・発達をしていく存在であることを理解し、子どもの基本的人権を守り、あらゆる健康問題の経過にある子どもとその家族に適切な看護を実践できる能力を養う教育内容とする。

小児看護学概論は、小児の特徴、小児看護の理念・目的を理解する。また、子どもが健康に育つ成長・発達過程とそのために必要な援助を考え、理解する。具体的には、出生前期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期に分け、その特性を成長・発達の側面から捉え、生命の活性度が最も大きいこの時期の発達課題と個性の尊厳を理解する。

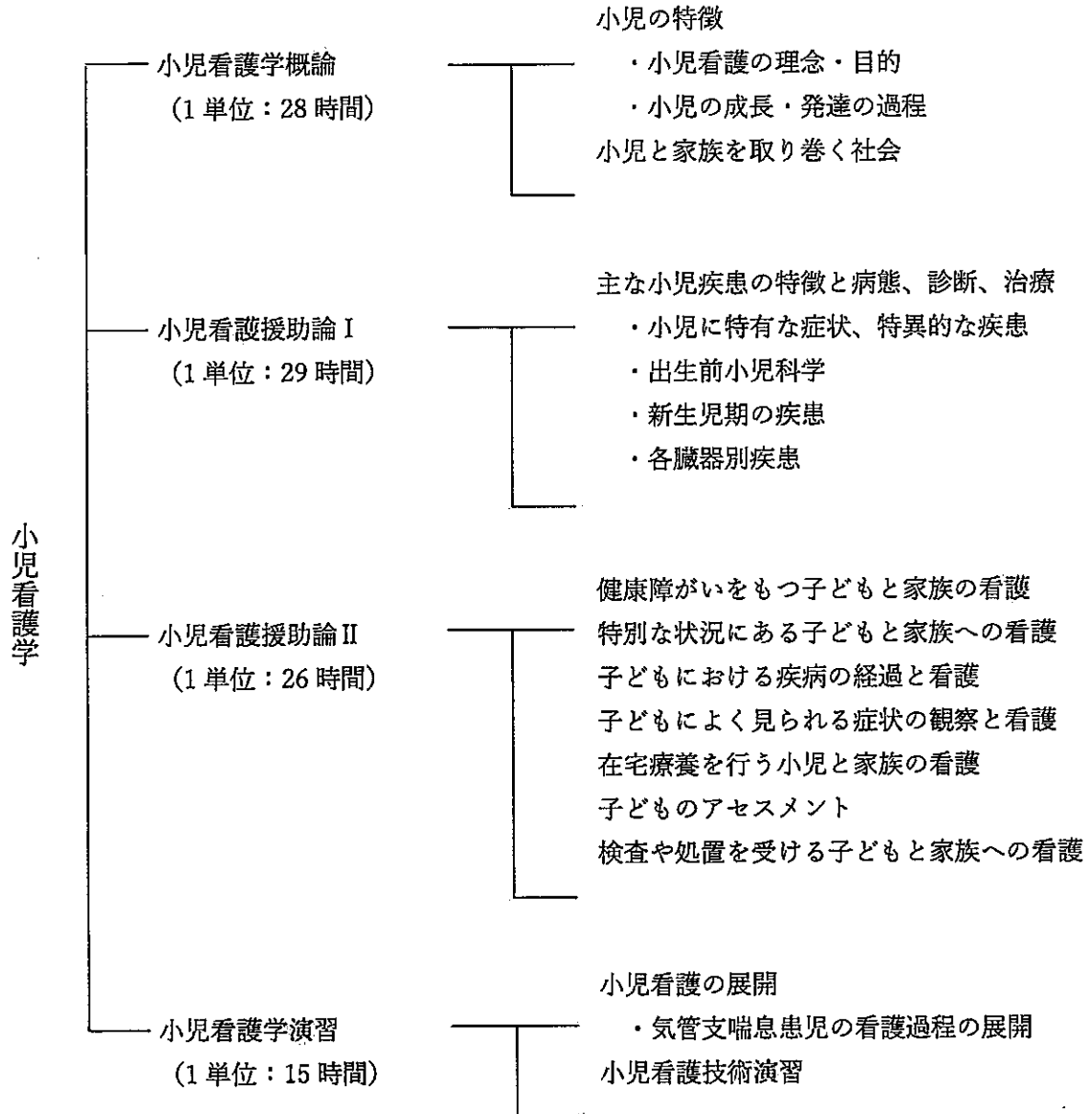
小児看護援助論Ⅰは、主な小児疾患の特徴と病態のメカニズム・診断・治療について理解し、健康に障がいのある小児看護の観察や看護判断の根拠とするよう学ぶ。

小児看護援助論Ⅱは、小児看護援助論Ⅰの学習知識を根拠に健康障がいがある小児とその家族に及ぼす影響と反応を発達段階及び健康問題の経過に応じて理解し、その看護を学ぶ。また、小児各期における主な症状と子どもの状況に特徴づけられる看護を理解する。

小児看護学演習は、子どもの看護技術の基本的な考え方および具体的な方法を学ぶ。気管支喘息の看護過程の展開、事例をもとに小児看護技術演習を行い習得する。

# 小児看護学の構造

講義 (4 単位 : 98 時間)



科目	小児看護学講義(4単位:98時間)	単位 時間	履修 時期
	科目目的・目標		
小児看護学概論	目的:小児看護の対象である「子ども」について理解し、子どもが健康に育つ過程とそのために必要な援助を理解する。	1単位 28 時間	2年 前期
	1. 小児看護の変遷を知り、小児看護の理念・目的を理解する。 2. 小児の特徴を理解し、健康な小児の成長・発達過程を理解する。 3. 母子保健・福祉・行政について理解する。 4. 健全な人間形成のための生活環境について理解する。		
小児看護援助論Ⅰ	目的:主な小児疾患の特徴と病態のメカニズム・診断及び治療について理解し、看護援助方法について考える。	1単位 29 時間	2年 後期
	1. 小児領域に特異性や頻度の高い疾患について、その原因、診断、予後、治療を理解する。(代謝性疾患、内分泌疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、血液・造血器疾患、腎・泌尿器疾患、神経疾患)		
小児看護援助論Ⅱ	目的:健康障害をもち、様々な状況にある子どもの看護を学ぶ。	1単位 26 時間	2年 後期
	1. 健康障害が小児と家族に及ぼす影響と反応を発達段階に応じて理解する。 2. 小児各期によく見られる症状を理解し援助について理解する。 3. 健康障害をもつ小児の日常生活の援助を理解する。 4. 健康障害をもち様々な状況にある子どもの看護について、倫理的側面、他職種、他機関を踏まえて学習し小児看護のあり方について理解する。		
小児看護学演習	目的:呼吸器系の健康障害をもつ患児と家族の看護を学ぶ。	1単位 15 時間	2年 後期
	1. 呼吸器系の健康障害をもつ患児の特徴を説明できる。 2. 子ども発達段階に応じたアセスメントと援助について理解する。 3. 事例展開を通して、呼吸器系の健康障害をもつ患児と家族の看護を理解する。 4. 子どもの成長・発達を促す関わりの重要性和家族に対する看護の必要性について説明できる。 5. 基本的な小児看護技術を習得する。		



学科目	小児看護学概論	単位数	1	時間数	28	科目区分	専門分野
講師名	浦田由希子				学期	2年前期	
科目目標・内容						方法	
<p>ねらい: 子どもについて統合的に理解し、子どもが健康に育つ過程と そのために必要な援助を理解する。</p> <p>目標:1.小児の特徴を理解し、健康な小児の成長・発達の過程を理解する。 2.小児医療や看護の変遷について理解する。 3.子どもの権利を理解する。 4.小児各期の成長発達を生活の側面から理解する。 5.子どもを取り巻く環境について理解する。(保健・福祉・行政) 6.子どもの健康を支えるための看護の役割について理解する。 7.健全な人間形成のための生活環境について理解する。</p> <p>講義計画、内容:</p> <p>1～4. 小児看護の特徴と理念 1)小児看護の対象(子どもの特徴・子どもにとっての家族とは) 2)小児看護の変遷 3)小児看護における倫理と子どもの権利 4)小児看護の目標と役割</p> <p>5～9. 小児の成長発達と生活 1)成長発達の原則と影響因子 2)発達段階と発達課題、成長発達の評価 3)小児各期の成長発達と生活動作の獲得</p> <p>10. 小児の栄養 1)発達段階別の小児栄養 2)食育</p> <p>11～13. 小児と家族を取り巻く社会と諸問題 1)法律と政策 2)予防接種 3)学校保健 4)特別支援教育(発達障害)</p> <p>14. 終講試験</p>						講義 視聴覚教材 課題学習	
評価方法	終講試験 課題提出状況と内容 講義態度を統合して評価						
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論 第14版 医学書院						
講師紹介	専任教員。専門は小児看護学。高度先進医療機関(新生児・乳幼児・成人・老年) 集中治療室、市立病院(内科・外科)、療育園で看護師として臨地経験あり						

学科	小児看護援助論 I	単位数	1	時間数	29	科目区分	専門分野
講師名	今北優子・小田公子・松川泰廣					学期	2年後期
科目目標・内容							方法
<p>ねらい:主な小児疾患の特徴と病態のメカニズム・診断及び治療について理解し、看護援助方法について考える。</p> <p>目標:小児疾患の中でも小児領域に特異性や頻度の高い疾患について、その原因、診断、予後、治療を理解する。</p> <p>授業計画</p> <p>&lt;今北優子:7回&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主な小児疾患の理解 小児に特有な症状、小児に特異的な疾患</li> <li>2. 出生前小児科学 新生児期の疾患</li> <li>3. 血液・造血器疾患 悪性腫瘍疾患</li> <li>4. 腎・泌尿器疾患</li> <li>5. 脳・神経疾患 (神経系の先天異常～脳性麻痺まで)</li> <li>6. 脳・神経疾患(神経皮膚症候群～筋疾患まで) 運動器疾患(先天性股間性脱臼～先天性筋性斜頸まで)</li> <li>7. 運動器疾患 骨折等 脱水、浮腫について、精神疾患</li> </ol> <p>&lt;小田公子:5回&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>8. 小児の代謝性疾患、内分泌疾患、特に先天性疾患を中心に講義</li> <li>9. 小児の免疫性疾患、アレルギー性疾患、リウマチ疾患について講義</li> <li>10. 小児の感染症 総論、ウイルス性感染症を中心に講義</li> <li>11. 小児の感染症 細菌感染症、小児の呼吸器疾患主として呼吸器感染症について</li> <li>12. 小児の循環器疾患 先天性心疾患を中心に講義</li> </ol> <p>&lt;松川泰廣:2回&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>13. 14. 小児外科の日常疾患</li> <li>15. 終講試験</li> </ol>							講義
評価方法 終講試験 100点							
テキスト 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 第14版 医学書院							
備考 小児疾患について正しい知識を習得し理解することは、疾患によって健康を障害された子ども及びその家族に疾病の回復、健康の保持・増進、成長・発達を促すために必要な援助を学ぶ前提になる。							
講師紹介 小児科医師							

学科目	小児看護援助論Ⅱ	単位数	1	時間数	26	科目区分	専門分野
講師名	中川 貴子					学期	2年後期
科目目標・内容							方法
ねらい:健康障害をもち、様々な状況にある子どもの看護を学ぶ 目標: 1. 健康障害が小児と家族に及ぼす影響と反応を発達段階に応じて理解する。 2. 小児各期によく見られる症状を理解する。 3. 健康障害をもつ小児に必要な援助を理解する。 4. 健康障害をもち様々な状況にある子どもの看護について、倫理的側面、他職種、他機関を踏まえて学習し小児看護のあり方について理解する。							
授業計画・内容							
1. 健康障害をもつ子どもと家族の看護							講義
1) 病気に対する子どもおよび家族の理解と特徴 2) 入院中と外来における子どもと家族の看護							
2. 特別な状況にある子どもと家族への看護							VTR
1) 虐待を受けている子どもと家族への看護 2) 災害を受けた子どもと家族の看護							
3. 子どもにおける疾病の経過と看護							課題学習
1) 慢性的な疾患のある子どもと家族の看護 2) 終末期にある子どもと家族の看護							
4. 子どもによく見られる症状の観察と看護							グループ
(ア) 発熱 2) 呼吸困難 3) 嘔吐 4) 下痢 5) 脱水 6) けいれん 7) 発疹							ワーク
5~6. 在宅療養を行う小児と家族の看護							
1) 心身障害のある子どもと家族への看護 2) 医療的ケアを必要として退院する子どもとその家族の看護 3) 在宅看護の意義と看護師の役割・社会支援							
7. 子どものアセスメント							
1) アセスメントに必要な技術 (イ) 身体的アセスメント							
8~12. 検査や処置を受ける子どもと家族への看護							
1) プレパレーション、ディストラクション 2) 輸液管理(固定法と観察、抑制含む) 3) 入院中の清潔援助 4) 検体採取(採血・採尿・吸引・骨髄穿刺・腰椎穿刺) 5) 呼吸症状の緩和吸入時の援助 6) 救命処置							
13. 終講試験							
評価方法	終講試験 70点		授業態度 10点		レポート 20点		
テキスト							
系統看護学講座 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 第14版 医学書院							
系統看護学講座 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 第14版 医学書院							
講師紹介 専任教員。専門領域：小児看護学。							
NICU や小児科・産科病棟で看護師として勤務経験あり。							

学科目	小児看護学演習	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門分野
講師名	中川 貴子					学期	2年後期
科目目標・内容							方法
<p>ねらい:呼吸器系の健康障害をもつ患児と家族の看護を学ぶ。</p> <p>目標:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 呼吸器系の健康障害をもつ患児の特徴を説明できる。</li> <li>2. 子ども発達段階に応じたアセスメントと援助について理解する。</li> <li>3. 事例展開を通して、呼吸器系の健康障害をもつ患児と家族の看護を理解する。</li> <li>4. 子どもの成長・発達を促す関わりの重要性と家族に対する看護の必要性について説明できる。</li> <li>5. 基本的な小児看護技術を習得する。</li> </ol> <p>授業計画・内容</p> <p>1～5. 気管支喘息患児の看護過程の展開</p> <p>6～7. 小児看護技術演習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 身体計測とバイタルサイン測定(体重、体温、呼吸数(状態)、心拍数、血圧)</li> <li>② 与薬、拒薬時の看護</li> <li>③ 吸入</li> <li>④ 静脈内輸液点滴の固定法、輸液中の観察</li> <li>⑤ 輸液中の清潔援助</li> </ol> <p>7.5 終講試験</p>							<p>講義</p> <p>演習</p> <p>グループワーク</p> <p>課題学習</p>
評価方法	課題レポート 90 点 授業態度 10 点						
テキスト	<p>系統看護学講座 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 第 14 版 医学書院</p> <p>系統看護学講座 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 第 14 版 医学書院</p>						
備考	<p>看護過程演習では、事例を基に個人で展開し、グループワークを通して意見交換により学習を進める。</p> <p>看護技術は、援助計画を立案し演習する。</p>						
講師紹介	<p>専任教員。専門領域:小児看護学。</p> <p>NICU や小児科・産科病棟で看護師として勤務経験あり。</p>						

専 門 分 野

母性看護学

# 母性看護学

## 1, 考え方

今日、母性を取り巻く環境は、女性の役割の多様化、社会進出、医療の高度化、晩婚化、不妊に関する生殖医療の問題、少子高齢化、さらに、育児の困難さ等、次世代を健全に産み育てるための母性への支援が質的・量的に変化してきている。さらに、国際結婚、外国人家族の増加等、母性看護の役割はますます拡大してきている。さらに、母性保健統計・法律に基づいた母性看護の機能と活動の場について理解を深める。

母性看護学では、社会情勢や環境の変化、役割の拡大を踏まえ、女性のライフサイクル各期(思春期・成熟期・更年期・老年期)において、性と生殖の機能を健全に発揮できるよう看護を学ぶ。また、女性の生涯を通じた健康・増進への看護、疾病の予防、子どもや母親、女性、家族の立場にたった個別的な看護を学ぶ。

学習者の多くは時代を担う母性・父性の対象者であるため、自己の性と生殖に関する健康について認識を深めるとともに自己の母性・父性・親性を養う。

## 2, 科目の設定及び設定理由

母性看護学は4単位114時間。学科目は母性看護学概論(1単位28時間)、母性看護援助論Ⅰ(1単位28時間)、母性看護援助論Ⅱ(1単位30時間)、母性看護学演習(1単位28時間)で構成する。

母性看護学概論では、母性の概念を定義だけでなく、母性の発達に関連深い母子関係や家族関係について発展させる。また、人間の性と生殖の意義を学び、性の発達を中心に女性のライフサイクル各期の特徴を捉える。さらに、母性看護の歴史的変遷と動向、母性を取り巻く環境の変化を捉えた上で母性看護の概念と役割を考える。

母性看護援助論では、女性のライフサイクルにおける成熟期の中で、周産期に焦点を当て、周産期の対象とその看護について学ぶ。「周産期」とは、妊娠後期から早期新生児期までとされるが、ここでは、妊娠・分娩・産褥に関わるケアが全てとし、妊娠期から産褥1か月の母児を含める内容とする。

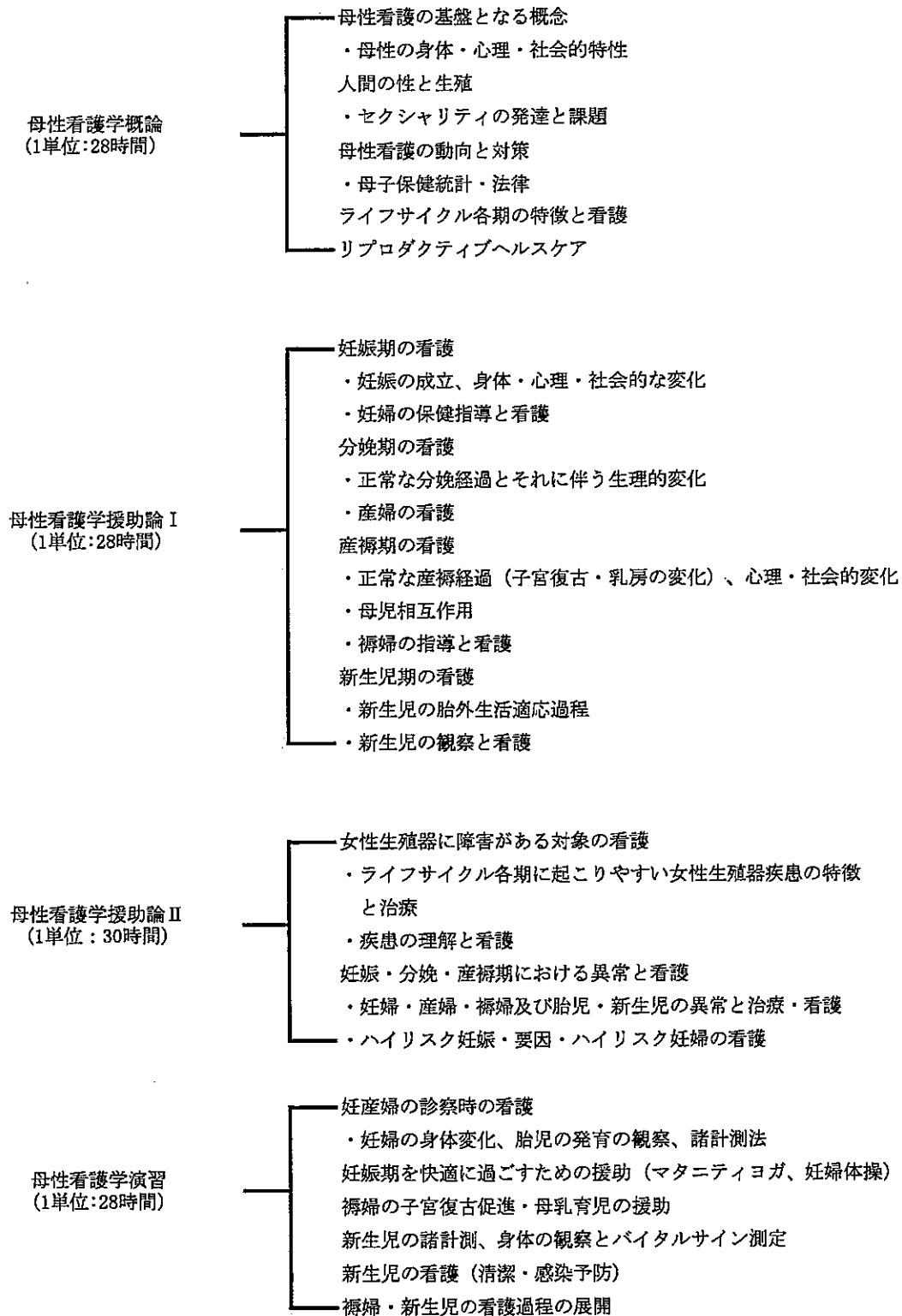
具体的には母性看護援助論Ⅰでは、妊娠・分娩・産褥及び新生児の生理と正常な経過を理解し、妊産褥婦及び新生児の看護を学ぶ。更に愛着・母子相互作用と母子関係が形成される中での看護の役割を理解する。

母性看護援助論Ⅱでは、ライフサイクル各期(思春期・成熟期・更年期・老年期)における健康問題、女性生殖器疾患の特徴と治療について学ぶ。また、妊娠・分娩・産褥中にみられる異常、妊婦・産婦・褥婦及び胎児に起こる問題について理解し、医学的対応、健康状態のアセスメントと看護について学び、その予防と看護を学ぶ。

母性看護学演習では、妊産褥婦及び新生児の看護に必要な基本的看護技術を習得する。また、褥婦及び新生児を対象にした健康の保持・増進への看護過程を学ぶ。

# 母性看護学の構造

講義 (4単位:114時間)



科目	母性看護学講義(4単位:114時間)	単位 時間	履修 時期
	科目目的・目標		
母性看護学概論	目的:母性看護学の意義と役割を理解する。	1単位 28 時間	2年 前期
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母性の概念を理解する。</li> <li>2. 母性看護の意義と機能を理解する。</li> <li>3. 人間の種族保存について理解する。</li> <li>4. 母性看護の動向と対策を理解する。</li> <li>5. 母性を取り巻く生命倫理について考える。</li> <li>6. ライフサイクル各期の特徴と看護について理解する。</li> </ol>		
母性看護学援助論I	目的:妊娠、分娩、産褥、新生児の生理と正常な経過を理解し、妊産褥婦および新生児の看護を学ぶ。また、母子相互作用が形成される中で看護の役割・重要性を学ぶ。	1単位 28 時間	2年 前期
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠、分娩、産褥の生理と経過を理解し、基本的援助方法を理解する。</li> <li>2. 新生児の生理を理解し、基本的援助方法を理解する。</li> <li>3. 母子相互作用について理解する。</li> </ol>		
母性看護学援助論II	目的: <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 女性生殖に発生する疾患を理解し、看護実践の観察力・判断力の根拠とする。</li> <li>2. 妊娠・分娩・産褥経過中に見られる異常、妊婦・産婦・褥婦および胎児・新生児に起こる問題について理解し、医学的対応、健康状態のアセスメントと看護について学ぶ。</li> </ol>	1単位 30 時間	2年 後期
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 思春期・成熟期・更年期に起こりやすい女性生殖器疾患の特徴と治療を理解する。</li> <li>2. ハイリスク妊娠、要因、ハイリスク妊婦の看護について理解する。</li> <li>3. 分娩3要素に見られる異常、胎児付属物の異常、分娩時の損傷、産科処置、手術に伴う健康問題について理解する。</li> <li>4. 新生児の以上とその診断・アセスメント、医学的管理、看護を理解する。</li> <li>5. 子宮復古不全、発熱、産褥期の精神症状など、産褥期の問題とその看護について理解する。</li> </ol>		
母性看護学演習	目的: <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊産褥婦および新生児の看護に必要な看護技術を理解し、習得する。</li> <li>2. 褥婦と新生児の看護過程を学び、知識・技術の統合を図り、看護として解決すべき問題や現象の問題解決力を養う。</li> </ol>	1単位 28 時間	2年 後期
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊産褥婦および新生児の看護に必要な基本的看護技術を習得する。</li> <li>2. 褥婦の看護過程の展開に必要な知識と方法を理解する。</li> </ol>		



学科目	母性看護学概論	単位数	1	時間数	28	科目区分	専門分野
講師名	井手 窪 澄子					学期	2年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的:母性看護の意義と役割を理解する。</p> <p>目標 1. 母性看護の対象の特徴を理解する。</p> <p>2. 人間の性と生殖の意義を理解する。</p> <p>3. 母子関係の成立、母児愛着について理解する</p> <p>4. 母性看護の動向と対策を理解する。</p> <p>5. 生命の尊厳や生命倫理について考える。</p> <p>6. ライフサイクル各期の特徴と看護について理解する。</p> <p>内容</p> <p>1. 母性とは、心理社会的意味</p> <p>2. 母性をめぐる定義、母子関係母児愛着</p> <p>3. セクシャリティ(人間の性)の文化と発達</p> <p>4. リプロダクティブヘルス・ライツ、ヘルスプロモーション</p> <p>5. 母性看護の歴史的変遷と現況</p> <p>6. 母性保健統計</p> <p>7. 母性看護に関連する組織と法律</p> <p>8. 母性看護の対象の理解</p> <p>9. 女性のライフサイクルと家族</p> <p>10. ライフサイクル各期における女性の健康と看護</p> <p>11. 12. グループワーク</p> <p>① 性感染症と看護</p> <p>② HIVに感染した女性の看護</p> <p>③ 人口妊娠中絶と看護</p> <p>④ 喫煙と女性の看護</p> <p>⑤ 性暴力を受けた女性の看護</p> <p>グループワーク発表</p> <p>13. 国際看護</p> <p>14. 終講試験</p>							講義 G W DVD
評価	終講試験						
テキスト	系統看護学講座 母性看護学[1] 母性看護学概論 第14版 医学書院						
参考文献	国民衛生の動向						
講師紹介	専任教員。専門領域:母性看護学。公的病院で助産師として臨床勤務経験有。看護専門学校・短期大学にて専任教員、母性看護学担当。大学にて助教、基礎看護学担当。						

学科目	母性看護援助論 I	単位数	1	時間数	28	科目区分	専門分野
講師名	大山 晴美				学期	2年 前期	
科目目標・内容						方法	
<p>目的</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠、分娩、産褥の生理と正常の経過を理解し、妊産褥婦の看護を学ぶ。</li> <li>2. 新生児の生理を理解し、新生児の看護を学ぶ。</li> <li>3. 母子相互作用の視点から看護の重要性について学ぶ。</li> </ol> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠、分娩、産褥の生理と経過を理解し、基本的援助方法を理解する。</li> <li>2. 新生児の生理を理解し、基本的援助方法を理解する。</li> <li>3. 母子相互作用について理解する。</li> </ol> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子供を生み育てること、命の出会い(受精・妊娠の成立)</li> <li>2. 不妊治療と看護について</li> <li>3. 正常な妊娠期の身体的特徴・心理・社会的変化について</li> <li>4. 妊婦と家族の看護について</li> <li>5. 分娩3要素・分娩機序について</li> <li>6. 分娩経過・診断方法・分娩進行に伴う身体的変化・心理的变化について ①(分娩第1～2期)</li> <li>7. 分娩経過・診断方法・分娩進行に伴う身体的変化・心理的变化について ②(分娩第3～4期)</li> <li>8. 正常な分娩期における母児の看護について</li> <li>9. 正常な産褥期の生理的・心理的・社会的変化について</li> <li>10. 正常な産褥経過のアセスメントと褥婦の看護について</li> <li>11. 母乳育児・母児の愛着形成について</li> <li>12. 正常新生児の生理的变化・アセスメントについて</li> <li>13. 正常新生児の看護・2週間健診・1ヶ月健診について</li> <li>14. 終講試験</li> </ol>						講義	
評価 終講試験							
テキスト 系統看護学講座 母性看護学[2] 母性看護学各論、第14版 医学書院 根拠と事故防止からみた母性看護技術 第3版、医学書院							
講師紹介 助産師 ほたる助産院 院長							

学科目	母性看護援助論Ⅱ	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門分野
講師名	北方 直美					学期	2年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 女性生殖器に発生する疾患の病因・病態・症状・診断・検査・治療・予後などについて学び、看護実践の観察力・判断力の根拠にする。</li> <li>2. 妊娠・分娩・産褥経過中に見られる異常、妊婦・産婦・産婦および胎児・新生児に起こる問題について理解し、医学的対応、健康状態のアセスメントと看護について学ぶ。</li> </ol> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 思春期・成熟期・更年期・老年期に起こるやすい女性生殖器疾患の特徴と治療を理解する。</li> <li>2. ハイリスク妊娠、要因、ハイリスク妊婦の看護について理解する。</li> <li>3. 分娩の3要素に見られる異常、胎児付属物の異常、分娩時の損傷、産科処置・手術に伴う問題について理解する。</li> <li>4. 新生児の異常とその診断・アセスメント、医学的管理、看護を理解する。</li> <li>5. 子宮復古不全、発熱、産褥期の精神症状など、産褥期の問題とその看護について理解する。</li> </ol> <p>内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 女性生殖器系に障害がある対象の看護について <ol style="list-style-type: none"> <li>①診察・検査と治療・処置</li> </ol> </li> <li>2. ②疾患の産婦の理解(外陰・子宮・乳房・乳房疾患)</li> <li>3. ③疾患の理解(卵管・卵巣・月経異常・更年期障害)</li> <li>4. ④疾患の理解(骨盤腹膜・骨盤結合組織・感染症疾患)</li> <li>5. ⑤疾患の理解(不妊症・不育症・避妊)</li> <li>6. 妊娠・分娩・産褥・新生児における異常について</li> <li>7. ①妊娠期の異常(ハイリスク妊娠)</li> <li>8. ②妊娠期の異常(合併妊娠・妊娠中の疾患)</li> <li>9. ③分娩の異常(産道・娩出力・娩出物の異常)</li> <li>10. ④分娩期の異常(分娩Ⅲ期直後の異常・産科処置と手術)</li> <li>11. ⑤早期新生児の生理・アセスメントと異常</li> <li>12. ⑥産褥の異常 13. ⑦乳房トラブル 14. まとめ 15. 終講試験</li> </ol>							講義 プリント VTR
評価 終講試験							
<p>テキスト 系統看護学講座 成人看護学[9] 女性生殖器 第15版 医学書院</p> <p>系統看護学講座 母性看護学[2] 母性看護学各論第14版 医学書院</p> <p>根拠と事故防止からみた母性看護技術 第3版 医学書院</p>							
講師紹介 助産師。 菊池レディスクリニック勤務							

学科目	母性看護学演習	単位数	1	時間数	28	科目区分	専門分野
講師名	中川明子				学期	2年後期	
科目目標・内容						方法	
<p>目的</p> <p>1. 妊産褥婦及び新生児の看護に必要な看護技術を理解し、習得する。</p> <p>2. 褥婦と新生児の看護過程を学び、知識・技術の統合を図り、看護として解決すべき問題や現象の問題解決能力を養う。</p> <p>目標</p> <p>1. 妊産褥婦及び新生児の看護に必要な基本的看護技術を習得する。</p> <p>2. 褥婦の看護過程の展開に必要な知識と方法を理解する。</p> <p>授業計画</p> <p>1. 妊産婦の診察時の看護技術について</p> <p>    ①妊婦健診時の諸計測(腹囲・子宮底測定)</p> <p>2. ②骨盤外計測・レオポルド触診法</p> <p>3. ③胎児心拍測定・陣痛測定</p> <p>4. 妊婦体操と補助動作と妊婦・褥婦の乳房ケア</p> <p>5. 分娩期の看護技術について</p> <p>    ①分娩促進のための援助(産通緩和・呼吸法・マッサージ法)</p> <p>6. 褥婦の看護技術について</p> <p>    ①子宮復古状態の観察と促進の援助</p> <p>7. 新生児の看護技術について</p> <p>    ①新生児のバイタルサイン測定と身体計測</p> <p>8. 9 ②沐浴</p> <p>10. 褥婦・新生児の看護過程について</p> <p>    ①正常褥婦の看護過程</p> <p>11. ②帝王切開褥婦の看護過程      12. ③正常新生児の看護過程</p> <p>13. ④褥婦・新生児の関連図作成      14. 終講試験</p>						演習	
評価方法      終講試験							
テキスト      系統看護学講座 母性看護学(2) 母性看護学各論 第14版 医学書院 根拠と事故防止からみた母性看護技術 第3版 医学書院							
講師紹介 助産師。病院・助産院・保健センター勤務経験あり。実習指導者又は指導教員として助産学生、看護学生指導。専門分野:母性看護学							

専 門 分 野

精神看護学

# 精神看護学

## 1. 考え方

ストレスが多い現代、精神障害患者数は300万人に及ぶと推定されている。自殺者の95%以上は自殺に及ぶ前に何らかの精神疾患を抱えている。その中で適切な治療を受けていた人は10%~20%に過ぎない。よって誰しものが、何らかのストレスを抱え苦しんでいる現状にある。

2004年9月厚生労働省から精神保健福祉総合計画として「精神医療福祉の改革ビジョン」が示された。改革ビジョンでは、「入院医療から地域生活中心へ」という基本方針が打ち出され、精神保健福祉対策として、従来の精神科病院での長期間入院し薬剤療法・精神療法を受けていた状況から、地域ケアへという方針に変化した。

近年の入院疾患割合は統合失調症60%、外来患者では気分障害が30%近くをしめている。統合失調症においては妄想や幻聴によって生活や対人関係に支障が生じ、入院を余儀なくされる患者も多い。また、精神障害者は偏見の目で見られ基本的人権も阻まれている現状がある。

このような現状において、精神科看護学では、精神を病む人の予防、治療、看護、リハビリテーション、地域での継続ケア役割のみではなく、偏見や差別といった歴史や、他者を受容し、人間存在の意義までも思考する学習も包含される。

精神科看護師の援助関係は、基本的な対人関係を築ける能力を持つ必要がある。看護師は羅生門的視点を持ち、アサーティブな関係性を築き、寛容な姿勢を持ち、患者のストレスを発見し、苦しみを軽減し、社会生活に適応していくための、自己肯定感を向上させ、生きていくための力を高めることにある。

## 2. 科目の設定および設定の理由

精神看護学は4単位、72時間。科目構成は、精神看護学概論（1単位15時間）、精神看護援助論Ⅰ（1単位15時間）、精神看護援助論Ⅱ（1単位27時間）、精神看護学演習（1単位15時間）とした。

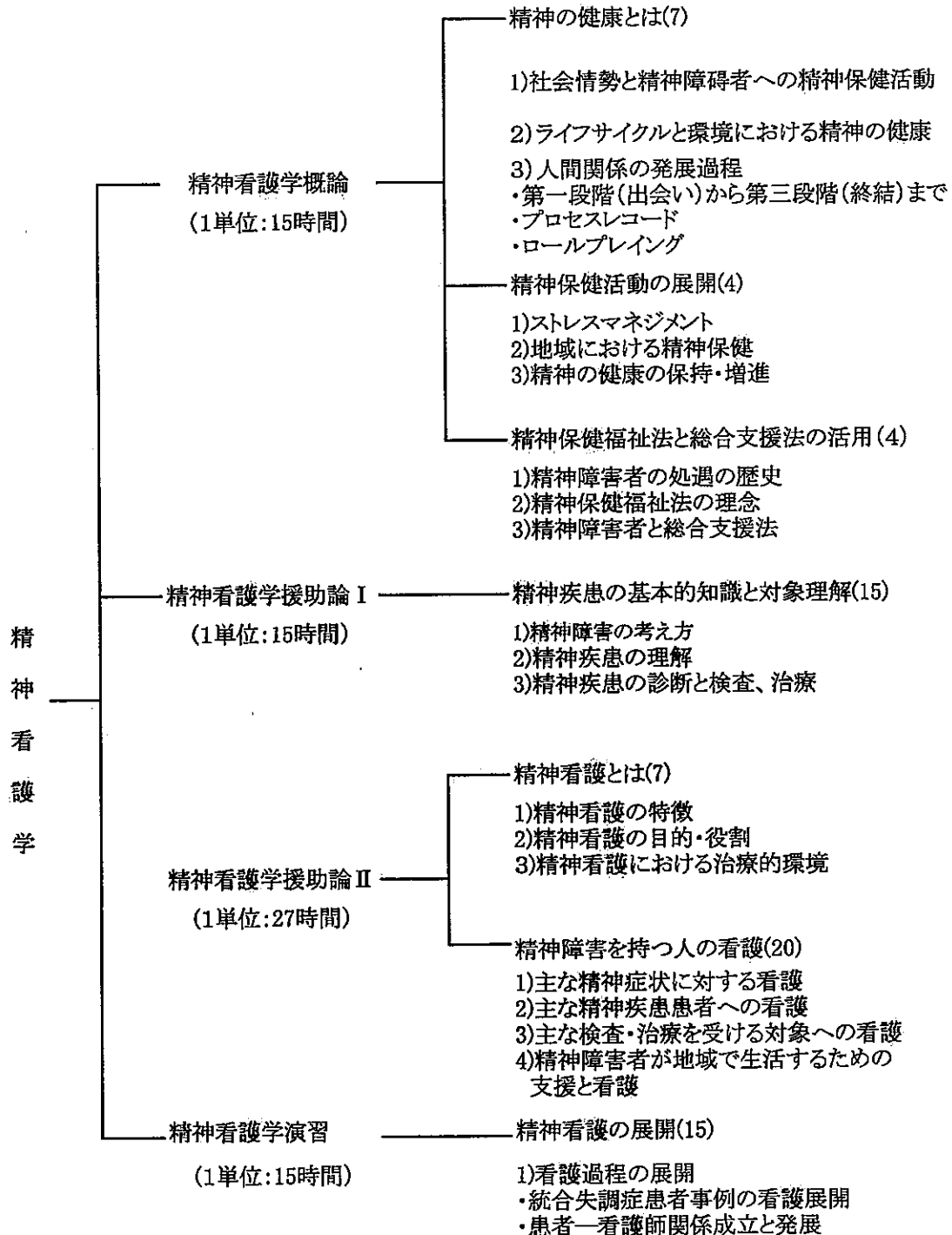
精神看護学概論では、こころを発達、社会適応の側面でもとらえライフサイクルにおける精神の健康と予防についての精神保健活動の展開を理解する。精神看護援助論Ⅰは、精神疾患と対象理解とし、精神機能の障害と精神疾患を理解し、精神障害がある人の治療について学ぶ。

精神看護援助論Ⅱは、精神看護の展開、主な精神症状や疾患の看護及び精神保健福祉サービスと看護を学び、精神障害がある人と家族に対する精神保健の保持増進のための看護を理解する。

精神看護学演習では、統合失調症患者の看護過程を展開し、対象の理解、入院治療と看護の理解を深める。また、プロセスレコードを活用し、効果的なコミュニケーション技術と自己洞察について学ぶ。

# 精神看護学の構造

講義(4単位:72時間)



科目	精神看護学講義(4単位:72時間)	単位 時間	履修 時期
	科目目的・目標		
精神 看護 学 概 論	目的:精神保健の動向や精神保健福祉法の変遷と施策、精神の健康の概念を理解し、精神の健康に関する普及啓発活動について理解する また、精神の働きや人間のライフサイクルにおけるこころの健康について学び、精神の健康とマネジメントについて理解することで、精神看護学における看護の目的を理解する。	1単位 15 時間	1年 後期
	目 標 1. 最近の精神保健の動向や精神保健福祉法の変遷と施策、精神の健康概念を理解する。 2. 精神の働きや人間のライフサイクルにおけるこころの健康について理解する。保健活動の展開について理解する。 3. 精神看護学における看護の目的を理解する。		
精神 看護 学 援 助 論 I	目的:精神障害の特徴・症状・検査・治療についての基本的知識を学び、対象の理解を深める。	1単位 15 時間	2年次 前期
	目 標 1. 精神障害の原因、分類について理解する。 2. 精神疾患を理解する。 3. 精神疾患の診断、検査、治療について理解する。		
精神 看護 学 援 助 論 II	目的:精神障害者を理解し、治療的人間関係を学び、精神疾患の症状に対する援助を学ぶ。また、状態に応じて自立を支援できるような援助方法を学ぶ。	1単位 27 時間	2年次 前期
	目 標 1. 精神看護の特徴、目的、役割を理解する。 2. 精神看護における治療的環境について理解する。 3. 精神障害を持つ人の看護について理解する。		
精神 看護 学 演 習	目的:精神障害者の看護過程を展開し、精神を病む人の健康水準や精神症状に応じた看護を理解する。	1単位 15 時間	2年次 前期
	目 標 1. 精神障害者の看護過程の展開(問題解決過程)を理解する。 2. 統合失調症患者のアセスメントと援助について理解する。 3. 患者—看護師関係の発展過程の対応について説明できる。 4. 効果的なコミュニケーション技術と自己理解について説明できる。		





学科目	精神看護援助論 I	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門分野
講師名	山 岸 洋					学期	2年前期
科目目標・内容							方法
<p>目 的 精神障害の特徴・症状・検査・治療についての基本的知識を学び、対象の理解を深める。</p> <p>目 標 1. 精神障害の原因、分類について理解する。 2. 精神疾患を理解する。 3. 精神疾患の診断、検査、治療について理解する。</p> <p>授業計画 1. 精神障害の考え方     1) 神経科医療の全体像 2) 精神障害の原因、分類</p> <p>2. 精神疾患の理解     1) 精神症状および状態像         意識障害、知能の障害、記憶の障害、知覚領域の障害、思考の障害</p> <p>3. 感情の障害、意欲、行動の障害、自我意識の障害、神経心理学的症状</p> <p>4. 神経衰弱状態、うつ状態、躁状態、幻覚妄想状態、錯乱（せん妄）状態、意欲減退状態、慢性退行状態</p> <p>5. 精神疾患の診断、検査、治療     1) 精神障害の診断の検査 ①診断の基礎：観察、問診     2) 検査：神経学的検査、心理検査（知能テスト、性格検査）</p> <p>6. 精神障害の治療     1) 薬物療法、2) 精神療法</p> <p>7. 主な精神疾患     1) 統合失調症気分 2) 気分障害依存症 3) 依存症（アルコール、薬物）     4) 神経症</p> <p>7.5 終講試験</p>							講 義
評価方法	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 第6版 医学書院 精神看護学 [2] 精神看護の展開 第6版 医学書院						
備考	・精神障害の原因、分類は医学概論と関連づけて学習する。 ・精神疾患の理解は、カウンセリング理論、心理学、公衆衛生と関連づけて学習する。 ・精神の機能は脳の機能と関連づけて学習する。						
講師紹介	神経精神科医						

学科目	精神看護援助論Ⅱ	単位数	1	時間数	27	科目区分	専門分野
講師名	古本 直己				学期	2年前期	
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障がい者を理解し、治療的人間関係を学び、精神疾患の症状に対する学ぶ。</li> <li>・状態に応じて自立を支援できるような援助方法を学ぶ</li> </ul> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神看護の特徴、目的、役割を理解する</li> <li>2. 精神看護における治療的環境について理解する</li> <li>3. 精神障害を持つ人の看護について理解する</li> </ol> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神障がい者の日常生活行動の特徴と治療環境 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 精神看護とは 2) 精神科に入院すること</li> <li>3) 精神科病棟の特徴 4) 治療的環境</li> </ul> </li> <li>2. 症状・状態別看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>・不安・睡眠障害のある患者の看護</li> <li>・幻覚・妄想がある患者の看護</li> </ul> </li> <li>3. 抑うつ状態にある患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>・躁状態にある患者の看護</li> </ul> </li> <li>4. 強迫行為・儀式的動作のある患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>・不信感のある患者の看護</li> </ul> </li> <li>5. 拒否・否定的な患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>・攻撃的行動がある患者の看護</li> </ul> </li> <li>6. 昏迷状態にある患者の看護</li> <li>7. 依存的傾向にある患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>・引きこもり状態にある患者の看護</li> </ul> </li> <li>8. 境界型パーソナリティ障害患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>・操作行動がある患者の看護</li> </ul> </li> <li>9. 摂食障害がある患者の看護</li> <li>10. てんかんのある患者の看護</li> <li>11. 多飲水のある患者の看護</li> <li>12. 認知症のある患者の看護</li> <li>13. 譫妄状態にある患者の看護</li> </ol> <p>13.5 終講試験</p>							講義
評価方法 終講試験							
テキスト 系統看護学講座 精神看護学[1] 精神看護の基礎 第6版 医学書院 精神看護学[2] 精神看護の展開 第6版 医学書院							
講師紹介 看護師。医療法人清風会茨木病院勤務。病棟での勤務とH26年から4年間は訪問看護ステーションの所長として地域にて活動をしてきました。病院・訪問看護の経験をもとに、精神疾患を抱える患者様の実際の姿や対応などについて話します。							

学科目	精神看護学演習	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門分野
講師名	山之内 由美				学期	2年前期	
科目目標・内容							方法
<p>ねらい 精神障害者の看護過程を展開し、精神を病む人の健康水準や精神症状に応じた看護を理解する。</p> <p>目 標 1.精神障害者の看護過程の展開（問題解決過程）が理解する。 2.統合失調症患者のアセスメントと援助について理解する。 3.患者—看護師関係の発展過程の対応について説明できる。 4.効果的なコミュニケーション技術と自己理解について説明できる。</p> <p>授業計画 1. 精神障害者の問題解決過程・精神障害者のアセスメントの視点 2. 事例：「統合失調症患者」提示 3. 精神症状が日常生活行動におよぼす影響 4. ライフサイクル、精神状態像、治療が関連した全体像の理解 5. 看護問題の抽出と看護計画立案 6. 看護計画の発表 7. 看護計画の発表 7.5 終講試験</p>							<p>講 義 個別指導 計画発表 グループワーク グループワークと発表</p>
評価方法	終講試験 50点 レポート 50点						
テキスト	系統看護学講座 精神看護学[1] 精神看護の基礎 第6版 医学書院 精神看護学[2] 精神看護の展開 第6版 医学書院 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践、秋葉公子他著、ヌーベルヒロカワ。						
参考図書	精神看護学Ⅱ（精神臨床看護学）第3版、川野雅資編集、ヌーベルヒロカワ。 統合失調症・気分障害をもつ人の生活と看護ケア、坂田三充、中央法規。						
講師紹介	専任教員。専門領域：精神看護学。ケアマネージャ（介護支援専門員）。社会福祉士。 教員経験：基礎看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、在宅看護論、精神看護学担当。 臨床経験：整形外科、眼科・耳鼻咽喉科・泌尿器科・皮膚科の混合科、精神科勤務。						

## 領域横断

## 領域横断

### 1. 考え方

看護は、あらゆる年代の個人、家族、集団、地域社会を対象とし、さらに、健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を行い、生涯を通して最後まで、その人らしく人生を全うできるように、その人の持つ力に働きかけながら支援することを目的としている。看護師は、幅広く対象を捉え、発達段階の軸、健康状態の軸に加え、人々の幸福感や死生観などの多様性への対応、災害時への対応までも含まれ、看護職の求められる能力や活躍の場が多様化している。領域横断科目では、1年次での専門基礎科目の学びを土台にしながら振り返りを行い、対象理解には、異なる分野・種類を超えたつながりを持つことを理解することで、横断的思考を鍛え、対象に行われている治療や健康の状態を判断し、実習での看護実践へとつなげる。また、成長発達に応じた健康支援の在り方を強化していく。

### 2. 科目の設定及び設定の理由

領域横断は、60 時間。科目構成は、臨床判断（1 単位 30 時間）、健康支援（1 単位 15 時間）、薬物療法と看護（1 単位 15 時間）とする。

臨床判断では、1年次に習った基礎のフィジカルアセスメントをもとに、領域に応じた対象への科学的根拠と、目的意識を持った正しいフィジカルアセスメントの方法を学ぶ。対象に起こっている事実を正しく評価し、予測することで、看護介入を的確に実施できるように、臨床判断能力の強化について学ぶ内容とする。

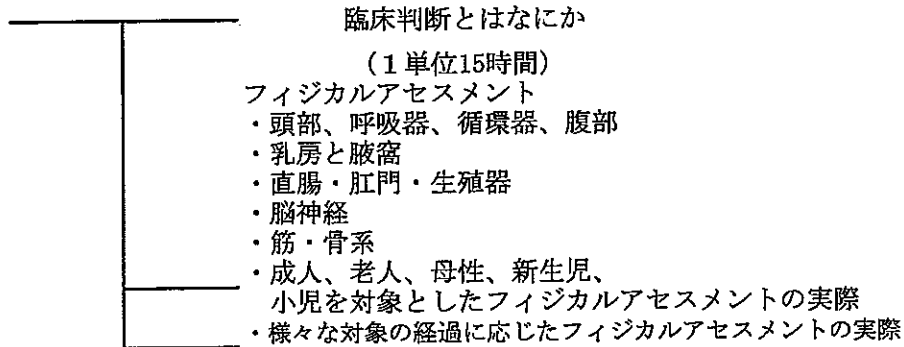
健康支援ではさまざまな発達段階や健康の状態に応じた対象への指導的役割を持つ看護師の介入方法を学ぶ内容とする。

薬物療法と看護では、1年次での薬理学の基礎知識をもとに、復習を行いながら、対象の発達段階や状況に応じた与薬の実際を学ぶことに加え、薬物療法における看護師の役割を学ぶ内容とする。

## 領域横断構造図

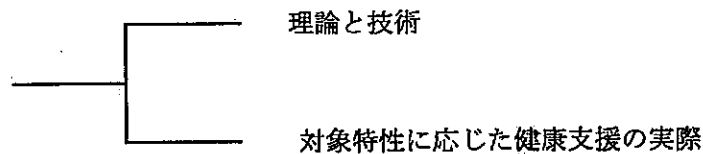
講義 (3単位：60時間)

臨床判断  
(1単位30時間)



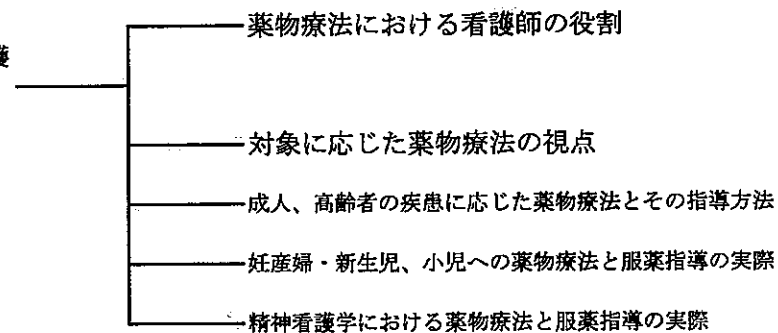
専門分野	基礎看護学	在宅地域・看護論	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	終講試験
時間	0	9	8	6	3	2	1	1

健康支援  
(1単位15時間)



専門分野	基礎看護学	在宅地域・看護論	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	終講試験
時間	2	4	4	1	2	1	0	1

薬物療法と看護  
(1単位15時間)



専門分野	基礎看護学	在宅地域・看護論	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	終講試験
時間	0	2	3	4	0	3	2	1

科目	領域横断 (3単位 60時間)	単位 時間	履修 時期
	科目目的・目標		
臨床判断	<p>目的：基礎看護学で学んだフィジカルアセスメントを振り返りながら、あらゆる健康の段階、生涯発達における対象の身体の状態を診査する手技を獲得する。併せて健康状態の経緯や自覚症状、問診により対象に何が起きているのかをアセスメントする。また、看護実践へ活かす必要性とその具体的方法を学ぶ。</p>	1 単位 30 時間	2年 後期
	<p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. フィジカルアセスメントを行う意義と重要性について説明できる。</li> <li>2. 対象の成長・発達の段階を考慮した基本的なフィジカルイグザミネーション技術を、正確かつ安全・安楽に実施できる。</li> <li>3. フィジカルイグザミネーションで得られた情報を正しく表現できる。</li> <li>4. 得られた情報に基づいて、対象者に起きていること・起こりうることをアセスメントし、科学的根拠をもとに必要な看護援助を考えることができる。</li> <li>5. 得られた情報を正しく報告することができる。</li> </ol>		
健康支援論	<p>目的：看護師が国民の健康について考え、対象とする人の健康支援のあり方やその理論および技術について学ぶ。</p>	1 単位 15 時間	2年 前期
	<p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の対象者の健康支援に必要な理論や技術を理解する。対象特性に応じた健康課題を解決する支援について考えることができる。</li> </ol>		
薬物療法と看護	<p>目的：人体に薬物が及ぼす影響をふり返し、主な疾病・健康の状態、発達段階における主となる薬物療法を取り上げ、アドヒアランスの向上に向けた看護について学ぶ。</p>	1 単位 15 時間	2年 前期
	<p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護師の行う薬物療法について理解することができる。</li> <li>2. 医薬品の特徴と患者への適応についてアセスメント、説明することができる。</li> <li>3. 薬の取り扱いに限らず、看護場面での患者への説明や問診の技術を修得できる。</li> <li>4. 各領域における特徴的な薬剤の理解と服薬指導方法がわかる。</li> <li>5. 薬物療法を受ける対象への心理的なかわり方がわかる。</li> <li>6. 得られた情報を正しく報告することができる。</li> </ol>		



学科目	臨床判断	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門分野 領域横断
講師名	村上 未恵				学期	2年前期	
科目目標・内容							方法
<p>ねらい</p> <p>基礎看護学で学んだフィジカルアセスメントを振り返りながら、あらゆる健康の段階、生涯発達における対象の身体の状態を診査する手技を獲得する。併せて健康状態の経緯や自覚症状、問診により対象に何が起きているのかをアセスメントする。また、看護実践へ活かす必要性とその具体的方法を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. フィジカルアセスメントを行う意義と重要性について説明できる。</li> <li>2. 対象の成長・発達の段階を考慮した基本的なフィジカルイグザミネーション技術を、正確かつ安全・安楽に実施できる。</li> <li>3. フィジカルイグザミネーションで得られた情報を正しく表現できる。</li> <li>4. 得られた情報に基づいて、対象者に起きていること・起こりうることをアセスメントし、科学的根拠をもとに必要な看護援助を考えることができる。</li> <li>5. 得られた情報を正しく報告することができる。</li> </ol> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床判断とは何か。 フィジカルアセスメント総論(フィジカルアセスメントを行う為の問診とフィジカルイグザミネーションの理解)/身体計測・バイタルサイン測定 of 振り返り</li> <li>2. 頭部のフィジカルアセスメント</li> <li>3. 呼吸器のフィジカルアセスメント</li> <li>4. 循環器のフィジカルアセスメント</li> <li>5. 腹部のフィジカルアセスメント</li> <li>6. 乳房と腋窩のフィジカルアセスメント</li> <li>7. 直腸・肛門・生殖器のフィジカルアセスメント</li> <li>8. 脳神経のフィジカルアセスメント</li> <li>9. 筋・骨系のフィジカルアセスメント</li> <li>10. 成人を対象としたフィジカルアセスメントの実際</li> <li>11. 老人を対象としたフィジカルアセスメント</li> <li>12. 母性・新生児を対象としたフィジカルアセスメントの実際</li> <li>13. 小児を対象としたフィジカルアセスメントの実際</li> <li>14. 様々な対象の経過に応じたフィジカルアセスメントの実際</li> <li>15. 終講試験</li> </ol>							<p>講義</p> <p>視聴覚教材</p> <p>モデル人形を用いた協同学習</p> <p>事例を基にアセスメントの視点を確認しながら、対象へのフィジカルアセスメントの方法を考え、実践し、報告することができる。</p> <p>ポートフォリオでの評価と、実践後のリフレクションを行う。</p>
評価方法	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 第18版 医学書院 看護技術プラクティス 竹尾恵子監修 第3班動画付 学研メディカル秀潤社 看護がみえる フィジカルアセスメント メディックメディア						
講師紹介	病棟・外来にて主任看護師として勤務。回復期リハビリ、リウマチ病棟、整形外科病棟、外来勤務経験あり。急性期看護、回復期看護、免疫疾患治療に携わる。						

学科目	健康支援論	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門分野 領域横断
講師名	関口 敏彰					学期	2年前期
科目目標・内容							方法
<p>ねらい : 看護師が国民の健康について考え、対象とする人の健康支援のあり方やその理論および技術について学ぶ。</p> <p>目 標 : 看護の対象者の健康支援に必要なとなる理論や技術を理解する。対象特性に応じた健康課題を解決する支援について考えることができる。</p> <p>授業計画</p> <p>第1回:健康支援で用いる理論と技術【KAPモデル、ヘルスビリーフモデル】</p> <p>第2回:健康支援で用いる理論と技術【自己効力感】</p> <p>第3回:健康支援で用いる理論と技術【行動変容ステージモデル】</p> <p>第4回:対象特性に応じた健康支援の実際【成人期】</p> <p>第5回:対象特性に応じた健康支援の実際【高齢期】</p> <p>第6回:対象特性に応じた健康支援の実際【小児期】</p> <p>第7回:終講試験</p>							講義
評価方法 : 終講試験							
<p>テキスト : 授業時に適宜紹介する</p> <p>参考図書 : 医療・保健スタッフのための 健康行動理論の基礎 松本千明 医歯薬出版 2002</p>							
<p>講師紹介 行政保健師として勤務後、現在は森ノ宮医療大学看護学部にて公衆衛生看護学の授業・研究を担当。1年次後期の公衆衛生学で学ぶ健康課題に対する支援方法とその実際について話をします。</p>							

学科目	薬物療法と看護	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門分野 領域横断
講師名	前中 真由美 ・ 浦田 由希子 ・ 中川 明子					学期	2年前期
科目目標・内容							方法
<p>ねらい</p> <p>人体に薬物が及ぼす影響をふり返り、主な疾病・健康の状態、発達段階における主となる薬物療法を取り上げ、アドヒアランスの向上に向けた看護について学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護師の行う薬物療法について理解することができる。</li> <li>2. 医薬品の特徴と患者への適応についてアセスメント、説明することができる。</li> <li>3. 薬の取り扱いに限らず、看護場面での患者への説明や問診の技術を修得できる。</li> <li>4. 各領域における特徴的な薬剤の理解と服薬指導方法がわかる。</li> <li>5. 薬物療法を受ける対象への心理的なかわり方がわかる。</li> <li>6. 得られた情報を正しく報告することができる。</li> </ol> <p>授業計画（前中:10時間）（浦田:2時間）（中川:2時間）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬物療法の復習 薬物療法における看護師の役割（入院前・中・後での看護師の役割） 取り扱い、その評価方法、報告までの一連の流れについて</li> <li>2. 対象に応じた薬物療法の視点（老年・小児・妊産婦）</li> <li>3. 成人の疾患に応じた薬物療法とその指導（化学療法・免疫抑制療法・抗血栓療法ほか）</li> <li>4. 高齢者の疾患に応じた薬物療法とその指導（心不全・認知症）</li> <li>5. 在宅における薬物療法援助の実際</li> <li>6. 妊産婦・新生児、小児への薬物療法と服薬指導の実際</li> <li>7. 精神看護学における薬物療法の実際とその指導 （統合失調症・気分障害・薬物依存症/起こりやすい副作用とその評価方法）</li> </ol> <p>7.5 終講試験</p>							<p>講義</p> <p>視聴覚教材 デモンストレーション</p> <p>事例を基にアセスメントの視点を確認しながら、対象へ介入方法を考え、実践し、報告することができる。</p>
評価方法	筆記試験						
テキスト 参考書	<p>系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 医学書院</p> <p>系統看護学講座 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ 第18版 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 第18版 医学書院</p> <p>疾病の成り立ちと回復の促進[3]薬理学 第15版 医学書院</p> <p>看護技術プラクティス 竹尾恵子監修 第3班動画付 学研メディカル秀潤社</p>						
講師紹介	<p>前中真由美：看護師。株式会社医教、株式会社ハピネスTK 在職中</p> <p>浦田由希子：専任教員。専門領域：小児看護学</p> <p>中川 明子：専任教員。専門領域：母性看護学</p>						

専 門 分 野

看護の統合と実践

## 看護の統合と実践

### 1. 考え方

臨床判断を行うための基礎的能力を養うために、専門分野で学んだ内容をもとに看護実践を段階的に学ぶ内容とする。2年前期では基礎看護学で学んだ、生活援助技術、診療補助診療の補助技術、共通看護技術の知識・技術・態度を統合・評価を行う内容とする。看護師が安全な医療・看護の提供のためにマネジメントできる基礎的能力を養うことができるよう、専門基礎分野で学んだ内容をもとに看護実践を段階的に学ぶことで、臨床判断を行うための基礎的能力を養い、チーム医療における看護師としてのメンバーシップの発揮や多職種との連携・協働を学ぶ内容とする。また、予測がつかない災害に対して、直後から支援できること、国際社会において広い視野に基づき、看護師として諸外国における保健・医療・福祉の課題を理解する内容を学ぶ。

卒業時には自己の理想とする看護師像を明確化し、看護における自己の学習過程を統合する中で課題を見出し、臨床判断能力を磨き上げる姿勢に繋げられる礎とする。

### 2. 科目の設定および設定の理由

看護の統合と実践は5単位、75時間。科目構成は看護の統合と実践Ⅰ（1単位15時間）、看護の統合と実践Ⅱ（1単位15時間）、看護管理（1単位15時間）、医療安全（1単位15時間）、災害看護・国際看護（1単位15時間）である。

看護の統合と実践Ⅰは各分野で学んだ内容を統合し、患者を幅広く理解する。そして、学生が自ら科学的根拠に基づき思考し必要な援助を見出し、優先順位と時間配分を考え主体的に行動し、臨床の場における自己の課題を明らかにする。

看護の統合と実践Ⅱは、リスクマネジメント能力・倫理的判断能力を高める事例を用いた技術演習および臨床に即した複数事例について優先順位と時間配分を考えた演習をおこなうようにする。

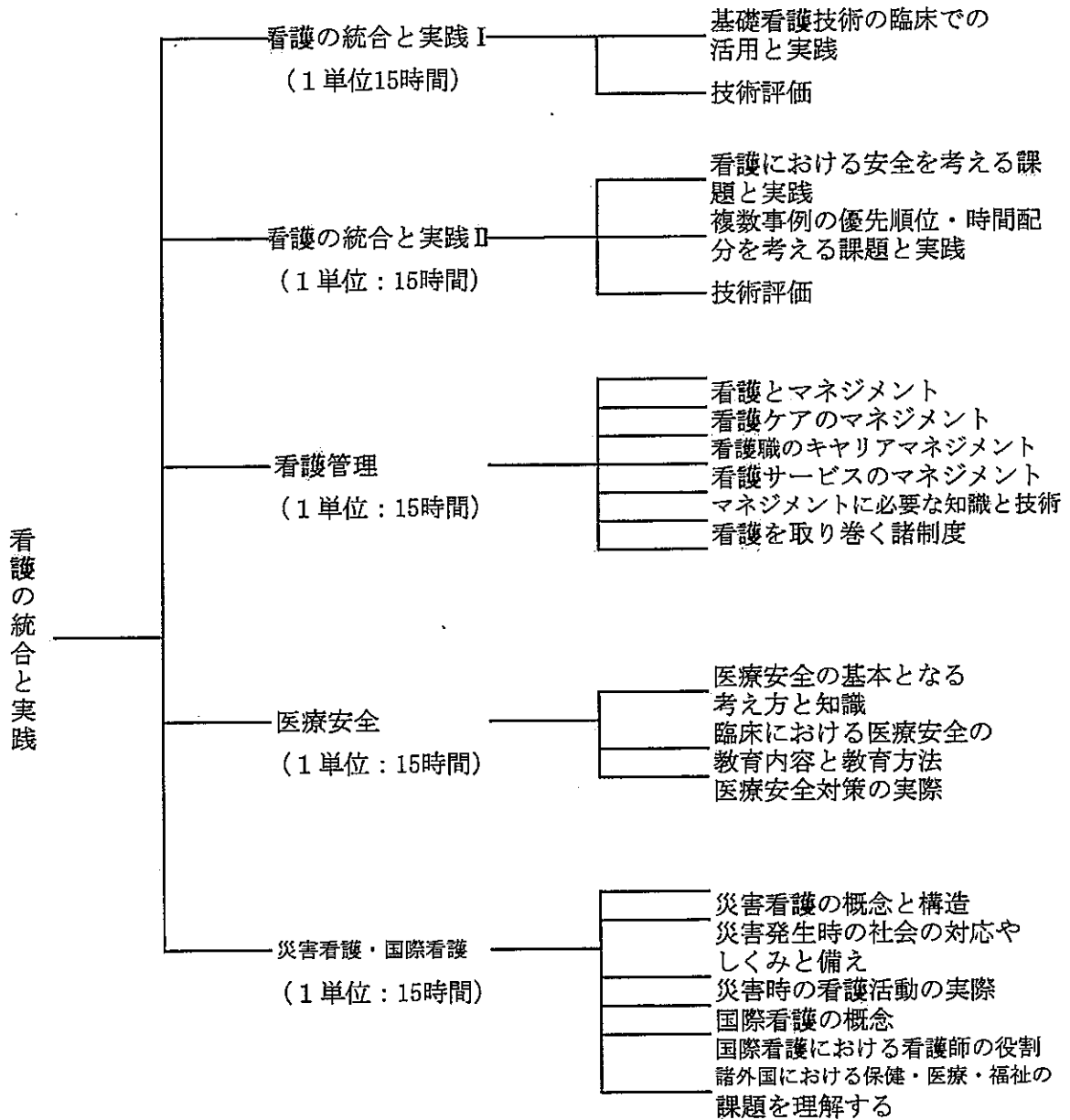
看護管理では、組織の中の看護部門の位置づけや看護管理の実践を学ぶ。また、臨地実習から看護マネジメントについて理解を深め、メンバーシップ・リーダーシップを卒業後に発揮できる素地を養う。

医療安全では、臨床の場におけるヒューマンエラーの実態を学ぶことで、医療安全対策の実践を理解し、インシデント、アクシデントの事例から医療事故の事例分析を行うことで、対応策や予防策を学び、今後の課題を見いだす必要性を学ぶ。

災害看護・国際看護は災害時の看護の役割、看護師として災害直後から支援できる基礎的知識、他職種との協働を理解する内容とした。国際社会における看護の役割国際協力の内容も含み、国際協力では視野を広く世界に広げ、諸外国との協力を考えることを学ぶ。

# 看護の統合と実践構造図

講義（5単位：75時間）



科目	看護の統合と実践講義 (5単位: 75時間)	単位 時間	履修 時期
	科目目的・目標		
看護の統合と実践 I	目的: 各分野で学んだ知識と技術をもとに対象を疾患や障害を有している生活者として幅広く理解し、科学的根拠に基づき必要な援助を見出し、優先順位と時間配分を考え主体的に行動がとれる。	1単位 15 時間	2年 前期
	目標: 1. 対象を疾患や障害を有している生活者として幅広く理解できる 2. 疾患の特徴や治療および健康水準に応じた援助を見出すことができる。 3. 対象に応じた援助を優先順位と時間配分を考え援助ができる。 4. 臨床における看護実践に必要な知識、技術、態度について考えることができる。		
看護の統合と実践 II	目的: 診療の補助技術、日常生活援助技術における安全に関する知識をもとに、複数事例及び制限時間内での看護実践、対処の方法についてシミュレーション演習を行い、チーム医療における正しい判断と安全・安楽な看護実践について考えられる。	1単位 15 時間	3年 前期
	目標: 1. 臨床における事故防止に向けた状況判断と実施に向けた知識を理解できる。 2. 診療の補助技術におけるエラー発生状況下での安全な行動ができる。 3. 対象の状況の変化に応じて優先順位や時間配分が変更できる。 4. 対象の状況の変化に応じて援助ができる。 5. 臨床における看護実践に必要な能力を考えることができる。		
看護管理	目的: チーム医療・看護ケアにおける看護師としての調整能力やリーダーシップおよびマネジメントに関する知識を獲得し、臨床現場での看護管理の実際を学ぶ。	1単位 15 時間	3年 前期
	目標: 1. 看護におけるマネジメントが理解でき、自己の看護体験からマネジメントについて考えられる。 2. 看護ケアのマネジメントについて理解する。 3. 看護職のキャリアマネジメントについて理解し、自己のキャリア形成について考えられる。 4. 看護サービスのマネジメントについて理解できる。 5. 組織の中の看護部の位置づけや看護方式について理解する。 6. 看護管理に必要な諸制度について理解する。		

医療安全	<p>目的：倫理観・責任感に基づき、医療安全に関する知識・技術の習得及びチームや組織の一員として医療安全活動に積極的に取り組む基礎的能力を養う。</p>	1単位 15 時間	3年 前期
	<p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 安全管理の実際について理解する。</li> <li>2. 看護事故の構造が理解できる。</li> <li>3. 事故防止の視点が理解できる。</li> <li>4. 事故防止の考え方が理解できる。</li> <li>5. 臨床における医療安全教育の内容と方法がわかる。</li> <li>6. 事例を通して医療安全対策の実際がわかる。</li> </ol>		
災害看護・国際看護	<p>目的：</p> <p>災害時は、人道支援の原則のもとに活動場所・災害サイクル・対象者のニーズに合わせた援助を行うことが求められている。グローバルな視点と、災害看護・国際看護の基本的知識を学ぶ。</p>	1単位 15 時間	3年 前期
	<p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害医療に関する基礎的知識・災害サイクル各期の特徴。被災者の特性を学び、減災・防災を目的とした看護師の果たす役割を理解する。</li> <li>2. 諸外国の多様な社会・文化・習慣と国際社会における平和や健康を脅かす現状を知り、国際看護の基礎知識とグローバルヘルス（地球規模の健康）を意識したカル道の実際を理解する。</li> </ol>		



学科目	看護の総合実践 I	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門分野
講師名	中村 敏代					学期	2年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>看護の統合と実践 I は基礎看護学、専門基礎分野で学んだ内容を統合し、対象事例の状況に合わせた日常生活援助と診療補助を実践する技術演習を行う。また、看護実践力の基礎となる知識と技術と態度とはどのようなものか考え、臨床の場における自己の課題を明らかにする。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 統合する科目・内容を理解する。</li> <li>2. 看護実践に求められる看護技術とはどのようなものか考える。</li> <li>3. 対象事例の病態・治療・検査・処置を理解する。</li> <li>4. 対象事例の日常生活の変化を理解する。</li> <li>5. 看護実践に必要なアセスメント視点・技術のポイントを理解する。</li> <li>6. 対象事例の状況に応じた方法を選択し看護実践する。</li> </ol> <p>内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 安全・安楽な看護実践に必要な技術を援助場面から考える。</li> <li>2. 対象事例の提示</li> <li>3. 対象事例のフィジカルアセスメント (呼吸・循環) 治療・検査・処置 看護 (日常生活援助・診療補助技術・コミュニケーション・感染予防)</li> <li>4. 技術評価の2事例について、統合に必要な技術の部分演習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 異常呼吸音 (副雑音) の聴取</li> <li>2) 動脈触知とABIの測定</li> <li>3) 輸液ラインの安全な管理</li> <li>4) 体位・リネンがくずれている場合の体位調整・リネンの整え方</li> <li>5) 輸液ライン挿入中の対象の和式寝衣の交換</li> </ol> </li> <li>5. 設定状況を踏まえた4-1)～5)を統合した技術演習</li> <li>6. 基礎看護技術の統合と実践 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 輸液ライン挿入中の対象の寝衣交換 (和式寝衣)</li> <li>2) 酸素療法、持続点滴中の臥床患者の病床環境整備・体位の調整</li> <li>3) 上記1) 2)を制限時間内に安全・安楽に実施する。</li> </ol> </li> </ol>							<p>講義</p> <p>個人ワーク グループ ワーク</p> <p>講義 演習</p> <p>デモンスト レーション</p> <p>技術評価</p>
評価方法：筆記試験 50点 技術評価 50点							
<p>参考図書：系統看護学講座 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 成人看護学 [2]呼吸器、[3]循環器、医学書院。 看護技術プラクティス3、竹尾恵子監修、学研 ナーシンググラフィカ ヘルスアセスメント 基礎看護学②、メディカ出版 ナーシンググラフィカ 基礎看護技術 基礎看護学③、メディカ出版 フィジカルアセスメントガイドブック 山内豊明、医学書院 その他</p>							
<p>講師紹介：高度先進医療機関 (心臓血管外科・内科) での臨床経験、教育歴：地域～病院までの全専門領域の臨地実習指導経験、成人(急性期)・在宅の講義、基礎看護学では全学科目の講義・演習を担当した実務経験がある</p>							

学科目	看護の統合と実践Ⅱ	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門分野
講師名	松本 順子					学期	3年前期
科目目標・内容							方法
<p>ねらい            診療補助技術、日常生活援助技術における安全に関する知識をもとに、複数事例及び制限時間内での看護実践、対処方法についてシミュレーション学習を行い、チーム医療における、正しい判断と安全・安楽な看護実践について考えられる。</p> <p>目標            1. 臨床における事故防止に向けた状況判断と実施に向けた知識を理解する。            2. 診療の補助技術におけるエラー発生状況下での安全な行動がとれる。            3. 対象に応じた援助について優先順位と時間配分を考え、正確かつ適切な時間内に実施する。(シミュレーション)            4. 臨床での看護実践に必要な知識、技術、態度について課題を考える。</p> <p>授業計画            1. 診療の補助技術における安全を考える課題と実践                1) 知らねばならない危険の知識・基礎知識                   ①ME機器使用時の注意点                   ②機器を使用しての輸液療法の基本     ③チューブ類の管理            2) 業務中に起こる事故の誘発要因状況下で事故防止に向けた状況判断と実施                ①安全な輸液ポンプ・シリンジポンプの操作                   ・事故の誘発要因   ・輸液の準備・設定・基本操作   ・アラーム時の対処                ②演習後グループ討議「事故誘発要因下での安全な輸液ポンプ操作」                   のための行動と意識            2. 災害発生時のERのVTRからチーム医療と看護について考える。            3.            4-5. 複数事例の優先順位・時間配分を考える課題と実践                1) 事例紹介           2) 複数患者の看護実践                3) 間違いを誘発するさまざまなプレッシャー状況への対処                   ①タイムプレッシャー状況での援助     ②業務途中中断での援助                   ③予期しない患者の反応                4) 振り返り     ①優先順位と時間配分   ②タイムプレッシャー状況での対処            6. 看護技術の統合・臨床を踏まえた看護実践                1) 技術評価－実施要領の説明                2) 演習－①トイレで胸痛発作があった対象の状態の確認と判断⇒②点滴ルートや状態に配慮しながら車椅子でベッドまで移送⇒③状態を確認しながら心電計の電極を装着する。(フィジカルアセスメントモデル)            7. 技術評価－6-2)を優先順位、制限時間を考え実施            8. 終講試験(筆記試験)</p>							<p>講義</p> <p>シリンジポンプ 輸液ポンプ 演習</p> <p>グループワーク DVD視聴</p> <p>講義</p> <p>ロールプレイ演習 グループワーク</p> <p>講義・演習 デモンストレーション</p> <p>技術評価</p>
評価方法：筆記試験 50点    技術評価 50点							
<p>参考図書 医療安全ワークブック、川村治子、医学書院            フィジカルアセスメントガイドブック 山内豊明、医学書院            根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 仁和子監修、医学書院            看護技術プラテクトイス 竹尾恵子監修 第3班動画付 学研メディカル秀潤社 その他</p>							
<p>講師紹介 専任教員。専門領域：成人看護学。            公的医療機関でs 環大阪府指定がん診療拠点病院に勤務。小児・成人・老年期を対象とする一般内科・外科病棟勤務経験。</p>							

学科目	看護管理	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門分野
講師名	吉田 菊江					学期	3年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>チーム医療・看護ケアにおける看護師としての調整能力やリーダーシップおよびマネジメントに関する知識を獲得し、臨床現場での看護管理の実際を理解することができる。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護とマネジメント <ol style="list-style-type: none"> <li>1) マネジメントとは</li> <li>2) 看護におけるマネジメント</li> </ol> </li> <li>2. マネジメントに必要な知識と技術 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 組織とマネジメント</li> <li>2) リーダーシップとマネジメント</li> <li>3) 組織と個人</li> </ol> </li> <li>3. ケアのマネジメント <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護職の機能</li> <li>2) 患者の権利</li> <li>3) 安全管理・感染管理</li> <li>4) 看護職の協働・他職種との協働</li> <li>5) 情報管理</li> </ol> </li> <li>4. 看護サービスのマネジメント <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 組織目的達成のマネジメント</li> <li>2) 協働のためのマネジメント</li> <li>3) 情報のマネジメント</li> <li>4) 技術のマネジメント</li> <li>5) 医療の質評価</li> </ol> </li> <li>5. 看護職のキャリアマネジメント <ol style="list-style-type: none"> <li>1) キャリアマネジメント 2) タイムマネジメント 3) ストレスマネジメント</li> </ol> </li> <li>6. 看護を取り巻く諸制度 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護職と法制度</li> <li>2) 医療制度</li> </ol> </li> <li>7. 実習で体験したことを看護管理と結びつける <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習での体験を言語化し、看護管理をグループワークによって関連づける。</li> </ol> </li> </ol>							講義
							グループワーク 発表
評価方法： 終講試験							
テキスト： 系統看護学講座 看護管理 医学書院 2021年2月1日発行第10版第4刷							
講師紹介：看護副学校長 専門分野：老年看護学 担当：看護研究							

学科目	医療安全	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門分野
講師名	小塚 清美					学期	3年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的 倫理観・責任感に基づき、医療安全に関する知識・技術の習得及びチームや組織の一員として医療安全活動に積極的に取り組む基礎的能力を養う。</p> <p>目標 1. 安全管理の実際について理解できる。 2. 看護事故の構造が理解できる。 3. 事故防止の視点が理解できる。 4. 事故防止の考え方が理解できる。 5. 臨床における医療安全教育の内容と方法がわかる。 6. 事例を通して医療安全対策の実際がわかる。</p> <p>授業計画 1. 医療安全とは、基本用語とは、 (医療安全の動向について、ヒューマンエラーとは、チームステップス (チーム医療) コミュニケーションについて) 2. 医療事故、看護師の法的責任とは、 (医療事故判例から見る。看護師の業務上、教育上の課題) 3. 報告判例、インシデント、事故 (薬剤、誤薬について) (病院評価機構から、報告判例からグループワーク、発表。) 4. 報告判例、インシデント、事故 (ドレーン管理について) (内容、方法は3に同じ) 5. 報告判例、インシデント、事故 (転倒、転落について) (内容、方法は3に同じ) 6. 分析方法、KYT (危険予知トレーニングについて) (グループワーク、発表) 7. メデエションとは (一部、グループワーク)</p> <p>7.5 終講試験</p>							講義
評価方法： 終講試験							個人 ワーク グループ ワークと 発表
テキスト 系統看護学講座 看護の統合と実践 [2] 医療安全 第4版 医学書院							
備考							
講師紹介 行岡病院 医療安全管理者							

学科目	災害看護・国際看護	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門分野
講師名	松本 洋美				学期	3年前期	
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>国境を越えて広がる感染症・自然環境問題、またはそれに伴う大規模災害は今や、一国で解決することは困難であり、グローバルな課題として捉えていかなければならない。</p> <p>人道支援の原則のもとに災害時は、活動場所・災害サイクル・対象者のニーズに合わせた援助を行うことが看護職者に求められている。このようなグローバルな視点と、災害看護・国際看護の基本的知識を学ぶことを目的とする。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害医療に関する基礎知識・災害サイクル各期の特徴・被災者の特性を学び、減災・防災を目的とした、看護師の果たすべき役割を理解する。</li> <li>2. 諸外国の多様な社会・文化・習慣と国際社会における平和や健康を脅かす現状を知り、国際看護の基礎知識とグローバルヘルス(地球規模の健康)を意識した活動の実際を理解する。</li> </ol> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 過去の災害の歴史と災害医療体制の変化、災害医療の基礎知識(CSCATTT・災害の種類・それに伴う傷病や健康被害)</li> <li>2. 災害急性期・亜急性期における医療と看護</li> <li>3. 災害慢性期における医療と看護</li> <li>4. 静穏気における看護として平時の備えの理解</li> <li>5. 災害時の心のケアと被災者の特性の理解・災害関連法規</li> <li>6. 地震災害看護の展開(事例を通して机上シミュレーション)</li> <li>7. ① 開発途上国を支援する国際協力のしくみである政府開発援助(ODA)の活動の理解 ② 世界三大感染症、貧困による健康問題と日本の医療と看護が果たす役割の理解 ③ 国際看護活動の実際と文化を考慮して看護の視点 ④ SDGsの理解と国際協力における今後の課題</li> <li>8. 終講試験</li> </ol>							講義 グループワーク 発表 講義
評価方法：終講試験							
テキスト：系統看護学講座 統合分野 看護統合と実践【3】災害看護学・国際看護学 第4版 医学書院							
参考図書：							
講師紹介：日本 DMAT・大阪 DMAT 登録隊員、東日本大地震災後方支援経験。 日本災害医学会会員							

学科目	災害看護・国際看護	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門分野
講師名	松本 洋美				学期	3年前期	
科目目標・内容							方法
<p>ねらい</p> <p>国境を越えて広がる感染症・自然環境問題、またはそれに伴う大規模災害は今や、一国で解決することは困難であり、グローバルな課題として捉えていかなければならない。人道支援の原則のもとに災害時は、活動場所・災害サイクル・対象者のニーズに合わせた援助を行うことが看護職者に求められている。このようなグローバルな視点と、災害看護学・国際看護学の基本的知識を学ぶことを目的とする。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害医療に関する基礎知識・災害サイクル各期の特徴・被災者の特性を学び、減災・防災を目的とした、看護師の果たすべき役割を理解する。</li> <li>2. 諸外国の多様な社会・文化・習慣と国際社会における平和や健康を脅かす現状を知り、国際看護学の基礎知識とグローバルヘルス(地球規模の健康)を意識した活動の実際を理解する。</li> </ol> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 過去の災害の歴史と災害医療体制の変化、災害医療の基礎知識(CSCATTT・災害の種類・それに伴う傷病や健康被害)</li> <li>2. 災害急性期・亜急性期における医療と看護</li> <li>3. 災害慢性期における医療と看護</li> <li>4. 静穏気における看護として平時の備えの理解</li> <li>5. 災害時の心のケアと被災者の特性の理解・災害関連法規</li> <li>6. 地震災害看護の展開(事例を通して机上シミュレーション)</li> <li>7. ① 開発途上国を支援する国際協力のしくみである政府開発援助(ODA)の活動の理解 ② 世界三大感染症、貧困による健康問題と日本の医療と看護が果たす役割の理解 ③ 国際看護活動の実際と文化を考慮して看護の視点 ④ SDGsの理解と国際協力における今後の課題</li> <li>8. 終講試験</li> </ol>							<p>講義</p> <p>グループワーク</p> <p>発表</p> <p>講義</p>
評価方法：終講試験							
テキスト：系統看護学講座 統合分野 看護統合と実践【3】 災害看護学・国際看護学 2020年改訂 医学書院							
講師紹介：日本DMAT・大阪DMAT登録隊員、東日本大地震災後方支援経験、 日本災害医学会会員 医療法人柏友会千代田クリニック看護師							